

2025(令和 7) 年度

事業報告

自 2025(令和 7)年 4月 1日(火)

至 2026(令和 8)年 3月31日(火)

社会福祉法人 大洋社

I 総括

令和 7 年度は、改正児童福祉法の施行をはじめとする制度改正により、こども・子育て支援の在り方が大きく転換する節目の年となりました。こども家庭庁のもと、「こどもまんなか社会」の実現に向けた施策が推進され、地域における包括的な支援体制の構築が求められています。

母子福祉分野においては、家庭環境の多様化や支援ニーズの複雑化が進む中で、ひとり親家庭支援や養育支援、虐待予防など、個別支援にとどまらない包括的な対応の重要性が一層高まっていることを感じた年度でした。

保育分野においては、少子化の進行と待機児童問題の解消による事業形態の変更や利用児童数の変化、保育人材の確保・定着といった課題に加え、保育の質の向上や安全対策、保護者支援の充実など、多面的な対応が求められました。

このような状況を踏まえ、当法人においては、「家族福祉」の理念のもと、こどもを中心としながらも家庭全体を支える支援の充実に令和7年度も取り組んでまいりました。

また、法人運営においては、理事長交代による新体制のもと、ガバナンスおよびコンプライアンスの強化、災害時対応を含むリスクマネジメントの充実を図り、社会環境の変化に柔軟に対応できる組織基盤の整備を進めております。

今後も、こどもと家族の幸せを願い、地域社会に必要とされる法人であり続けるよう、役職員一同力を合わせて取り組んでまいります。皆様のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2026(令和 8)年 3 月 31 日

社会福祉法人 大洋社

理事長 齋藤 弘美

Ⅱ 社会福祉法人大洋社の理念

- (1) 社会福祉法人大洋社は「児童福祉法」及び「児童憲章」を理念として、「母と子の幸せを守る」事業を行います。
- (2) 「児童福祉の理念」(児童福祉法)
- 第 1 条 全ての国民は、児童が心身ともに健やかに生まれ、且つ、育成されるよう努めなければならない。
- 2 全ての児童は等しくその生活を保障され、愛護されなければならない。
- (3) 「児童憲章」
- 児童は、人として尊ばれる。
児童は、社会の一員として重んぜられる。
児童は、よい環境のなかで育てられる。
- (4) 目的
- この社会福祉法人は、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、心身ともに健やかに育成され、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援することを目的として、次の社会福祉事業を行う。

Ⅲ 法人の概要

(1) 法人の概要

法人名	社会福祉法人 大洋社
所在地	〒143-0013 東京都大田区大森南四丁目 10 番4号
認可年月日	昭和 17 年 11 月 9 日厚生省東<第 374 号
設立年月日	昭和 27 年 5 月 20 日厚生省東社第 356 号

(2) 登記の状況

- ① 目的および業務
ア 変更の有無 無し
- ② 名称
ア 変更の有無 無し
- ③ 事務所
ア 変更の有無 無し
- ④ 代表権を有する者の氏名、住所および資格
ア 変更の有無 有り
イ 内容 役員(理事長)に関する事項
片山英樹退任、齋藤弘美就任(令和7年6月20日変更、6月25日登記)
- ⑤ 存立時期又は解散の事由を定めたときは、その時期および事由
ア 変更の有無 無し
- ⑥ 代表権の範囲又は制限に関する定めがあるときは、その定め
ア 変更の有無 無し
- ⑦ 資産の総額
ア 変更の有無 有り
イ 内容 資産の総額 507,660,984 円(令和 7 年 3 月 31 日変更、6 月 25 日登記)
- ⑧ その他
ア 変更の有無 無し

(3) 法人の沿革

年	摘 要
大正11年	内職婦人同盟各種相談事業開始
昭和11年	日の丸幼稚園開始
昭和17年11月 9日	財団法人日の丸厚生会設立 理事長 片山ハルエ
昭和17年11月 9日	財団法人日の丸厚生会母子寮開設
昭和25年 5月20日	財団法人日の丸母子寮を社会福祉法人大洋社豊島寮に組織変更
昭和26年 1月 9日	生活保護法更生施設豊島寮認可を受ける
昭和27年 1月 1日	生活保護法更生施設大森更生寮開設
昭和27年 3月27日	社会福祉法人設立登記 理事長 片山ハルエ
昭和27年 5月20日	財団法人日の丸厚生会を社会福祉法人に組織改正し大洋社と改称
昭和29年12月 2日	生活保護法による更生施設豊島寮を宿所提供施設に種類変更
昭和30年	大森支部に大洋診療所開設
昭和31年	アメリカ大使館婦人クラブの協力により大洋社子どもセンター開設
昭和34年 6月	大洋社子どもセンターを大森保育園と改称し、児童福祉法保育所の認可を受ける(定員60名)
昭和35年 1月 1日	生活保護法更生施設を生活保護法宿所提供施設に種類変更 宿所提供施設大森寮となる
昭和38年 3月31日	大洋社豊島寮を鉄筋コンクリート4階建に改築(定員20世帯)
昭和38年 5月 1日	生活保護法による宿所提供施設豊島寮を、児童福祉法による児童福祉施設母子寮に種類変更
昭和39年 3月31日	大森寮を鉄筋コンクリート4階建に改築(定員20世帯)
昭和40年 4月 1日	生活保護法宿所提供施設大森寮を児童福祉法児童福祉施設母子寮大洋社大森寮として認可を受ける
昭和43年 4月	大森保育園を重量鉄骨2階建に改築(定員95名)
昭和52年	大洋診療所閉鎖
昭和53年 4月	飛行機騒音公害防止条例により園舎一部を取り壊す
昭和54年10月	小規模保育所、定員30名に内容変更
昭和57年 3月20日	昭和57年3月20日創設者片山ハルエの死亡
平成 5年 4月 1日	大田区立母子寮仲池上寮を運営受託する
平成 6年 1月15日	大田区立母子寮仲池上寮を移転改築して、大田区立母子寮久が原と名称変更し、引き続き運営受託する
平成 8年11月20日	役員等改選により飯島益美に変更
平成10年 1月31日	大洋社大森寮を廃止
平成10年 2月 1日	母子寮大田区立ひまわり苑を運営受託
平成10年 4月 1日	練馬区立母子生活支援施設[]を運営受託 大田区立母子寮久が原を大田区立コスモス苑に改称
平成11年 4月 1日	児童福祉法による大森保育園を改築(定員59名)
平成12年 4月 1日	大森保育園の定員を60名に変更

平成15年11月14日	社会福祉法人大洋社 法人分割により秋津町より大田区大森南へ主たる事務所の登記
平成16年 3月19日	第二種社会福祉事業大田区立ひまわり苑子育て短期支援事業追加申請
平成16年 4月 1日	第二種社会福祉事業練馬区立母子生活支援施設 子育て短期支援事業申請
平成17年 8月 1日	子育て短期支援事業(夜間養護等事業 練馬区立練馬子ども家庭支援センター)の受託開設
平成18年 1月 5日	第二種子育て短期事業(夜間養護等事業 練馬区立練馬子ども家庭支援センター)の定款変更を申請し、18年1月5日受理される
平成18年 1月27日	事業追加の登記
平成18年 9月1日	洗足池保育園を民立民営として開設
平成18年11月20日	役員等改選により理事長 飯島益美より片山英樹に変更
平成19年 4月 1日	大田区立ひまわり苑子育て支援分室をコスモス苑に設置
平成21年 6月 1日	大田区立コスモス苑子育て短期支援事業開設
平成24年 6月 1日	保育室サン御園を民立民営として開設 一時預かり事業・定期利用保育事業
平成25年 4月 1日	大田区子ども家庭支援センター一時保育室を委託事業として開設 一時預かり事業・定期利用保育事業
平成25年 4月 1日	ファミリー・サポート・センター事業を委託事業として開始
平成25年 4月 1日	子育て短期支援事業のトワイライト事業のみ、練馬区全体の事業統合にて廃止
平成28年 4月 1日	大田区子ども家庭支援センター一時保育室の一時預かり事業の定員増(10名→12名)
平成28年 4月 1日	ファミリー・サポート・センター事業を法改正にて公益事業より第二種社会福祉事業へ変更(子育て援助活動支援事業)
令和 3年 3月31日	練馬区豊玉小ねりっこクラブ、練馬区立豊玉学童クラブの事業終了
令和 5年 4月 1日	大森保育園定員減(60名→56名)
令和 5年 4月 1日	大田区立コスモス苑と大田区立ひまわり苑で母子一体型ショートケア事業開始
令和 6年 4月 1日	ショートステイ事業「子ども型」に加えて「親子入所型」の支援を開始
令和 7年 4月 1日	練馬区立母子生活支援施設にて練馬区女性および母子地域生活支援事業開始(定員2世帯)
令和 7年 4月 1日	練馬区立母子生活支援施設定員数変更(20世帯→18世帯)
令和 7年 4月 1日	保育室サン御園と大森一時保育室の定期利用保育事業定員変更(6名→3名) 上記に伴い一時預かり事業の定員数増員(サン御園 10名→13名・大森一時保育室12名→15名)
令和 7年 6月20日	役員等改選により理事長 片山英樹より齋藤弘美に変更

(4) 事業所の状況

施設名 法的根拠	所在地	種別	事業開始 年月日	定員	建物
大森保育園 社会福祉法第2条第3項第2号 児童福祉法第39条	東京都大田区 大森南4-10-4	保育所	S34.6.1	56名	敷地面積:467.72㎡ 建築面積:280.93㎡ 延床面積:707.39㎡ 構造:鉄筋コンクリート造3階建
洗足池保育園 社会福祉法第2条第3項第2号 児童福祉法第39条	東京都大田区 南千束3-24-15	保育所	H18.9.1	45名	敷地面積:453.06㎡ 建築面積:218.93㎡ 延床面積:388.20㎡
大田区立ひまわり苑 社会福祉法第2条第2項第2号 児童福祉法第38条		母子生活 支援施設	H10.2.1	20世帯	敷地面積:1,914.40㎡ 建築面積:1,588.57㎡ 延床面積:1,552.77㎡ 構造:鉄筋コンクリート造3階建
子育て短期支援事業 (ひまわり苑) 社会福祉法第2条第3項第2号 児童福祉法第34条の九		緊急一時保護:1室			
		短期入所 生活援助 事業	H15.4.1	4名	※注1:ショートステイ定員の範囲内(令和8年4月より廃止) ※注2:母子生活支援施設の空室利用1世帯
		夜間養護 等事業	//	6名	
		(休日デイ)	H24.12.5	4名	
		(要支援)	H30.4.1	※注1	
(母子ショート ケア)		R5.4.1	※注2		
大田区立コスモス苑 社会福祉法第2条第2項第2号 児童福祉法第38条		母子生活 支援施設	H5.4.1	20世帯	敷地面積:1,678.90㎡ 建築面積:1,401.75㎡ 延床面積:1,309.62㎡ 構造:鉄筋コンクリート造4階建
緊急一時保護:1室					
子育て短期支援事業コスモス苑 社会福祉法第2条第3項第2号 児童福祉法第34条の九		短期入所 生活援助 事業	H19.4.1	3名	※注1:母子生活支援施設の空室利用1世帯
		夜間養護 等事業		3名	
		(休日デイ)	H24.12.5	3名	

		(母子ショートケア)	R5.4.1	※注1	
練馬区立母子生活支援施設 社会福祉法第2条第2項第2号 (児童福祉法第38条)		母子生活支援施設	H10.4.1	18世帯	敷地面積:1,332.72 m ² 延床面積:1,594.49 m ² 構造:鉄筋コンクリート造3階建 (一部鉄骨造)
子育て短期支援事業 社会福祉法第2条第3項第2号 児童福祉法第34条の九		短期入所生活援助事業 (親子ショート含む)	H16.4.1	5名	
		(要支援)	H29.12.1		
練馬区女性および母子地域生活支援事業		公益事業	R7.4.1	2世帯	陽だまり荘内
保育室サン御園 社会福祉法第2条第3項第2号	東京都大田区 西蒲田7丁目49番2号 大田区社会福祉センター1階	一時預かり事業	H24.6.1	13名	保育室・乳幼児室・事務室 117.74 m ²
		定期利用保育事業		3名	定期利用保育事業は一時預かり事業に含んで事務対応
大田区子ども家庭支援センター 大森一時保育室 社会福祉法第2条第3項第2号	東京都大田区 大森北4丁目16番5号 大田区子ども家庭支援センター1階	一時預かり事業	H25.4.1	15名	保育室・乳幼児室・事務室 95.14 m ²
		定期利用保育事業		3名	定期利用保育事業は一時預かり事業に含んで事務対応
ファミリー・サポート・センター事業 社会福祉法第2条第3項第2号 児童福祉法第6条の3第14項	東京都大田区 大森北4丁目16番5号 大田区子ども家庭支援センター1階	子育て援助活動支援事業	H25.4.1		事務室 延床面積 21.6 m ²

Ⅳ 組織運営

1. 定款（別添）

2. 理事、監事、評議員、評議員選任・解任委員会、会長、顧問

(1) 定員および現況 令和 8 年 3 月 31 日現在

区分	定数	現員	欠員	摘要
理 事	6 名	6 名	0 名	
監 事	2 名	2 名	0 名	
評議員	7 名	7 名	0 名	
評議員選任・解任委員	4 名	4 名	0 名	外部 2 名、監事 1 名、事務局員 1 名
会 長	1 名	1 名	0 名	理事職
顧 問	—	—	—	

(2) 理事および監事

役職名	氏名	当初就任年月日	役員就任区分	附記
理 事	齋藤 弘美	平成 20 年 11 月 20 日 (理事長:令和 7 年 6 月 20 日)	地域福祉関係者	理事長
理 事	近藤 真弓	令和 3 年 6 月 17 日 (常務理事:令和 7 年 6 月 20 日)	施設経験者	常務理事
理 事	片山 英樹	平成 16 年 3 月 27 日	学識経験者	会長
理 事	穴倉 正光	平成 20 年 11 月 20 日	学識経験者	
理 事	阿部 雅子	令和 5 年 6 月 20 日	施設経験者	
理 事	玉木 ひとみ	令和 7 年 6 月 20 日	地域福祉関係者	
監 事	根本 道夫	平成 28 年 4 月 1 日	財務諸表読解者	
監 事	加藤 英三	令和 7 年 6 月 20 日	学識経験者	

(3) 評議員

役職名	氏名	当初就任年月日	役員就任区分
評議員	川端 法子	平成 16 年 3 月 27 日	地域福祉関係者
評議員	守安 富美子	平成 20 年 11 月 20 日	地域福祉関係者
評議員	平林 茂	平成 22 年 11 月 20 日	地域代表者
評議員	林 吉紀	令和 3 年 6 月 17 日	地域代表者
評議員	野口 多加志	令和 7 年 6 月 20 日	地域代表者
評議員	佐藤 香代	令和 7 年 6 月 20 日	弁護士
評議員	綱島 明子	令和 7 年 6 月 30 日	地域福祉関係者

(4) 評議員選任・解任委員会委員

役職名	氏名	当初就任年月日	役員就任区分
委員	加藤 英三	令和 7 年 6 月 20 日	監事
委員	野口 弘子	令和 6 年 6 月 24 日	地域
委員	板橋 晴美	令和 3 年 1 月 6 日	地域
委員	内藤 季代	令和 5 年 6 月 5 日	事務局員 委員長

(5) 会長

役職名	氏名	当初就任年月日	役員就任区分
会長	片山 英樹	平成 16 年 3 月 27 日 会長職 令和 7 年 6 月 20 日	(福)大洋社理事

(6) 顧問

役職名	氏名	当初就任年月日	役員就任区分
顧問	—	—	—

V 理事会、評議員会、評議員選任解任委員会、監事監査会、およびその他の会の状況

(1) 理事会の開催状況

◎令和 7 年 6 月 令和 7 年度第 1 回理事会

(1) 趣旨(議題) 各種議案に関する審議・決議を行う。

(2) 招集日 令和 7 年 5 月 16 日(金)

(3) 開催日 令和 7 年 6 月 4 日(水) 14 時 00 分～15 時 10 分

(4) 場所 大田区立ひまわり苑 コミュニティルーム、

(5) 議案 第 1 号議案 2024(令和 6)年度 事業報告の件
第 2 号議案 2024(令和 6)年度決算(計算書類等および財産目録)の件
監事監査結果報告を含む

第 3 号議案 定款第 12 条に基づく定時評議員会招集等の件

第 4 号議案 評議員会への理事選任候補の提出の件

第 5 号議案 評議員会への監事選任候補の提出の件

第 6 号議案 評議員候補者の推薦

第 7 号議案 評議員選任・解任委員会の決議の省略の件

第 8 号議案 役員賠償責任保険の件

(6) 報告事項 報告事項 1 経過報告

報告事項 2 理事長および常務理事の職務執行状況

報告事項 3 施設状況報告

(7) 記事 すべての議題が決議される。

◎令和 7 年 6 月 理事会 令和 7 年度第 2 回理事会

- (1) 趣旨(議題) 各種議案に関する審議・決議を行う。
- (2) 招集日 省略(全員の同意書有)
- (3) 開催日 2025(令和 7)年 6 月 20 日 金曜日 16 時 30 分～17 時 30 分
- (4) 場所 大田区立ひまわり苑 コミュニティルーム、
- (5) 議案 第 1 号議案:理事長 1 名選定の件
第 2 号議案:業務執行理事 1 名選定の件
第 3 号議案:会長 1 名選定の件
第 4 号議案:評議員選任・解任委員 1 名の選任の件
- (6) 記事 すべての議題が決議される。

◎令和 7 年 6 月 理事会 決議の省略 令和 7 年度第 3 回理事会

- (1)趣旨(議題) 令和 7 年 6 月 21 日付社会福祉法第 45 条の 14 第 9 項が準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第 96 条の規定に基づき、理事会の決議の省略で審議を行うことを理事長が提案し、監事全員の異議がなかったことおよび理事全員の同意が得られた。
- (2)提案日(送付日) 令和 6 年 6 月 21 日(土)
- (3)理事会の決議があったものとみなされた事項の内容
第 1 号議案 評議員選任・解任委員会への評議員候補者 1 名推薦の件
評議員 比戸二郎氏の辞任に伴う、後任の評議員に綱島明子氏を推薦すること
第 2 号議案 評議員選任・解任委員会の決議の省略の件
前号議案にかかる評議員の選任のための評議員選任・解任委員会を決議の省略の形式で開催すること
- (4)同意日(決議日) 令和 7 年 6 月 24 日(火)
- (5)方 法 配布した資料をもとに関係職員が説明し、書類の記名および捺印
- (6)記 事 同意(承認)

◎令和 7 年 11 月 理事会 令和 7 年度第 4 回理事会

- (1)趣旨(議題) 各種議案に関する審議・決議を行う。
- (2)招集日 令和 7 年 10 月 9 日(木)
- (3)開催日 令和 7 年 11 月 10 日(月) 14 時 00 分～15 時 10 分
- (4)場所 法人本部 および WEB 会議(Zoom による)
- (5)決議事項 第 1 号議案 令和 7 年度資金収支補正予算案(第 1 次)の件
第 2 号議案 規程の改正について
- (6)報告事項 報告事項 1 経過報告
報告事項 2 理事長および常務理事の職務執行状況
報告事項 3 施設状況報告
- (7)記事 すべての議題が決議される。

◎令和 8 年 3 月 理事会 令和 7 年度第 5 回理事会

- (1)趣旨(議題) 各種議案に関する審議・決議を行う。
- (2)招集日 令和 8 年 3 月 8 日 日曜日
- (3)開催日 令和 8 年 3 月 25 日 水曜日 14 時 00 分～15 時 40 分
- (4)場所 法人本部 および WEB 会議(Zoom による)

- (5) 決議事項 第 1 号議案 令和 7 年度 資金収支補正予算案(第 2 次)の件
 第 2 号議案 令和 8 年度 事業計画案の件
 第 3 号議案 令和 8 年度 資金収支予算案(当初)の件
 第 4 号議案 規程の改正の件
 第 5 号議案 管理職の人事の件
- (6) 報告事項 報告事項 1 経過報告
 報告事項 2 理事長および常務理事の職務執行状況
 報告事項 3 施設状況報告

(2) 評議員会の開催状況

◎令和 7 年 6 月 定時評議員会

- (1) 趣旨(議題) 各種議案に関する審議・決議を行う。
- (2) 招集日 令和 7 年 6 月 4 日(水)
- (3) 開催日 令和 7 年 6 月 20 日(金) 14 時 00 分～14 時 55 分
- (4) 場所 大田区立ひまわり苑 コミュニティルームおよび各役員事務所より
 オンライン会議システム(Zoom)を利用。
- (5) 報告事項 経過報告
 報告事項第 1 号 2024(令和 6)年度、事業報告の件
 報告事項第 2 号 2025(令和 7)年度、事業計画の内容
 報告事項第 3 号 2025(令和 7)年度、資金収支予算書(当初)
- (6) 決議事項 第 1 号議案 2024(令和 6)年度 決算(計算書類および財産目録)の件
 監事監査報告を含む
 第 2 号議案 理事 6 名の選任について
 第 3 号議案 監事 2 名の選任について
- (7) 記事 すべての議題が決議される。

(3) 評議員選任・解任委員会

①令和 7 年度 第 1 回

- (1) 趣旨(議題) 評議員選任・解任委員会運営規程第 9 条および第 11 条に基づき、
 評議員選任・解任委員会決議の省略により審議を行うことを提案し、評議員選
 任・解任委員全員の同意が得られた。
- (2) 提案日(送付日) 令和 3 年 6 月 5 日(木)
- (3) 評議員選任・解任委員会の決議のあったものとみなされた事項の内容
 第 1 号議案 評議員 7 名選任の件
- (4) 同意日(決議日) 令和 7 年 6 月 19 日(木)
- (5) 方 法 配布した資料をもとに関係職員が説明し、書類の記名および捺印
- (6) 記 事 同意(承認)

①令和 7 年度 第 2 回

- (1) 趣旨(議題) 評議員選任・解任委員会運営規程第 9 条および第 11 条に基づき、
 評議員選任・解任委員会決議の省略により審議を行うことを提案し、評議員選
 任・解任委員全員の同意が得られた。
- (2) 提案日(送付日) 令和 7 年 6 月 25 日(水)
- (3) 評議員選任・解任委員会の決議のあったものとみなされた事項の内容
 第 1 号議案 評議員 1 名選任の件
- (4) 同意日(決議日) 令和 7 年 6 月 30 日(月)

- (5) 方法 配布した資料をもとに関係職員が説明し、書類の記名および捺印
(6) 記事 同意(承認)

(4) 監事監査会

- ① 令和7年5月22日(木)10時00分～15時00分
ア 会場 法人本部
イ 監事出席者 根本 道夫、宮沢 成実
ウ 理事出席者 齋藤 弘美、近藤 真弓、阿部 雅子
エ 内容 ・2024(令和6)年度 事業報告書
・2024(令和6)年度 決算(計算書類および財産目録)の件

(5) 法人連絡会

法人連絡会は理事会や評議員会での決議を受けて、法人運営や事業展開の報告を確認および検討することを目的として会を開催する。

① 令和7年4月

- (1)開催日 令和7年4月18日(金)12時30分～13時00分
(2)会 場 オンラインによる開催
(3)内容(主)、方向性、および結果
① 理事長及び常務理事の職務執行状況
② 事業部状況報告
③ 決算状況
④ 監事監査会について
⑤ 6月第2回の理事会について

② 令和7年5月

- (1)開催日 令和7年5月16日(金)12時30分～13時00分
(2)会 場 オンラインによる開催
(3)内容(主)、方向性、および結果
① 監事監査会準備状況
② 役員退任者への対応について
③ 理事会と評議員会の開催方法について(ひまわり苑での開催)

③ 令和7年6月

- (1)開催日 令和7年6月4日(水)15時30分～16時00分
(2)会 場 大田区立ひまわり苑コミュニティールーム
(3)内容(主)、方向性、および結果
① 6月20日の評議員会と理事会について
② 理事長交代にかかる手続等確認

④ 令和7年7月

- (1)開催日 令和7年7月18日(金)12時30分～13時00分
(2)会 場 オンライン会議
(3)内容(主)、方向性および結果
① 理事長及び常務理事の職務執行状況
② 事業部状況報告

- ③ 両事業部管理職参加の会議について
- ④ 11月理事会の日程案と今後のスケジュールについて

⑤ 令和7年8月

- (1) 開催日 令和7年8月13日(水)13時00分~13時30分
- (2) 会 場 オンライン会議
- (3) 内容(主)、方向性および結果
 - ① 理事長及び常務理事の職務執行状況
 - ② 事業部状況報告
 - ③ 理事会について 日程・議案確認

⑥ 令和7年9月

- (1) 開催日 令和7年9月16日(火)12時30分~13時00分
- (2) 会 場 オンライン会議
- (3) 内容(主)、方向性および結果
 - ① 理事長及び常務理事の職務執行状況
 - ② 事業部状況報告 会計状況含む
 - ③ 介護・保育業界・福祉行政説明(理事長)

⑦ 令和7年10月

- (1) 開催日 令和7年10月18日(水)13時00分~13時30分
- (2) 会 場 オンライン会議
- (3) 内容(主)、方向性および結果
 - ① 理事長及び常務理事の職務執行状況
 - ② 事業部状況報告 会計状況含む
 - ③ 11月理事会の招集通知、資料発送について
 - ④ 31アイスクリームの社会貢献について説明(理事長)

⑧ 令和7年11月

- (1) 開催日 令和7年11月12日(水)13時00分~13時30分
- (2) 会 場 オンライン会議
- (3) 内容(主)、方向性および結果
 - ① 理事長及び常務理事の職務執行状況
 - ② 事業部状況報告 人事状況
 - ③ 3月理事会の日程案・議案検討

⑨ 令和7年12月

- (1) 開催日 令和7年12月11日(木)12時30分~13時00分
- (2) 会 場 オンライン会議
- (3) 内容(主)、方向性および結果
 - ① 理事長及び常務理事の職務執行状況
 - ② 事業部状況報告 保育園事業部の工事について
 - ③ 3月理事会準備について

⑩ 令和8年1月

- (1) 開催日 令和8年1月13日(木)13時00分~13時30分
- (2) 会 場 オンライン会議
- (3) 内容(主)、方向性および結果
 - ① 理事長及び常務理事の職務執行状況

- ② 事業部状況報告
- ③ 3月理事会に向けての予算関係、補正予想
- ④ 会長職状況報告

⑪令和8年2月

(1)開催日 令和8年2月12日(木)13時00分～13時30分

(2)会 場 オンライン会議

(3)内容(主)、方向性および結果

- ① 理事長及び常務理事の職務執行状況
- ② 事業部状況報告
- ③ 3月理事会の招集通知等について

⑫令和8年3月

(1)開催日 令和8年3月11日(水)13時00分～13時30分

(2)会 場 オンライン会議

(3)内容(主)、方向性および結果

- ① 理事長及び常務理事の職務執行状況
- ② 事業部状況報告
- ③ 規程の改正 日本版 DBS への対応等
- ④ 次年度の役員会日程と返信状況について

VI その他

(1) 理事長及び常務理事等の職務執行状況

- ① 理事会にて報告および承認(了承)
- ② 法人連絡会にて報告

(2) 情報開示

① ホームページ

ア アドレス <http://www.taiyosha.or.jp/>

イ メールアドレス Mail:taiosha@gamma.ocn.ne.jp

ウ 開示内容

- ・ 定款
- ・ 役員名簿
- ・ 役員報酬規程
- ・ 事業報告および計算書類・財産目録
- ・ 含む 公益的取組内容
- ・ 監事監査報告書
- ・ その他 行政や業界団体から指示・要望があった内容

② 業界

ア 社会福祉法人全国社会福祉協議会・全国社会福祉法人経営者協議会

イ 開示内容

- ・ 法人概要
- ・ 事業報告および計算書類・財産目録
- ・ 公益的取組内容

③ 法人内事業所

ア 開示

イ 開示内容

- ・ 法人の基本的な内容の規定
- ・ 事業報告および計算書類・財産目録
- ・ 公益的取組内容
- ・ 実施している施設の第三者評価報告書

(3) 保険

- ① 法人において、役員等に関する役員賠償責任保険に加入
- ② 施設において、施設賠償責任保険に加入
- ③ 施設において、行事等の賠償責任保険に加入

2025(令和 7) 年度

事業報告

自 2025(令和 7)年 4月 1日(火)

至 2026(令和 8)年 3月31日(火)

社会福祉法人 大洋社

母子事業部

I 母子事業部 共通

i 総括

令和7年度は、経営の健全性の確保を基本に据え、総務部・人材育成部・業務管理部の各委員会活動を継続して行ってまいりました。その結果、人事・財務・情報の各管理について一定の整備を進めることができ、組織運営の基盤づくりにつなげることができたと考えております。また、取り組みの中で見えてきた課題については、次年度の計画に反映いたしました。

母子生活支援施設においては、ひまわり苑およびコスモス苑の指定管理者選定において、令和8年度から5年間の指定を受けることができました。これまでの取り組みが評価されたものと受け止めております。一方、練馬区立母子生活支援施設では、「女性および母子地域生活支援事業」が新たに開始され、支援の幅が広がりました。また、公益的取組として、「れいんぼう（小学生対象）」「JOY（中学生～若者支援）」「ママれいんぼう（ひとり親世帯支援）」を実施し、食支援・生活相談・居場所づくりを通じた孤立防止に取り組みしました。さらに、「子ども虹の架け橋プロジェクト」では、フードパントリーを中心に、企業や個人から寄付された食品や衣料品等を子ども食堂や支援団体を通じて必要な家庭へ届けるとともに、必要な方には相談支援機関へつなぐこともできました。

在宅サービスでは、母子一体型ショートケアや親子ショートなど、子どもだけでなく保護者にも寄り添うサービスの充実を図ってまいりました。行政の要請に応じて事業の形を柔軟に見直しながら、地域福祉の一端を担う取り組みを進めてまいりました。

さらに、一時預かり保育の予約やファミリー・サポート事業での登録電子申請などでは、昨今のデジタル化に合わせての仕組みを整え、利用者の利便性に応えました。

以上のように、令和7年度は着実に取り組みを積み重ねるとともに、課題も整理された一年となりました。今後も地域のニーズに丁寧に向き合いながら、より良い支援の提供と安定した運営に努めてまいります。

（重点事項実施状況）

① ガバナンス体制の強化

組織強化については、連絡調整会議および職員会議等を通じて、法人理念の浸透および法令順守の徹底を図りました。

・連絡調整会議や委員会活動は、ii、iiiにて報告。

② 人材育成体制の強化

職員育成のための取組として、キャリア段位の活用や専門性向上のための事例検討などを活用したOJTを実施しました。また、外部の学会等へ以下の通り、参加して発表を行いました。

・法人研修実施。

・心理職養成のため、他法人と協同で研修を実施

・学会への参加

・「日本子ども虐待防止学会」の北海道大会に申請が通り参加した。内容は、母子生活支援施設

の実親によるパーマネンシー保障として、妊産婦支援と再統合支援の実践事例をチーム発表した。
・FLEC(すべての子どもたちに家庭での生活を:FamilyLifeForEveryChild)に参加した。
・全国母子生活支援施設協議会の全国大会の第一分科会にて、母子生活支援施設の帰郷強化のためにマネジメント視点の必要性について企画運営した。

③ 業務効率化とSDGsの推進、危機管理体制の強化

- ・勤怠管理システム導入の検討
- ・人材育成プロジェクトにおいて、各事業所の管理職が企画・提案を策定。2月に各事業所の取組発表を参集型で実施。
- ・法人全体での会議実施、危機管理についての情報共有

ii 連絡調整会議

(1) 会議目的と実施状況

母子事業部で実施している連絡調整会議は理事会や評議員会等、また法人連絡会での決議や検討内容を受け、母子事業部における運営や施設運営の展開状況の報告、確認および検討することを目的として会を開催しています。

(2) 会議の開催状況

① 4月開催

ア 開催日時 令和7年4月15日 火曜日 10時00分～
会場 オンライン会議

イ 内容

- ・伝達事項
 - 危機管理について
 - 本年度事業開始について
 - 理事会、監事監査、定時評議員会について
 - 総務日程について
 - 事業報告について
 - 人材育成PJ、法人内研修、各種提出物の提出期限について
- ・施設(事業所)報告事項
 - 各施設(事業所)報告
 - 利用者状況、プログラム等状況
 - 危機管理事項
 - 危機管理(事故・インシデント・アクシデント)、要望・苦情等、情報管理
 - 新型コロナウイルス
 - 総務的運営(労務・関係・庶務・行政関係)状況
 - 施設(事業所)の特筆すべき事項、日程およびその内容
 - 支援 業務管理部
 - その他
- ・委員会
 - 総務委員会、制度企画委員会、人材育成委員会、地域福祉委員会

危機管理委員会（危機管理、要望等解決、情報管理）
業務向上委員会
（家族、乳幼児、児童、子育て、一時預かり、QOL、公益）

ウ 今後の予定

② 5月開催

ア 開催日時 令和7年5月14日 水曜日 10時00分～
会場 オンライン会議

イ 内容

・伝達事項

危機管理・感染症等について
理事会、監事監査、定時評議員会について
総務委員会日程
事業報告と決算書について
人材育成PJ、法人内研修
人事考課 前期について
小さな貝の家委員会について

・施設(事業所)報告事項

各施設(事業所)報告
利用者状況、プログラム等状況
危機管理事項
危機管理(事故・インシデント・アクシデント)、要望・苦情等、情報管理
総務的運営(労務・関係・庶務・行政関係)状況
施設(事業所)の特筆すべき事項、日程およびその内容
支援 業務管理部
その他

ウ 今後の予定

③ 6月開催

ア 開催日時 令和7年6月10日 火曜日 10時00分～
会場 オンライン会議

イ 内容

・伝達事項

危機管理について
賞与支給について
理事長交代に関連した諸手続きについて
人材育成PJ、法人内研修について
小さな貝の家委員会について

・施設(事業所)報告事項

各施設(事業所)報告
利用者状況、プログラム等状況
危機管理事項
危機管理(事故・インシデント・アクシデント)、要望・苦情等、情報管理
総務的運営(労務・関係・庶務・行政関係)状況
施設(事業所)の特筆すべき事項、日程およびその内容
支援 業務管理部
その他

ウ 今後の予定

④ 7月開催

ア 開催日時 令和7年7月7日 月曜日 10時00分～

会場 オンライン会議

イ 内容

・伝達事項

危機管理について

総務委員会日程

銀行名義変更手続きについて

法人内研修について

・施設(事業所)報告事項

各施設(事業所)報告

利用者状況、プログラム等状況

危機管理事項

危機管理(事故・インシデント・アクシデント)、要望・苦情等、情報管理

総務的運営(労務・関係・庶務・行政関係)状況

施設(事業所)の特筆すべき事項、日程およびその内容

支援 業務管理部

その他

ウ 今後の予定

⑤ 8月開催

ア 開催日時 令和7年8月13日 水曜日 10時00分～

会場 オンライン会議

イ 内容

・伝達事項

危機管理について

総務委員会日程

社会保険関係について

従事者共済会の改定

勤務時間と通勤について

家庭福祉研究会の研修、人材育成PJ中間報告、管理職研修について

・施設(事業所)報告事項

各施設(事業所)報告

利用者状況、プログラム等状況

危機管理事項

危機管理(事故・インシデント・アクシデント)、要望・苦情等、情報管理

総務的運営(労務・関係・庶務・行政関係)状況

施設(事業所)の特筆すべき事項、日程およびその内容

支援 業務管理部

その他

ウ 今後の予定

⑥ 9月開催

ア 開催日時 令和7年9月10日 水曜日 10時00分～

会場 オンライン会議

イ 内容

・伝達事項

危機管理について

育児・介護休業法改正関連

バス代などの変更について

管理職研修について

内部監査日程

・施設(事業所)報告事項

各施設(事業所)報告

利用者状況、プログラム等状況

危機管理事項

危機管理(事故・インシデント・アクシデント)、要望・苦情等、情報管理

総務的運営(労務・関係・庶務・行政関係)状況

施設(事業所)の特筆すべき事項、日程およびその内容

支援 業務管理部

その他

・委員会

総務委員会、制度企画委員会、人材育成委員会、地域福祉委員会

危機管理委員会(危機管理、要望等解決、情報管理)

業務向上委員会

(家族、乳幼児、母児童、母子育て、一時預かり、QOL、公益)

ウ 今後の予定

⑦ 10月開催

ア 開催日時 令和7年10月7日 火曜日 10時00分～

会場 オンライン会議

イ 内容

・伝達事項

危機管理について

理事会について

従事者共済会掛金について

育児・介護休業法の施行による職員への調査

法人内研修、行動考課表提出について、後期内部監査について

公開講座について

・施設(事業所)報告事項

各施設(事業所)報告

利用者状況、プログラム等状況

危機管理事項

危機管理(事故・インシデント・アクシデント)、要望・苦情等、情報管理

総務的運営(労務・関係・庶務・行政関係)状況

施設(事業所)の特筆すべき事項、日程およびその内容

支援 業務管理部

その他

ウ 今後の予定

⑧ 11月開催

ア 開催日時 令和 7 年 11 月 12 日 水曜日 10 時 00 分～
会場 オンライン会議

イ 内容

・伝達事項

危機管理について
理事会資料保管について
賞与支給について
人材育成 PJ、法人内研修、後期内部監査について
公開講座について
年未年始について

・施設(事業所)報告事項

各施設(事業所)報告
利用者状況、プログラム等状況
危機管理事項
危機管理(事故・インシデント・アクシデント)、要望・苦情等、情報管理
総務的運営(労務・関係・庶務・行政関係)状況
施設(事業所)の特筆すべき事項、日程およびその内容
支援 業務管理部
その他

ウ 今後の予定

⑨ 12 月開催

ア 開催日時 令和 7 年 12 月 11 日 木曜日 10 時 00 分～
会場 オンライン会議

イ 内容

・伝達事項

危機管理について
理事会について
事業計画について
人材育成 PJ 発表会について、法人内研修について
公開講座について

・施設(事業所)報告事項

各施設(事業所)報告
利用者状況、プログラム等状況
危機管理事項
危機管理(事故・インシデント・アクシデント)、要望・苦情等、情報管理
総務的運営(労務・関係・庶務・行政関係)状況
施設(事業所)の特筆すべき事項、日程およびその内容
支援 業務管理部
その他

ウ 今後の予定

⑩ 1 月開催

ア 開催日時 令和 8 年 1 月 13 日 火曜日 10 時 00 分～
会場 オンライン会議

イ 内容

・伝達事項

危機管理について
理事会について
2,3月スケジュールについて
社会保険関係、医療費のお知らせについて
人材育成PJ発表会について

・施設(事業所)報告事項

各施設(事業所)報告
利用者状況、プログラム等状況
危機管理事項
危機管理(事故・インシデント・アクシデント)、要望・苦情等、情報管理
総務的運営(労務・関係・庶務・行政関係)状況
施設(事業所)の特筆すべき事項、日程およびその内容
支援 業務管理部
その他

・委員会

総務委員会、制度企画委員会、人材育成委員会、地域福祉委員会
危機管理委員会(危機管理、要望等解決、情報管理)
業務向上委員会
(家族、乳幼児、児童、子育て、一時預かり、QOL、公益)

ウ 今後の予定

⑪ 2月開催

ア 開催日時 令和8年2月12日 木曜日 10時00分～

会場 オンライン会議

イ 内容

・伝達事項

危機管理について
理事会、評議員会について
協会けんぽの健診について
非常勤職員等の契約更新について
研修報告等のまとめについて

・施設(事業所)報告事項

各施設(事業所)報告
利用者状況、プログラム等状況
危機管理事項
危機管理(事故・インシデント・アクシデント)、要望・苦情等、情報管理
総務的運営(労務・関係・庶務・行政関係)状況
施設(事業所)の特筆すべき事項、日程およびその内容
支援 業務管理部
その他

ウ 今後の予定

⑫ 3月開催

ア 開催日時 令和8年3月11日 水曜日 10時00分～

会場 オンライン会議

イ 内容

・伝達事項

- 危機管理について
- 理事会・評議員会について
- 社会保険料率の変更
- 年間勤務日数について
- 人事考課面接について

・施設(事業所)報告事項

- 各施設(事業所)報告
 - 利用者状況、プログラム等状況
- 危機管理事項
 - 危機管理(事故・インシデント・アクシデント)、要望・苦情等、情報管理
- 総務的運営(労務・関係・庶務・行政関係)状況
- 施設(事業所)の特筆すべき事項、日程およびその内容
- 支援 業務管理部
- その他

・委員会

- 総務委員会、制度企画委員会、人材育成委員会、地域福祉委員会
- 危機管理委員会 (危機管理、要望等解決、情報管理)
- 業務向上委員会
 - (家族、乳幼児、児童、子育て、一時預かり、QOL、公益)

ウ 今後の予定

iii 委員会活動

(1) 委員会の目的と実施状況

母子事業部の委員会は、課題別の検討委員会に各施設の職員がそれぞれ所属し、実施事業の基本課題に対して、人材育成も兼ねながら広い視野の取り組みを行っています。取り組み方法としては、施設で事前検討された内容を委員会で検討・審議し、母子事業部による決定事項は速やかに施設へフィードバックして職員全体に周知し、基本情報の効率的な伝達を図りました。

(2) 委員会の内容

部		委員会	内容	開催
本部機能	総務部	総務委員会	①経営・運営企画 ・経営方針立案および事業デザインを行い、事業計画の策定や事業計画、諸規定の検討。 ・理事会・評議員会、法人連絡会、運営会議、連絡調整会議準備。 ・ガバナンス（会計・労務・庶務等） ・広報誌・ホームページ 採用 ・事業計画、事業報告	原則 月 3 回 年 24 回
		制度企画委員会	第三者評価・指定管理等審査	適宜
	人材育成部	人材育成委員会	・人材育成プロジェクトとして、各事業所にて業務改善提案と、SDGsに関する取り組みを行った。 ・人材育成プロジェクト発表会を参集型で実施 ・研修については、法人内研修に力を入れ、階級別、担当別、心理専門研修等を実施。	年 6 回 2 月 に 実施
		地域福祉委員会	ゆうわ会・家庭福祉研究会等	適宜
支援	業務管理部	危機管理委員会 危機管理	・危機管理に関する基礎的な学習を行った。 ・安全計画の活用について確認し、実践を行った。 ・災害時の対応～安全確保と事業継続体制など～の学習を行った。	年 4 回 各事業 所は毎 月
		危機管理委員会 要望等解決	・子どもの権利擁護や意見表明権についての学習を行い、理解を深めた。 ・要望等苦情における基本姿勢や適切な対応について学び、それらを基に事例検討・ロールプレイ。 ・苦情に至った事象の傾向分析を行った。日頃の職員の対応・姿勢や支援・サービスの在り方に関する学習を実施。	
		危機管理委員会 情報管理	・外部からの問い合わせも含めた個人情報の取扱いについて学習した。 ・情報管理の視点からの、正しい記録の書き方と表現を学習。 ・情報管理に関する規程、個人情報保護マニュアルの理解と浸透を行った。	

支 援	業 務 管 理 部	業務向上委員会 家族	・親子関係再構築支援の理解を深め、支援の質の向上。 ・困難事例を用いて、アセスメント力を高めた。 ・ソーシャルワークの方法と技法について学習し、汲み取り力を高める取り組みを行った。 ・生活のしおりの改訂について検討。	年 4 回 各 事 業 所 は 毎 月
		業務向上委員会 乳幼児	・産前産後マニュアルを理解し、産前産後支援を学習した。 ・保育所保育指針を元に保育環境・保育プログラムの理解を深めた。事例を用いて環境設定の見直しを行い、実践に活かせるようにした。 ・不適切保育の定義や発生しやすい状況を学び、保育場面に応じた適切な関わり方の理解に努めた。 ・カリキュラムの改訂を行った。	
		業務向上委員会 児童	・こどもの権利という観点から、マルトリートメントや性教育についての学習をした。 ・アセスメントシートを用いて、児童のアセスメントの実践・活用方法の学習をした。 ・児童票の見直し。	
		業務向上委員会 子育て	・安全計画を基にした安全確保の方法について学習した。 ・発達障害について共通認識を持ったうえで、実際の保育園場に結び付けた実践的な学習をした。 ・要支援家庭やレスパイトで利用する世帯への支援についての学習をした。 ・ショートステイ保育記録の改訂に向けて見直しを行った。	
		業務向上委員会 一時預かり	・不適切保育防止のための学習において、実際の保育現場での事例をもとに、ロールプレイや意見交換を実施した。 ・こどもの成長発達段階の学習をし、発達段階に適した関わりや発達を促す働きかけについての理解を深め、実践に活かすことができた。 ・一時預かり児の傾向や特性に合わせて、安全面に配慮した保育室内の環境改善を実施することができた。	
		QOL	・すこやかだより年 4 回の発行 ・感染症に負けない体力づくりの学習、健康増進を図る習慣作りの意識を高める学習をした。 ・食中毒予防の調理方法と管理方法を学んだ。 ・メンタルヘルス課題につながる背景や原因について学んだ。自身の状態を見つめなおすための健康チェックシートを実施した。	
		地域支援	・アフターケアを含む地域支援の内容と進捗状況を共有し、検討した。 ・地域支援を必要とする方へのアプローチ方法の学習。相談対応の実践的な学習。 ・地域支援における心理支援の定義や支援内容について、実際に行っている取組の共有とあわせて、学習した。 ・公益的取組の目的の学習。活動内容の確認と振り返り。	

2025(令和7)年度

事業報告

自 2025(令和7)年 4月 1日(火)

至 2026(令和8)年 3月31日(火)

社会福祉法人 大洋社

ひまわり苑

Ⅱ 事業別サービス実施報告

ⅰ 母子生活支援施設（第 1 種社会福祉事業）

大田区立ひまわり苑

【事業概要】

施設名		大田区立 ひまわり苑
事業開始		平成 10 年 2 月 1 日
事業内容		18 歳未満の子どもを養育している母子家庭、または何らかの事情で離婚の届出ができないなど、母子家庭に準じる家庭の女性が、子どもと一緒に利用できる施設です。 緊急一時保護事業（1 世帯）、子育て支援事業を付帯事業で行っています。
世帯数		20 世帯
入退所	入 所 世 帯	6 世帯
	退 所 世 帯	5 世帯
	平均世帯構成	2.6 人
	母親平均年齢	36.0 歳
建物状況	構造	鉄筋コンクリート 地上 3 階建, 588.57 m ²
	内 訳	母子室 20 室 緊急一時室 1 室 ショート・トワイライト室 事務室・医務室・相談室・静養室・宿直室・警備員室・ 保育室兼多目的室・ 学習室・ オープンスペース・ 談話コーナー・屋上

Ⅰ 総括

母子生活支援施設ひまわり苑は、養育不安のある世帯や親子再統合支援等が必要な世帯、被虐待体験のある母子、メンタルケアが必要な母親、外国籍世帯と様々な事情を抱えた世帯が入所しています。その為、母親・子ども・心理の担当者が連携し、世帯の状況やニーズに応じて、利用者・児が自身の未来に向き合えるよう、スモールステップを意識した支援を行いました。母子関係調整を行うケースも多く、母子それぞれにアプローチして関係構築を図り、それぞれの課題解決支援を行い、母親の負担軽減や虐待防止に努めました。さらに、自立支援担当職員が電話や来所対応、居宅訪問等を通じて退所後の状況把握を行い、安心して生活を継続できるよう、切れ目のない支援体制の構築に取り組みました。

危機管理体制の強化では、防災訓練をより実践に近い形で実施し、また不審者対応訓練や応急救護など実践的な取り組みも行い、職員の危機管理意識の向上を図りました。

（重点事項実施状況）

こどもの意見表明支援と職員の汲み取り力の向上を目指し、こどもたちには、職員が汲み取りを意識し、日々の関わりの中や児童会など意見表明ができる場面を設け、いつでも気持ちを伝えられるようにしました。

職員が働きやすい職場環境の整備および業務の効率化を図るため、子ども担当打合せ、母親担当打合せ、リーダー会議を活用し、チームワークの向上と OJT の推進に取り組みました。これにより、先輩職員による人材育成の機会を確保するとともに、定期的な協議を通じた連携強化を図りました。

母子の多様なニーズに対応するため、職員の専門性向上を目的として、各職員がスキルに応じた研修・学習会に参加しました。研修内容については資料を作成し、全職員へ共有することで知識・技術の共有を図り、支援の質の向上に繋がりました。

2 良質なサービスの提供

（Ⅰ）利用者状況

ひまわり苑の利用者状況として、被虐待体験や養育不安を抱える世帯が多く、関係機関と連携をしながら支援を行いました。特に養育不安については、日々の見守りに加えて、居室介入や外出訓練等母親のニーズに沿ったモデリング支援を提供することで、養育スキルの向上を目指しました。また、メンタル面が不安定な方に対して、精神科の情報提供や通院の動機付けを図りました。また、施設内心理士と連携し、生活場面面接や心理相談にて心理支援を展開しました。

昨年度より配置された自立支援担当職員が、利用者と個別でアフターケアの説明を行い、電話や来所で近況を伺い、居宅訪問を行いました。今年度より、サポートグループとしての退所者の会「ひまわり休」を発足し、より一層アフターケアを充実することができました。

(2) 自立支援への取り組み

①母親支援

様々な逆境体験をもつ母親に対して、自己効力感を醸成できるよう、伴奏型の支援を行いました。日頃の関わりから得られた情報を基にアセスメントを行い、直面している課題のみならず課題が生じた背景を理解した上で支援に臨みました。支援においては、利用者が課題に向き合えるよう、スモールステップで自立支援計画を組み立て、日々の関りに落とし込み支援を実践しました。

また、こどもの発達に応じた関わり方や食生活に関する相談が多くあり、こども一人一人に寄り添う関わり方について助言を行いました。育児に負担を抱える世帯に対し、外出時や居室介入を行いマザリングの提供を通じて負担の軽減を行い、虐待防止を図りました。

養育不安から子との関わり方に悩む母親や、思春期特有の母子葛藤が見られる世帯に対して、母子関係調整を行いました。葛藤が生じる背景を理解し、アセスメントによって必要と判断した場合は、心理士によるこどもへのプレイセラピーを行い、そこでの様子を共有する中で、母子ともどもエンパワメントを行いました。

未離婚や養育費の取り決めがされないまま入所に至り、離婚調停を行う世帯には、離婚後も、面会交流等で元夫と関わる場面において悩みを抱える母親に対して、気持ちの受け止めや整理を行いました。退所が近い世帯には、転宅に関する不安を聞き取り、安定した転宅となるよう支援を行いました。

就労と育児の両立を維持するために、世帯の現状を踏まえた働き方をそれぞれに助言しました。求職活動では、ハローワークへの同行や就労講座の情報提供を行いました。未入所児童の世帯に対しては、施設内保育の受入れを行い就労の機会を提供、土曜日や勤務時間延長の際には、降園介助を行いました。未就労の世帯や転職を検討している世帯には、ママれいんぼうを通じて職業適性検査や就労に向けた準備機会の提供を行いました。

入所状況

	ひまわり苑
住宅困窮	5 世帯
生活困難	0 世帯
夫の暴力等	0 世帯
生活環境の不良	1 世帯
その他	0 世帯
計	6 世帯

退所状況

	ひまわり苑
公営住宅入居	1 世帯
民間住宅入居	4 世帯
他福祉施設	0 世帯
実家	0 世帯
その他	0 世帯
計	5 世帯

母親支援状況

	ひまわり苑
子育て支援	3,064 件
就労支援	247 件
生活支援	11,644 件
夫等との関係調整	94 件
家族等との関係調整	152 件
他機関との関係調整	164 件
その他の対人関係	6 件
入退所時の支援	59 件
上記に含まれない支援	2,543 件
計	17,973 件

世帯状況

		ひまわり苑
世帯	平均世帯人数	2.6 人
	母親平均年齢	36.0 歳
	子ども平均年齢	5.6 歳
令和 7 年度退所世帯平均在籍年数		27.0 月

生活保護受給状況(令和 8 年 3 月 31 日)

受給の有無		ひまわり苑	
無		7 人	
有	一部	1 人	3 人
	全部	2 人	
合計		10 人	

雇用形態（令和 8 年 3 月 31 日）

		ひまわり苑	
就 労	正社員	2人	7人
	パート・アルバイト	5人	
未 就 労	学生	0人	3人
	未就労	3人	
合計		10人	

職種（令和 8 年 3 月 31 日）

	ひまわり苑
専門・技術	1 人
事務	0 人
販売	0 人
軽作業	1 人
サービス	3 人
その他	2 人
合計	7 人

②児童支援

ひまわり苑の重点事項である「児童の意見表明」に力を入れ、要望の聞き取りを強化しました。児童会で「ようばうのききとり」の時間を設け、自分から意見を出すことに抵抗のある児童に対応するため、アンケートに記入する方法を取り入れました。

要望が出た際は、迅速に検討し対応を行いました。その結果、児童から、「楽しかった」「またやりたい」「今度はこんなことがしたい」等の肯定的な意見が出てくるようになりました。

自立支援計画の策定では、家族支援担当と情報共有をしたうえで児童面談での聞き取りを行い、母子の連動性を意識した目標設定を行いました。また、日々の学童保育の中で、自立支援計画の目標についての聞き取りや、学校生活や家族との関係性の中で不安に感じていることをこまめに聞き取り、日々の支援に繋げました。

児童の学習状況に合わせた個別学習支援計画の策定を行い、学童保育や週2回実施する学習会の中で個別学習支援計画に基づいた学習指導を実施しました。学習会と別に個別学習を希望する児童については、取り組みたい学習内容について聞き取りを行い、ニーズに合わせた学習指導を実施することで、継続的かつ意欲的に参加できる個別学習を提供することができました。

学童保育に参加していない児童に対しては、個別学習会を実施する等、コミュニケーションを図

りながら、学校や生活の見守りや介入を行いました。

退所児童の支援については、行事や公益的取り組みへの参加の声掛けを行いながら、様子や近況を確認し、丁寧に話を聞くことで、退所後もいつでも訪ねることができる場所になっています。

こども会活動では、社会体験の機会を提供するとともに、施設・年齢を超えた関わりの中で人間関係の構築を図りました。特に林間保育は、親元を離れて友人と協力しながら宿泊をすることで、児童の成長の機会となりました。

児童支援状況

		ひまわり苑
令和 7 年度 延在籍数	学童保育	2 人
支援 延人数	学童保育	291 人
	(地域児童)	56 人
	補助保育	11 人
	学習指導	137 人
	学習会(個別)	19 人
	児童会	22 人
	誕生会	22 人
	その他行事	0 人
	計	558 人

子ども会実施状況

月日	活 動 名	目 的 及 び 内 容
5 月 10 日	子ども会 入会式	ひまわり苑にて、他施設のメンバーと交流し、共同作業を通して、子ども会への意識や参加意欲を高めることができた。
7 月 19 日	子ども会 キャンプ集会	ひまわり苑にて、他施設のメンバーと交流し、子ども会林間保育の意識づけやメンバーシップの強化を行った。
7 月 29 日～ 30 日	子ども会 林間保育	宿泊を通して、3施設の児童間交流と親睦を深め、身近な自然の学びや関心を深めるとともに、子ども会活動の意識の向上、集団行動を意識した社会性を養った。
2 月 7 日	子ども会 ハイキング	日本科学未来館にて、先端科学技術を通して、多様な人々と共に未来を創る技術を体感し、科学に関する学び、関心を深めました。また、3施設の児童間交流と親睦を深め、集団行動を意識した社会性を養った。

③乳幼児支援

自立支援計画作成時に、こどもにも参加をしてもらい「家族で一緒にやりたい事」や「保育園や家庭での様子」「生活の中で頑張りたい事」等多くの項目の聞き取りを行い、こどもの意見を尊重した保育や日常の関わりを行えるような面談を実施しました。こどもの面談内容を母親と共有し、家庭と連携することで、こども達自身が目標に向かってお手伝いや学習などに取り組んでいる様子がありました。同時に母親から子育てについて相談を受けた際には、母親の気持ちに寄り添いながら、専門的な視点を持ち助言やモデリングを行いました。また、保育中の姿や日々の関わりの中で、こどもの様子や母子関係のアセスメントを行い、家族支援担当や心理担当と連携しながら、必要な支援に繋げ母子関係の改善を目指した支援を行いました。

未入所児保育の受入れ要件は「就労」が最も多く、次いで「生活リズムの確立」となりました。母親が安心してこどもを預けられるよう、保育の引き渡し時や連絡帳で、保育時の様子をこまめに伝えました。また、離乳食の進み具合で悩んでいる方には、家庭での様子を伺い、助言を行う中でこども自身の食べる力を育てました。

こども達が安心して過ごせるよう、成長過程や発達に応じた玩具の用意や関わりを行いました。また、こどもが言いたい事を職員へ伝えられるよう、様子を確認しながら必要に応じて「どうしたいのか」「何をして欲しいのか」等の気持ちの聞き取りを行いました。

乳幼児支援状況

		ひまわり苑
未入所児保育		163 人
補助保育	日中保育	174 人
	(内 緊急)	(2 人)
	時間外保育	151 人
	(内 緊急)	(0 人)
	日曜祝日保育	25 人
	(内 緊急)	(2 人)
	計	350 人
病後児保育		11 人
(内 緊急)		(0 人)
誕生会		74 人
保育延数		598 人

乳幼児保育入園状況

		ひまわり苑
令和 7 年度 延べ在籍数 (月平均)	未入所(未就園)児	52.0 人
	未入所児保育	12.4 人
保育園 入所状況 (月平均)	男	5.5 人
	女	4.2 人
保育園 入所者内訳 (令和 8 年 3 月 31 日)	私立保育園	13 人
	公立保育園	3 人
	認証保育園	0 人
	計	16 人

④アフターケア

退所後も切れ目のない支援を継続出来るよう、アフターケア計画に基づいた支援を実施しました。母子が地域で孤立することなく、安定した生活を送ることができるよう、自立支援職員による定期的な居宅訪問や電話連絡を行い、来所時には相談対応や近況伺いを行いました。退所後 1 ヶ月を目安に初回の居宅訪問を行い、転宅後の生活環境を含めた具体的な生活状況や家族関係の把握に努めました。定期的な居宅訪問の継続を希望される退所者もあり、こどもの発達や子育ての悩み、家族関係、体調、就労等、多岐にわたる相談がありました。

公益的取り組みに参加したこどもからも、進路や家族についての話や相談があり、助言を行いました。また、「子ども虹の架け橋プロジェクト」を通じて、定期的に退所者と繋がり続ける中で、近況報告に加え、子育てを中心とした相談を受け付けることが増え、相談先として関わることができました。

ひまわり祭りや新年お楽しみ会などの地域交流行事、またクリスマス会といった施設内行事に退所者を招待するなど、職員から積極的に働きかけを行いました。その結果、参加した母子それぞれから近況を伺うことができ、退所後の生活や母子関係の状況把握につなげることができました。また、参加した退所者が退所者同士や現入所者と活発に交流する様子も見られました。

さらに、今年度より地域担当心理士と共に退所者の会「ひまわり休」を発足し、参加者同士の交流を通じたピアサポートグループの形成を目指しました。

アフターケア

		ひまわり苑
母親	電話	176 人
	来所	68 人
	訪問	34 人
	心理相談	12 人
	その他行事	274 人
子ども	学童保育	54 人
	学習会	40 人
	子ども会	5 人
	心理相談	4 人
	その他行事	794 人
計		1,461 人

⑤心理

入所時に心理検査と成育歴の聞き取りを併せて実施し、それを基に心理的視点からアセスメントを行いました。母親に対しては心理相談を行い、不安の傾聴や葛藤の整理、心理教育などを通じてエンパワメントを行い、利用者に合わせた支援内容を提供しました。こどもに対しては、安心できる空間でプレイセラピーを継続して行い、健全な心的発達と母子関係の改善に努めました。ソーシャルスキルトレーニングでは、感情認知スキルなど学習態勢の獲得を目指しました。家族支援担当職員や子ども支援担当職員と打合せを行い、世帯全体の状況を踏まえて連携して支援を行いました。

アフターケアにおいては、個別の心理相談に加え、自立支援担当職員による訪問支援と連携し、退所者に対する包括的な支援の提供に努めました。さらに、自立支援担当職員と協働し、退所者の会「ひまわり休」を通じて母親を対象とした集団療法を実施し、母親のエンパワメントの向上およびピアグループ形成の促進を図りました。

地域支援では、地域利用者宅への訪問支援や生活場面面接を通じた心理支援を行いました。さらに、地域担当職員と連携し、コンサルテーションを通じた間接的な支援を行うことで世帯全体に対しアプローチを行いました。母子それぞれに対して集団療法を行い、自己表現の場を通じて心理的なサポートに努めました。

精神科医によるケースカンファレンスや、外部心理士によるコンサルテーションを行い専門的支援力の向上を目指しました。

心理支援利用状況

		施設内	アフター	地域
母親	心理療法	32 人	32 人	3 人
	心理検査	16 人	0 人	0 人
	生活場面面接	278 人	19 人	60 人
	訪問	0 人	2 人	1 人
	施設職員等への助言・指導	57 人	8 人	66 人
	支援検討会議への出席	49 人	0 人	11 人
	クラブ等グループワーク	11 人	23 人	1 人
	SST	0 人	0 人	0 人
	その他（同行など）	13 人	7 人	1 人
子ども	心理療法	22 人	0 人	32 人
	心理検査	0 人	0 人	0 人
	生活場面面接	421 人	46 人	137 人
	訪問	0 人	2 人	26 人
	施設職員への助言・指導	130 人	17 人	207 人
	支援検討会への出席	47 人	0 人	11 人
	クラブ等グループワーク	0 人	0 人	9 人
	SST	23 人	16 人	11 人
	その他（同行など）	90 人	56 人	152 人
計		1,189 人	228 人	728 人

⑥危機管理（事故・災害等）

こどもの怪我やアレルギー食の誤食、保育中のアクシデントが多く発生しており、重大なものについては全職員で要因分析や対策について話し合いを行いました。インシデントは、各部屋を使用した後の片付けで見落としやすい事柄が多く挙がっていました。中にはそのまま放置することでアクシデントになりかねないものもありましたので、都度注意喚起を行いました。

○災害対策（防災訓練）

実施日 時間	訓練内容						場所／実施方法	参加人数
	消 初 火 期	通報	避難	総合	B C P	そ の 他		
4月22日 13:40～14:00	○	○	○	○			施設内/避難経路・場所の確認、 火災発生を想定した訓練	利用者 3人 職員 15人
5月20日 13:50～14:20	○	○	○	○			施設内/火災発生を想定した訓練 地震発生を想定した訓練	利用者 5名 職員 15名
6月1日 6:00～6:45						○	緊急連絡網通報訓練施設内	職員 15人
6月17日 13:00～13:30	○	○	○	○	○		施設内/水害を想定した訓練 (BCP) 施設内/火災発生を想定した訓練	利用者 7人 職員 15人
7月23日 15:30～15:45	○	○	○	○			施設内/火災発生を想定した訓練	利用者 11人 職員 8人
8月19日 19:00～19:30	○	○	○	○			夜間の施設内/火災発生を想定した訓練	利用者 15人 職員 6人 その他 7人
9月24日 15:00～15:30	○	○	○	○			施設内/地震発生後に火災発生を想定した訓練	利用者 6人 職員 9人
10月29日 15:00～15:30	○	○	○	○			施設内/火災発生を想定した訓練	利用者 7人 職員 6人
11月29日 16:30～17:00	○	○	○	○			施設内/ガス漏れを想定した訓練	利用者 16人 職員 5人
12月6日 20:30～21:03						○	緊急連絡網通報訓練施設内	職員 14人
12月23日		○				○	応急救護訓練	職員 9人

12月24日 14:45～15:10	○	○	○	○	○	施設内/地震発生後、火災、 津波を想定した訓練(BCP)	利用者 2人 職員 5人
1月28日 21:00～21:15	○	○	○	○		夜間の施設内/火災発生を想 定した訓練	利用者 26人 職員 1人 その他 1人
2月24日 15:00～15:30					○	不審者対応訓練	職員 4人
2月26日 14:20～14:40	○	○	○	○		施設内/地震発生後、火災発 生を想定した訓練	利用者 4人 職員 5人
3月18日 14:10～14:45	○	○	○	○		施設内/地震発生後、火災発 生を想定した訓練	利用者 4人 職員 3人 その他 1人

⑦要望等解決(苦情解決)

昨年度に引き続き、子どもの意見表明の学習に力を入れて取り組んだ結果、子どもたちから多くの要望が寄せられました。主な内容は、学童内のプログラムや食事、玩具に関するものです。中でも「保育中に調理を行いたい」という要望が繰り返し挙がり、子どもたちが職員に自ら意見を伝えることで、保育プログラムを主体的に考えるきっかけとなっている様子が見られました。その他には、子育て支援利用に関する内容が多くありました。

⑧情報管理(個人情報保護・情報開示・セキュリティ)

個人情報保護や情報管理に関する法人の規程の理解を深め、職員として正しい情報の取り扱いが出来ているか確認を行いました。情報管理上のアクシデント対応や情報漏洩防止の対応等、ロールプレイや事例を通じて学習の強化に努めました。また、人権尊重や情報開示を意識した文章表現の学習を行い、わかりやすく適切な文章の書き方や表現について検討を行いました。

(3)総務委員会

○建物・設備維持管理(保守・点検)

実施日	項目	点検の種類
4月9日 11日 18日 28日	自動ドア 電気設備 エレベータ 建物設備	定期保守点検 定期保守点検 定期保守点検 居室内安全点検
5月9日 12日 16日 27日	エレベータ 建物設備 建物設備 建物設備	定期保守点検 定期清掃 害虫駆除 居室内安全点検

6月12日	エレベータ	定期保守点検
12日	電気設備	定期保守点検
17日	建物設備	居室内安全点検
18日	消防設備	定期保守点検
25日	エレベータ	法定点検
7月4日	施設設備	定期清掃
7日	施設設備	建築設備定期検査
10日	エレベータ	定期保守点検
15日	建物設備	居室内安全点検
8月6日	建物設備	植木剪定消毒
14日	建物設備	居室内安全点検
14日	エレベータ	定期保守点検
15日	電気設備	定期保守点検
9月1日	建物設備	定期清掃
11日	エレベータ	定期保守点検
16日	建物設備	居室内安全点検
10月14日	自動ドア	定期保守点検
14日	建物設備	居室内安全点検
16日	エレベータ	定期保守点検
17日	防火扉	定期保守点検
24日	電気設備	定期保守点検・年次点検
11月7日	建物設備	定期清掃
13日	エレベータ	定期保守点検
18日	建物設備	居室内安全点検
21日	建物設備	害虫駆除
12月9日	消防用設備	定期保守点検
9日	防火設備	定期保守点検
11日	エレベータ	定期保守点検
16日	建物設備	居室内安全点検
17日	電気設備	定期保守点検
1月15日	エレベータ	定期保守点検
20日	建物設備	居室内安全点検
28日	建物設備	定期清掃
2月2日	建物設備	貯水槽点検
12日	エレベータ	定期保守点検
13日	電気設備	定期保守点検
17日	建物設備	居室内安全点検
24日	建物設備	定期保守点検・加圧給水ポンプ点検
3月12日	エレベータ	定期保守点検
16日	建物設備	定期清掃
17日	建物設備	居室内安全点検

○修繕

各居室や共用部分の修理を始め、経年劣化による修繕箇所が増え、退居に伴う各箇所の修繕やガスレンジの交換を行いました。また、貯水槽の塗装剥がれによる粉塵拡散防止の為に再塗装を行うなど、利用者が安心安全な生活を送れるよう努めました。

○保健衛生

日々の関わりの中で体調確認を行い、定期的な健康診断や嘱託医による健康診断を実施しました。結果に応じて通院の促し、情報提供などを行い、適切な治療を受けられるよう努めました。

また、感染症が発生した場合には、感染症マニュアルに基づいた迅速な対応を実施し、利用者へ適切な情報の周知や感染拡大防止に努めました。

① 健康管理（母親・児童・乳幼児）

月 日	内 容	参 加 人 数
4月7日	乳幼児健診	2人（子）
4月18日	健康診断、歯科検診	1人（母）
5月2日	乳幼児健診	3人（子）
5月14日	健康診断、歯科検診	1人（母）
5月18日	健康診断	1人（母）
5月21日	健康診断、歯科検診	1人（母）
5月24日	歯科検診	1名（母）
6月14日	健康診断、歯科検診	1名（子）
6月24日	施設内健康診断	27人（母10・子17）
6月27日	歯科検診	1名（母）
7月5日	歯科検診	1人（母）
7月14日	乳幼児健診	1人（子）
7月15日	健康診断	1人（母）
7月16日	歯科検診	1人（母）
8月19日	乳幼児健診	1人（子）
8月22日	健康診断、歯科検診	1人（母）
9月26日	乳幼児健診	1人（子）
10月15日	乳幼児健診	1人（子）
11月5日	歯科検診	1人（母）
11月25日	施設内健康診断	21人（母7・子14）
12月3日	乳幼児健診	1人（子）
1月9日	乳幼児健診	1人（子）
2月6日	乳幼児健診	2人（子）
2月12日	健康診断	1人（母）
2月13日	歯科検診	1人（母）
3月6日	乳幼児健診	2人（子）

② 乳幼児の健康管理

区 分	説 明
健 康 診 断	① のとおり 保育園にて実施 未入所児：嘱託医により実施 または各病院で実施
歯 科 検 診	保育園にて実施

(4) 地域活動

① 公益的取組

○れいんぼう大森

大田区内のひとり親家庭等を対象（令和 7 年度登録数 7 名）に、学習支援や地域交流を通じて、生きる力や将来の自立につながる支援を行いました。通常のプログラムでは学習・調理などを行い、漢字検定、パソコン検定、英語検定にチャレンジしました。

体験プログラムでは、こども民生委員活動として、民生委員さんの役割を学び、地域の祭りでの民生委員の広報活動や歳末助け合い募金運動に参加しました。また、サーティワンアイスクリームさんの後援により、アイスクリーム作り体験をしました。

子どもたちが継続的に学び、多様な人と関わる機会を持つことで、学習意欲や社会性の向上に繋がりました。また、関係機関との連携により、必要な支援や福祉制度に繋がりがやすい地域ネットワークの強化を図ることができました。

○JOY

大田区内のひとり親家庭や児童等、支援を必要とする若者（令和 7 年度登録数 10 名）を対象に、学習支援や就労支援を通じて、居場所づくりや、生きる力、自立につながる支援を行いました。通常プログラムでは、SST を多く取り入れることで、初めて参加する参加者と継続の参加者が仲を深められるような課題を行い、お互いに協力しながら、課題に取り組む姿がみられました。学習プログラムでは、学校課題や定期試験に向けた学習を行いました。調理プログラムでは、メンバーで会食する時間に近況報告などを盛んに行いました。園芸プログラムでは、初めて野菜の育成を行い、植え付け～収穫・食事を行いました。この一連の育成を通して、最後まで育てることの達成感や植物への興味関心を育てました。体験プログラムでは藤子・F・不二雄ミュージアムを見学し、漫画家がどのようなものを使用しているのかを学んだり、漫画の成り立ちや漫画家の心に触れる機会を設けました。クリスマス会の開催など、集団で一つのことに取り組み、コミュニケーション力の向上と協調性を養うための活動をしました。

○ままれいんぼう

生活困窮者支援法に基づいた、第二のセーフティネットとしての役割を担い、就労に繋がるような資格取得のための学習や、生活力の向上や心身の健康を維持するための活動を実施し、延べ76名の方にご参加頂きました。学習プログラムでは、今の仕事のスキルアップのための学習や、転職活動に有利になる資格取得の学習に励む姿がみられました。生活プログラムでは、ヨガや運動で体を動かしたり、塗り絵やアロマセラピーを行い、心と体をリフレッシュさせることを目的としたプログラムを実施しました。

○子ども虹の架け橋プロジェクト

企業や個人から寄付して頂いた食品や衣料品を一時的に保管し、区内の子ども食堂や支援団体のほか他社会福祉法人に配分するロジハブ拠点としての役割を担いつつ、地域のひとり親世帯や生活支援を必要とする家庭に対し、食品等の配布を行いました。今年度の年間配布回数

は、41 回、延べ 1,365 世帯に食材等の配布を行いました。

食等の支援を通して、適切な相談機関に繋ぐことも目的としており、食材をお渡しする際は、近況報告や生活や子育てを中心とした相談を受け、相談先として関わることができました。

②地域交流事業

○地域交流行事

施設	行事名	実施日	実施内容
ひまわり苑	ひまわり祭	令和7年 8月23日	今年度は、地域の自治体や大田区の関係機関の方々、退所者などをご招待し、地域交流を行いました。 「ファンタジー サマー フェスタ～夢がつなぐひまわりの森～」をテーマに職員は物語の登場人物に合わせた仮装を行い、母・子の出し物でもテーマに沿った衣装を着て、出し物を披露しました。ゲームコーナーや開催時間帯に合わせた軽食の準備を行いました。近隣の子育て世帯や祖父母と来所する方の参加もあり、施設の認知度向上と、日頃の感謝を伝える良い機会となりました。
	新年お楽しみ会	令和8年 1月24日	利用者交流や地域の方々への感謝の気持ちを伝えることを目的として新年お楽しみ会を実施しました。だるま落としや福笑い、射的等、様々なゲームを体験できるブースをつくり、地域の親子やこどもたちが遊びを通して交流できる場としました。また、エントランスホールには「ひまわり神社」を設置し、参加した方々におみくじを引いてもらう等、お正月の雰囲気を感じてもらえるような場にしました。

○自治会活動・地域行事

職員が自治会会合や祭事、新年会等の活動にも参加し、相互の協力を得ることが出来ました。利用者の退所後の地域生活における基盤作りの一環となっています。

○ボランティアの受入

状況に合わせて受け入れを行いました。

③次世代育成

○実習生の受入

福祉施設現場を理解する福祉人材育成のため、保育コース・社会福祉コースを設けています。

保育士コースは8校から8名、社会福祉コースは7校から10名の受け入れを行いました。

(5) 関係機関との連携

① 行政機関

○ 実施状況(回数)

入所面談	6 回
退所面談	3 回
定期面談	11 回
サービス調整会議	12 回
関係者会議	0 回
個別ケース検討会議 ネットワーク会議	4 回
要保護児童対策地域協議会 各会議	6 回
関係機関行事・プログラム等	13 回
配偶者暴力相談支援センターおよび困難女性支援に係る関係機関実務者会議	

② 地域団体

大田区社会福祉協議会

児童贈物事業(クリスマスプレゼント)を申請し、クリスマス会の際に子どもたちにプレゼントを贈りました。また、企業からの寄贈品等を仲介していただき、「子ども虹の架け橋プロジェクト」では、利用者や地域の登録者の方へ多くの物資を頂きました。そして、「おおたスマイルプロジェクト」にご尽力いただき、れいんぼう活動においては、活動費や関係機関との仲介等の協力をいただきました。

③ 法人サポート組織

ゆうわ会

昭和 40 年代から、大洋社大森寮に協力してくださっている個人のボランティアが集まって出来

た、ゆうわ会（友輪会）ボランティア団体は、二代目ゆうわ会会長の須佐知行先生（密乗院住職）が引き継ぎ、また、平成 20 年度よりはじめた施設の退所児童の受け皿として青少年健全育成の目的で、活動会員の育成を始めましたが、施設の行事や特にハイキング・夏のキャンプへの協力を頂いています。

家庭福祉研究会

地域交流事業等、家庭福祉研究会会員の方達のお力添えがあつて多くの施設行事を行うことができました。今後も法人を支えて下さり、ご理解して下さいの会員の方達との交流を大切にしていきたいと考えています。

（6）施設機能強化推進事業

①総合防災対策強化事業

○総合防災強化事業

実施時期	内 容
令和7年 4月より 令和8年 3月末	危機管理委員会の中で、危機管理に関する基礎的な学習と、安全計画の活用と実践、災害時の対応についての学習を行いました。昨年度と同様、実践に近い形で毎月 1 回自衛消防訓練を実施しました。また非常時に備え、防災備品や非常食の購入を行いました。

②社会復帰等自立促進事業

○施設入所児等社会（家庭）復帰促進事業

実施時期	内 容
令和7年 4月より 令和8年 3月末	公益事業（JOY）地域児童（退所児童）、入所児童を対象に、子どもの貧困防止を目的として、体験型学習支援を実施しました。学習の後は、一緒に調理を行い、会食をしました。各種検定などのサポートもしました。
	公益事業（ママれいんぼう）に参加する母親を対象に、体験型就労支援として、資格取得やスキルの向上を目指しました。学習に加えて、計画に準じて健康や就労に関するプログラムを展開しました。

○心身機能低下防止研究事業

①ひまわり祭り ②新年お楽しみ会

※(4)地域活動 ①地域交流事業 ○地域交流行事に記載

○処遇困難事例研究事業

日にち	内 容
令和 8 年 1 月 26 日	精神科医を招き、事例を用いて研修を行いました。精神疾患を抱えた方への支援については、病名についての考察だけでなく、リービングケアからアフターケアに移行するまでの懸念点についてもお指摘いただきました。障害を抱えた世帯の支援については、利用者のこれまでの言動は障害の特性と捉え、医療機関への受診の必要性をご教示いただきました。具体的な今後のポイントをご助言いただいたことで、職員全体で支援について整理することができました。
令和 7 年 4 月より 令和 8 年 3 月	外部心理士による定期的なコンサルテーションを実施し、ケースの支援方針や見立てについて検討を重ねました。母子世帯について、成育歴や入所に至るまでの背景を心理的視点から捉え、ご助言をいただきました。家族支援担当、児童担当、心理担当が同席し、アセスメントする力を高める機会となりました。また、職員を対象としたコンサルテーションを定期的実施し、支援や業務に関する幅広い悩みをグループワークで扱い、職員のモチベーションの向上につなげました。

ii 緊急一時保護事業

施設名	大田区立ひまわり苑
定数	1 世帯
利用世帯	20 世帯
母子	5 世帯
单身	15 世帯
利用総数	27 人
大人	21 人
子ども	6 人
滞在延べ日数	198 日
対象	緊急に保護を要する母子または单身女性に対し、 適当な施設に入所させる事が出来ない場合、一 時的に入所させ必要な保護、相談および支援を 行い、応急的支援を図ります。
利用条件	○利用期間 概ね2週間(14日) ○利用料金 無料

I 総括

利用世帯は、例年よりも増加しましたが、一世帯あたりの在籍日数は短く、短期間で退所に至る傾向がありました。住居困難による入所が多くありましたので、緊急一時保護室で安心して過ごすことが出来るよう環境整備を行い、関係機関と連携し、退所に向けての支援を行いました。

(重点事項実施状況)

・緊急対応の確保

関係機関と連携・協働を密にはかり、緊急時の対応を適切に行うことが出来るよう努めました、また、危機管理の視点から、不審者、虐待、災害、個人情報保護を意識した対応を心掛けました。

・安全で安心な場の提供

住居困難や DV などの事情を抱える利用者が安心して過ごせるよう、関係機関と連携し、環境整備を行いました。高齢单身女性や外国籍の利用者には、丁寧な説明と必要な配慮を行いました。

2 良質なサービスの提供（支援状況）

入所者の半数以上が単身世帯で、10代から80代と幅広い年齢層の方が入所しています。住居困難に至る背景として、夫やその他の家族から暴力を受けている場合が多く、日常的な見守りや声掛けを行うことで、心身の状況の把握に努めました。成人女性2名で一世帯として入所するケースもあり、入所が必要な世帯に対して柔軟に対応しました。

利用状況

区分	項目	ひまわり苑
世帯	単身	15世帯
	家族	5世帯
	合計	20世帯
人数	大人	21人
	子ども	6人
	合計	27人
滞在延日数		198日

入・退所状況

区分	項目	ひまわり苑
入所理由	夫からの暴力	4世帯
	その他家族からの暴力	3世帯
	借金	0世帯
	失業	0世帯
	住宅困窮	13世帯
	その他	0世帯
	計	20世帯
入所前の居所	自宅	13世帯
	親せき宅	0世帯
	友人宅	1世帯
	宿泊所	0世帯
	社会福祉施設	0世帯
	その他	6世帯
	計	20世帯
退所先	自宅	2世帯
	親せき宅	0世帯
	母子生活支援施設	1世帯
	他社会福祉施設	11世帯
	アパート	3世帯
	その他	3世帯
	計	20世帯

iii 子育て短期支援事業（第2種社会福祉事業）

【事業概要】

施設名		大田区立ひまわり苑
事業開始		平成10年2月1日
ショート ステイ	定員	4人
	延べ	450人
トワイライト ステイ	定員	6人
	延べ	872人
休日 デイ	定員	4人
	延べ	267人
対象者		大田区内在住 2歳以上15歳（中学生）以下

I 総括

今年度の子育て短期支援事業は、「残業」「育児疲れ」での要件が多数を占めました。利用児の保護者との日常的な関わりを大切にして、育児の不安など日頃の困り事を話せる場となるように努めました。育児不安のある世帯やレスパイトで利用される世帯については、子ども家庭支援センターと連携をしていきました。

（重点事項実施状況）

年少児から高学年児までの幅広い年齢の利用があり、家庭的な雰囲気づくりを意識し、安心安全な環境設定・保育を行いました。また、特性のある子どもや虐待防止、保護者対応についての学習を行い、専門性を高めました。保護者に対して、お迎え時や申込時に家庭での様子や悩みなどを傾聴し、職員間で連携をとりながら必要に応じて関係機関と情報共有を行いました。

2 良質なサービスの提供

（1）サービス内容

- ①食事の提供および身の回りの世話
- ②学習の援助および遊びの指導
- ③通園または通学の援助
- ④その他

（2）利用状況

①利用の要件

ショートステイでは、昨年度と同様に「育児疲れ」による利用が最も多くを占めました。そのほか、「入院」や「出産」など、さまざまな理由での利用もありました。トワイライトステイでは、「残業」や「出張」による利用が主でした。また、休日デイにおいても、「残業」や「育児疲れ」を理由とした利用が多く見られました。利用要件を伺う際には、保護者の負担が少しでも軽減されるよう、家庭の状況や最近の様子についても丁寧に聞き取りを行いました。

②利用状況

昨年度からの継続利用の方に加え、新規で登録し定期的に利用される方や必要時の為に登録をされる方がいました。定期的に「育児疲れ」や「残業等」で利用される方の他に、出張や出産等で要件に合わせてご利用される方もいました。トワイライトステイは、「残業等」で定期的に利用される方が多くいました。休日デイサービスは、「残業等」と「育児疲れ」の利用がありましたが、体調不良等で当日キャンセルされる方が多くいました。

○利用児童の傾向

いずれのサービスとも2歳児から小学校中学年までの利用が約9割を占め、保育の中で情緒的な関わりを求める利用児もいました。定期的に利用するこどもたちがおり、こども同士関係を築き、一緒に遊んだり、お世話をしたりする様子がありました。

休日デイサービス、トワイライトステイではきょうだいの利用や多く、家庭での様子を窺えました。

○家庭状況

ショートステイでは、ひとり親家庭の方が「育児疲れ」の利用要件で、育児負担軽減のために定期的に利用されることが多く、利用児の保育中の様子をお伝えしながら、家庭の様子を伺う事で困り事の聞き取りをして、育児不安の軽減に努めました。また、定期的な利用をされる方については、子ども家庭支援センターなどの関係機関と情報共有を行いました。

トワイライトステイでは、残業の要件のご家庭の定期利用が多くありました。休日デイサービスも、二人親世帯の残業等での利用が多くありました。

利用要件別利用人数（ショートステイ）

	ひまわり苑
残業等	135人
出張	8人
出産	49人
疾病	0人
入院	22人
公的行事	0人
冠婚葬祭	0人
介護	0人
その他	236人
計	442人

利用要件別利用人数（トワイライトステイ）

	ひまわり苑
残業等	731 人
出張	0 人
出産	0 人
疾病	7 人
入院	0 人
看護	0 人
冠婚葬祭	0 人
介護	0 人
その他	134 人
計	872 人

利用要件別利用人数（休日デイサービス）

	ひまわり苑
残業等	147 人
出張	0 人
出産	0 人
疾病	0 人
入院	0 人
看護	0 人
冠婚葬祭	0 人
介護	0 人
その他	120 人
計	267 人

家庭状況

		ひまわり苑
ステイ ショート	父母世帯	149 人
	母子世帯	271 人
	父子世帯	30 人
	計	450 人
ステイ トワイライト	父母世帯	289 人
	母子世帯	184 人
	父子世帯	399 人
	計	872 人
サービス 休日デイ	父母世帯	154 人
	母子世帯	100 人
	父子世帯	13 人
	計	267 人
延べ数		1,589 人

行事の実施状況

	ひまわり苑
4 月	こいのぼり工作
5 月	親へのプレゼント工作
6 月	虫歯予防学習
7 月	七夕短冊製作
8 月	ひまわり祭り
9 月	お月見体験
10 月	ハロウィン
11 月	避難訓練
12 月	クリスマス工作
1 月	お正月遊び
2 月	節分体験
3 月	お楽しみ会

Ⅳ 母子一体型ショートケア事業

施設名	大田区立ひまわり苑
定数	1 世帯
利用世帯	3 世帯
利用総数	6 人
大人	3 人
子ども	3 人
滞在延べ日数	89 日
対象	生活基盤が脆弱であったり、育児疲れや事故に遭遇した事により精神的に不安定な状態になった母と生後 6 カ月以上かつ未就学の児童。
利用条件	○利用期間 概ね 1 週間(7日) (行政判断で延長可) ○利用料金 無料

(Ⅰ) 総括

今年度の母子一体型ショートケア事業では、3 世帯(延べ 6 人)の利用がありました。入所理由は「療養」や「産後支援」が中心でした。入所期間中は、母子が安心して過ごせる環境を整えるとともに、子どもの補助保育を行い、母親がしっかり休養できるよう支援しました。産後支援としては、母子の健康状態を確認し、新生児の養育環境の整備や沐浴などの育児支援を行い、育児開始期の不安や負担を軽減することに努めました。また、入所前から関係機関と連携し、受け入れ体制を整えたうえで支援計画を作成し、その計画に基づいて継続的かつ適切な支援を実施しました。

(重点事項実施状況)

・緊急対応の確保

子ども家庭支援センターと連携し、利用者状況の共有を図り、緊急時の対応が適切に行える体制を整えました。また、危機管理の観点から、不審者対応、虐待対応、災害対応、個人情報保護を意識し、適切な対応が行えるように努めました。

・安全で安心な場の提供

利用者が安心して過ごせるように、安全で落ち着ける空間の整備を行いました。また、産前産後の母子世帯の入所等の様々なニーズに応じた環境整備や、感染症対策を意識した衛生面の整備も行いました。利用者の日々の体調を把握し、状況に応じて、配慮が必要な場合は、関係機関と連携し、職員間で統一した対応を行いました。

2025(令和 7)年度

事業報告

自 2025(令和 7)年 4月 1日(火)
至 2026(令和 8)年 3月31日(火)

社会福祉法人 大洋社
コスモス苑

Ⅱ 事業別サービス実施報告

ⅰ 母子生活支援施設（第Ⅰ種社会福祉事業）

大田区立コスモス苑

【事業概要】

施設名		大田区立コスモス苑
事業開始		平成 5 年 4 月 1 日
事業内容		18 歳未満の子どもを養育している母子家庭、または何らかの事情で離婚の届出ができないなど、母子家庭に準じる家庭の女性が、子どもと一緒に利用できる施設です。 緊急一時保護事業（1 世帯）、子育て支援事業、母子一体型ショートケア事業を付帯事業で行っています。
世帯数		20 世帯
入退所	入所世帯	6 世帯
	退所世帯	5 世帯
	平均世帯構成	2.4 人
	母親平均年齢	36.2 歳
建物状況	構造	鉄筋コンクリート 地上 4 階建,689.50 m ²
	内訳	母子室 20 室 緊急一時室 1 室 事務室兼医務室 応接室・静養室 宿直室・警備員室 保育室 学習室

Ⅰ 総括

母子生活支援施設大田区立コスモス苑では、利用者一人ひとりの主体性の尊重を基本姿勢とし、常に利用者ファーストの支援を念頭に取り組んできました。母と子それぞれの思いや背景を丁寧に聞き取り、個々の状況に応じたオーダーメイドの支援を提供することで、個別性の高い支援の実践に努めました。様々な困難や複雑な状況の中においても、利用者の気持ちに寄り添いながら最適な選択を共に考え、関係性の構築を図るとともに、退所後もつながり続けられる関係づくりを意識し、公益的取組や食支援プログラム等を展開しました。その結果、近隣地域への転宅を選択される利用者やアフターケアの実施件数が増加するなど、継続的な支援につながる成果が見られました。

（重点事項実施状況）

今年度は、「個別性の高い自立支援計画の作成と計画に基づく支援の展開」「こどもの権利擁護と意見表明権の保障の推進」「施設内の環境整備の強化と支援の質の向上」の3つを柱として取り組みを進めました。

自立支援計画に関する取り組みでは、関連する学習機会を設けることで、職員のスキル向上を図り、個別支援の充実と利用者の主体性の醸成を目指しました。権利擁護の取り組みでは、こどもの権利擁護や意見表明権の保障や性教育に関する施設内研修を実施し理解を深めるとともに、権利擁護リーフレットの作成や意見箱の増設を行いました。環境整備の取り組みでは、物理的環境の改善に加え、労働環境や人間関係といった心理的環境にも着目し、働きやすい職場づくりを進めました。

これらの取り組みを通して、母子一人ひとりに応じた個別支援や、こどもの権利を尊重した丁寧な関わりが、職員個々の工夫にとどまらず、施設全体として共有・実践されていく基盤の形成につながりました。

2 良質なサービスの提供

（Ⅰ）利用者状況

令和7年度利用者の主たる入所理由は、住宅困窮、夫の暴力等、経済困難でした。広域利用はありませんでした。入所前より関係機関と支援方針や退所に向けた支援の進め方、退所後の生活イメージについて共有を図りました。家族関係不和、母親のトラウマ体験による生活不安、離婚調停等、様々な課題を抱えた世帯に対して、心理士や関係機関と連携し利用者の個々の課題をひとつひとつ解決していきながら安定した生活が営めるよう、支援を行いました。

退所前には、職員と利用者が協働してアフターケア計画を策定し、関係機関との会議を重ねな

がら、退所後の生活を見据えた切れ目のない支援体制の構築に努めました。

退所後も継続した関係性を意識し、食支援や公益的取り組み、子育て短期支援事業等に関する情報提供を行うとともに、社会資源の開発や訪問支援を通じて、個々の生活状況に応じたきめ細やかな支援の充実に努めました。その結果、地域生活における安定を継続的に見守ることができました。また、近況の把握や相談対応を丁寧に行い、必要に応じて関係機関へつなぐ一連の支援を実施することで、退所後の不安軽減に寄与することができました。

(2) 自立支援への取り組み

① 母親支援

入所時からの継続的な関係構築を重視し、日々の丁寧なコミュニケーションを通して、母親にとって安心できる存在であることを心がけてきました。様々な背景を抱える母親の思いに寄り添いながら信頼関係を築き、各世帯が地域で安定した生活を送れるよう伴走型の支援を実践しました。

母親の成育歴やひとり親となった背景を踏まえ、子育て・家事・就労の両立を支える支援を行ってきました。乳幼児世帯に対しては発達への共有や通院同行を行い、小学生以上のこどもに対しては学童利用や心理的支援、登校支援など、成長段階に応じた支援を展開しました。また、育児負担が大きい世帯には保育利用や送迎支援を提案し、母親の負担軽減を図りました。

母子関係の安定を重視し、職員間でケース検討を重ねながら関係調整に取り組みました。母親の困りごとについては共に対処策を考え、必要に応じて子どもの思いを代弁するとともに、心理士によるペアレントトレーニングなどの専門的支援につなげました。虐待やネグレクトが懸念される世帯に対しては、関係機関と連携しながら継続的かつ慎重な支援を行いました。

生活支援においては、健康管理、家事、経済、人間関係など多面的な課題に対し、各世帯の状況に応じた支援を実施しました。生活リズムや住環境の調整に関する助言や居室への介入、家事援助、家計相談支援などを通して、生活基盤の安定を図りました。

さらに、再統合世帯や精神科通院中の世帯に対しては、母子双方の状況に配慮しながら関係機関と連携し、子どもの心身の安定を重視した支援を行いました。DV 被害の影響がある世帯には、各種手続きや面会交流における同行・調整を通じて、不安の軽減に努めました。

就労支援においては、補助保育の受け入れや面談を通して働き方や就労継続について共に考え、就職活動から就労定着まで一貫した支援を行い、子育てとの両立を支援しました。

入所状況

	コスモス苑
住宅困窮	4 世帯
生活困難	0 世帯
夫の暴力等	1 世帯
生活環境の不良	0 世帯
その他	1 世帯
計	6 世帯

退所状況

	コスモス苑
公営住宅入居	1 世帯
民間住宅入居	4 世帯
他福祉施設	0 世帯
実家	0 世帯
その他	0 世帯
計	5 世帯

母親支援状況

	コスモス苑
子育て支援	2,614 件
就労支援	62 件
生活支援	4,807 件
夫等との関係調整	11 件
家族等との関係調整	13 件
他機関との関係調整	209 件
その他の対人関係	5 件
入退所時の支援	166 件
上記に含まれない支援	1,972 件
計	9,859 件

世帯状況

		コスモス苑
世帯	平均世帯人数	2.4 人
	母親平均年齢	36.2 歳
	子ども平均年齢	5.7 歳
令和 7 年度退所世帯平均在籍年数		1 年 11 ヶ月
令和 7 年度平均充足率		39%

生活保護受給状況(令和 8 年 3 月 31 日)

受給の有無		コスモス苑	
無		5 人	
有	一部	2 人	4 人
	全部	2 人	
合計		9 人	

雇用形態（令和 8 年 3 月 31 日）

		コスモス苑	
就 労	正社員	2人	7人
	パート・アルバイト	5人	
未 就 労	職業訓練校	0人	2人
	未就労	2人	
合計		9人	

職種（令和 8 年 3 月 31 日）

	コスモス苑
専門・技術	0 人
事務	1 人
販売	0 人
軽作業	1 人
サービス	5 人
その他	2 人
合計	9 人

②児童支援

日々の児童支援では、個々のニーズに寄り添った自立支援計画および個別学習支援計画を作成し、それに基づいて相談対応、家族関係の調整、学習支援を行いました。あわせて、学童保育や誕生会、児童会などのグループ支援を実施しました。

まず、個別支援では、児童面談や登校支援、母子関係の調整を行い、信頼関係の構築に努めました。自立支援計画に基づき、興味関心に応じた活動を取り入れ、多様な育ちを支援しました。学習指導では、学童保育時の学習時間や学習会を通して理解度に応じた支援を行い、反復練習により学習の定着と学力の維持・向上を図りました。また、未参加児や退所児にも個別に対応しました。補助保育では、不登校傾向の児童に対する登校支援を中心に、家庭や学校と連携しながら状況に応じた対応を行いました。

また、「聞かせてボックス」の設置や児童会での意見聴取を通して、子どもの思いやニーズの把握に努めるとともに、ソーシャルスキルトレーニングを実施し、社会性の向上を図りました。

グループ支援として、学童保育では、安心・安全な環境づくりのもと、基本的な生活習慣や学習習慣の定着、自己肯定感の向上を図ること、他児や職員との関わりの中で、気持ちを言葉で伝える力を育むことを目標として支援を行いました。子ども会活動では、社会体験や異年齢交流を通して人間関係の構築と社会性の向上を図り、特に林間保育では協働経験を通して成長を促しました。児童会は月 1 回実施し、要望の聞き取りと実現を

通して意見表明しやすい環境づくりに努めました。また、施設行事として、乳幼児と児童合同の誕生会を月 1 回実施し、異年齢交流や食育の機会を提供しました。

児童支援状況

		コスモス苑
令和7年度 延在籍数	学童保育	4 人
支援 延 人 数	学童保育	313 人
	(地域児童)	(77 人)
	補助保育	20 人
	学習指導	154 人
	学習会 (個別)	145 人 (12 人)
	児童会	13 人
	誕生会	25 人
	その他行事	10 人
	計	680 人

子ども会実施状況

月日	活 動 名	目 的 及 び 内 容
5 月 10 日	子ども会 入会式	ひまわり苑にて、他施設のメンバーと交流し、今後の子ども会活動への参加意欲を高めることができた。
7 月 19 日	子ども会 キャンプ集会	ひまわり苑にて、他施設メンバーと交流し、林間保育の意識づけや内容理解を深めた。
7 月 29～30 日	子ども会 林間保育	自然との触れ合いの中で、自然への興味関心を深める機会を得た。また、宿泊体験を通して、他施設メンバーとの親睦を深め、集団行動を学んだ。
2月7日	子ども会 ハイキング	他施設メンバーとの交流を深め、科学技術や社会の未来に関する展示を通して、身近な生活と科学の繋がりについて学んだ。

③乳幼児支援

母親から育児に関する相談があった際には、その都度傾聴や助言を行い、育児不安の軽減に努めました。未入所児保育や補助保育の実施にあたっては、子どもの遊びや行動を観察し、必要に応じて保育園や保健師、施設内心理士等の関係機関と連携しながら支援を行いました。

未入所児保育では、生活リズムの安定を目的に外遊びや散歩、発達段階に応じた遊びを取り入れ、保育所保育指針に基づいた保育計画を作成しました。また、安全で安心して過ごせる環境整備に努めました。補助保育では、就労や通院、家族関係調整など各世帯の状況に応じて受け入れを行い、個別に声掛けや支援方法の調整を行いました。送迎が困難な世帯に対しては登降園の補助や準備支援を行い、生活リズムに課題のある世帯には子どもの様子を共有しながら母親への助言を行い、状況に応じた支援を実施しました。また、母親の体調や精神面の不調時には緊急的な保育にも対応しました。病後児保育では、体調を丁寧に把握した上で受け入れを行い、水分補給や検温による健康管理を徹底しました。必要に応じて早期受診を促すなど、安心して利用できる体制を整えました。

誕生会では、季節に応じた制作活動や食事提供を通して、異年齢交流や食育の機会を提供しました。作品の掲示を通して親子の会話が広がるなど、家庭内での関わりの促進にもつながりました。

乳幼児支援状況

		コスモス苑
未入所児保育		16 人
補助保育	日中保育	225 人
	(内 緊急)	(85 人)
	時間外保育	144 人
	(内 緊急)	(51 人)
	日曜祝日保育	27 人
	(内 緊急)	(6 人)
	計	412 人
病後児保育		1 人
(内 緊急)		(1 人)
誕生会		54 人
保育延数		467 人

乳幼児保育入園状況

		コスモス苑
令和 7 年度 延在籍数 (月平均)	未入所(未就園)児	1 人
	未入所児保育	1 人
保育園 入所状況 (月平均)	男	1.1 人
	女	3.8 人
保育園 入所者内訳 (令和 8 年 3 月 31 日)	私立保育園	1 人
	公立保育園	7 人
	認証保育園	0 人
	計	8 人

④アフターケア

退所前に作成した計画に基づき、アフターケアを実施しました。「子ども虹の架け橋プロジェクト」では多くの退所世帯の来所があり、状況把握や相談支援を行いました。また、「れいんぼう」「JOY」等の公益的取組みによる定期的な関わりの中で居場所の提供を継続しました。さらに、「子ども民生委員」として歳末助け合い募金や地域行事への参加を通し、退所児童が地域とのつながりを感じられる機会を提供しました。

相談支援では、来所や電話で随時相談を受け付け、社会資源の情報提供や助言を行いました。不登校や学習面の課題、ステップファミリーの問題など、退所後の様々なニーズに対し、必要に応じて関係機関と連携しながら支援を行いました。また、学童保育の受け入れや学習支援を継続し、地域での安定した生活を支えました。

訪問支援では、転宅後の生活状況の確認や関係機関との顔合わせに同席するなど、退所後も安心して地域生活へ移行できるよう支援を行いました。

施設行事であるハロウィンやクリスマス会に招待し、退所者同士や入所者との交流の機会を設け、継続的なつながりの維持に努めました。

アフターケア

		コスモス苑
母親	電話	411 人
	来所	268 人
	訪問	6 人
	心理相談	20 人
	その他行事	43 人
子ども	学童保育	140 人
	学習会	75 人
	子ども会	22 人
	心理相談	61 人
	その他行事	311 人
計		1357 人

⑤心理

入所時に心理検査や生育歴の聞き取りを行い、施設が利用者の状態の把握を行うと共に、入所者自身の自己理解や今後の生活に役立つ情報提供を意識して検査のフィードバックを行いました。生育歴の聞き取りの際に担当支援職員が同席する事で、面談から得た情報をその後の支援につなげ、連携していくことが出来ました。必要な方にはその後の定期的な心理相談やペアレントトレーニングを個別で実施しました。児童や乳幼児に対しては、安心できる空間で自己表現ができるよう継続してプレイセラピーやソーシャルスキルトレーニングを行いました。また、必要に応じて利用者の精神科や発達支援への同行を行いました。

退所後も必要とされる利用者に関しては、利用者に合わせて継続的もしくは単発的に来所や訪問にて、心理相談やペアレントトレーニング、プレイセラピーを実施し、母子が安心して地域で暮らしていけるように支援を行いました。

地域での単身子育て世代に対しても、子育て・発達の相談や、必要に応じて柔軟な形で心理相談も行いました。

その他、精神科医による研修や、外部心理士と継続的な学習会を設け、専門的支援力の向上を目指しました。

心理支援利用状況

		施設内	アフター	地域
母親	心理療法	42 人	21 人	15 人
	心理検査	3 人	0 人	0 人
	生活場面面接	269 人	94 人	9 人
	訪問	24 人	19 人	1 人
	施設職員等への助言・指導	123 人	25 人	6 人
	支援検討会議への出席	53 人	3 人	7 人
	クラブ等グループワーク	0 人	0 人	0 人
	SST	0 人	0 人	0 人
	その他（同行など）	0 人	18 人	3 人
子ども	心理療法	80 人	81 人	0 人
	心理検査	0 人	0 人	0 人
	生活場面面接	117 人	46 人	5 人
	訪問	0 人	4 人	1 人
	施設職員への助言・指導	118 人	22 人	4 人
	支援検討会への出席	54 人	1 人	4 人
	クラブ等グループワーク	0 人	0 人	0 人
	SST	9 人	36 人	10 人
	その他（同行など）	19 人	35 人	39 人
計		911 人	405 人	104 人

⑥危機管理（事故・災害等）

○災害対策（防災訓練）

実施日 時間	訓練内容						場所／実施方法	参加人数
	初期 消火	通報	避難	総合	B C P	そ の 他		
4月22日 13:00～13:30	○	○	○	○			施設内/火災発生を想定した 訓練	利用者 5人 職員 14人
5月27日 13:00～13:30	○	○	○	○			施設内/地震、火災発生を想定 した訓練	利用者 2人 職員 14人

6月24日 6:30~7:30						○	施設内/早朝継走訓練	職員 17人
6月24日 13:00~13:30	○	○	○	○	○		施設内/地震、津波、火災発生を想定した訓練,BCP訓練	職員 14人
7月28日 18:00~18:30	○	○	○	○			施設内/火災発生を想定した訓練	利用者 14人 職員 5人
8月26日 18:00~18:30	○	○	○	○			施設内/火災発生を想定した訓練(夜間想定)	利用者 7人 職員 5人
9月27日 17:30~18:00	○	○	○	○			施設内/地震発生後の火災発生を想定した訓練(休日想定)、広域訓練	利用者 3人 職員 4人
10月28日 18:00~18:30	○	○	○	○			施設内/火災発生を想定した訓練	利用者 11人 職員 6人
11月25日 18:00~18:30	○	○	○	○			施設内/火災(ガス漏れ)発生を想定した訓練	利用者 7人 職員 5人
11月28日 19:00~19:30						○	施設内/応急救護訓練	利用者 3人 職員 3人
12月23日 18:00~18:30	○	○	○	○			施設内/風水害発生を想定した訓練/BCP	利用者 11人 職員 6人
12月24日 6:30~7:00						○	施設内/継走訓練	職員 15人
1月27日 18:00~18:30	○	○	○	○			施設内/火災発生を想定した訓練(夜間想定)	利用者 13人 職員 3人
2月17日 13:00~13:30						○	施設内/不審者対応訓練	職員 12人 実習生 3人
2月24日 18:00~18:30	○	○	○	○			施設内/地震発生後の火災発生を想定した訓練	利用者 11人 職員 5人
3月24日 16:00~16:30	○	○	○	○		○	施設内/地震発生後に火災を想定した訓練	利用者 11人 職員 3人

⑦要望等解決(苦情解決)

各人の意向の聞き取りと調整といった対応の質の向上を委員会活動の中で定期的に学習し、信頼関係を構築しながら実践を重ねていきました。また、今年度は人材育成プロジェクトの一環で意見箱「聞かせてボックス」を設置しました。日常場面だけではなく意見を表明できる環境を整え、子どもからの要望を多く拾い上げることができています。日常の場面では母から「子どもと職員と一緒に〇〇をしたい」等、前向きな要望が増えています。一方、居室からの騒音に関する相談、要望、苦情は多く、その都度改善に向けて利用者への聞き取り、支援の提案と、職員会議や支援打ち合わせでの検討を重ね、改善に向けて取り組みました。

⑧情報管理(個人情報保護・情報開示・セキュリティ)

個人情報保護マニュアルや情報管理に関する規定の確認を行い、情報取り扱いのルールを理解と浸透に努め、日々の業務で個人情報保護への意識を高める学習を行いました。

人権尊重・情報開示を意識した文章表現の学習や記録の目的を確認し、適切な文章表現を意識することに努めました。今年度は特に外部から個人情報の問い合わせがあった際の対応について、事例共有やロールプレイを用いて重点的に学習しました。

(3) 総務委員会

○建物・設備維持管理（保守・点検）

実施日	項目	点検の種類
4月14日	エレベーター	定期保守点検
21日	消防用設備	定期保守点検
22日	建物設備	居室内安全点検
5月7日	建物設備	定期清掃
15日	自動ドア	定期保守点検
19日	エレベーター	定期保守点検
20日	建物設備	居室内安全点検
30日	建物設備	害虫駆除
6月3日	揚水ポンプ	定期保守点検
24日	エレベーター	定期保守点検
28日	建物設備	居室内安全点検
7月2日	建物設備	定期清掃
25日	エレベーター	定期保守点検
25日	建物設備	居室内安全点検
8月20日	自動ドア	定期保守点検
22日	エレベーター	定期保守点検
28日	建物設備	居室内安全点検
9月3日	建物設備	定期清掃
17日	エレベーター	定期保守点検
18日	建物設備	居室内安全点検
10月3日	エレベーター	定期保守点検・法定点検
14日	建物設備	居室内安全点検
30日	消防用設備	定期保守点検

11月4日	建物設備	害虫駆除
5日	建物設備	建築設備定期検査
6日	建物設備	定期清掃
10日	防火設備	定期保守点検
12日	自動ドア	定期保守点検
28日	エレベーター	定期保守点検
30日	建物設備	居室内安全点検
12月19日	建物設備	居室内安全点検
17日	エレベーター	定期保守点検
1月7日	エレベーター	定期保守点検
7日	建物設備	定期清掃
18日	建物設備	居室内安全点検
26日	自動ドア	定期保守点検
2月17日	エレベーター	定期保守点検
19日	建物設備	排水管清掃
26日	建物設備	居室内安全点検
26日	建物設備	貯水槽清掃点検
3月6日	建物設備	定期清掃
12日	エレベーター	定期保守点検
13日	建物設備	植木剪定消毒
23日	玄関シャッター	定期保守点検
24日	建物設備	居室内安全点検

○修繕

今年度も利用者退所後の居室修繕整備として、畳替え、ふすまの張替え、壁、床等を行いました。またトイレや浴室・台所等水回りを中心に修繕を行うとともに、昨年度に引き続き施設内共用部・居室のLED照明への交換工事を行いました。

○保健衛生

すこやかだよりの発行を通し、利用者の健康意識の向上を図りました。施設内健康診断の結果を把握するとともに、外部での健康診断の結果についても把握を行い、必要に応じて医療機関の情報提供や通院の促しを行いました。また、感染症が発生した場合には感染症マニュアルに基づき迅速な対応を行うように心がけました。

① 健康管理（母親・児童・乳幼児）

月 日	内 容	参 加 人 数
6 月 17 日	施設内健康診断	15 人(母 7・児童 4・乳幼児 4) ※その他の利用者は会社・保健所にて実施
6 月 24 日	歯科検診	15 人(母 7・児童 4・乳幼児 4) ※その他の利用者は会社・保健所にて実施
11 月 18 日	施設内健康診断	14 人(母 6・児童 4・乳幼児 4) ※その他の利用者は会社・保健所にて実施

② 乳幼児の健康管理

区 分	説 明
健 康 診 断	① のとおり 保育園にて実施 未入所児：嘱託医により実施
歯 科 検 診	① のとおり 保育園にて実施

(4) 地域活動

① 公益的取組

○れいんぼう久が原

大田区内のひとり親家庭等を対象（令和 7 年度登録数 12 名）に、学習支援や地域交流を通じて、生きる力や将来の自立につながる支援を行いました。通常のプログラムでは学習・調理などを行い、漢字検定、パソコン検定、英語検定にチャレンジしました。

体験プログラムでは、こども民生委員活動として、民生委員さんの役割を学び、地域の祭りでの民生委員の広報活動や歳末助け合い募金運動に参加しました。また、サーティワンアイスクリームさんの後援により、アイスクリーム作り体験をしました。

子どもたちが継続的に学び、多様な人と関わる機会を持つことで、学習意欲や社会性の向上に繋がりました。また、関係機関との連携により、必要な支援や福祉制度に繋がりがやすい地域ネットワークの強化を図ることができました。

○JOY

大田区内のひとり親家庭や児童等、支援を必要とする若者（令和 7 年度登録数 8 名）を対象に、学習支援や就労支援を通じて、居場所づくりや、生きる力、自立につながる支援を行いました。通常プログラムでは、SST を多く取り入れることで、初めて参加する参加者と継続の参加者が仲を深められるような課題を行い、お互いに協力しながら、課題に取り組む姿がみられました。学習プログラムでは、学校課題や定期試験に向けた学習を行いました。調理プログラムでは、メンバーで会食する時間に近況報告などを盛んに行いました。体験プログラムでは藤子・F・不二雄ミ

ミュージアムを見学し、漫画家がどのようなものを使用しているのかを学んだり、漫画の成り立ちや漫画家の心に触れる機会を設けました。クリスマス会の開催など、集団で一つのことに取り組み、コミュニケーション力の向上と協調性を養うための活動をしました。

○ままれいんぼう

生活困窮者支援法に基づいた、第二のセーフティネットとしての役割を担い、就労に繋がるような資格取得のための学習や、生活力の向上や心身の健康を維持するための活動を実施し、延べ 35 名の方にご参加頂きました。学習プログラムでは、今の仕事のスキルアップのための学習や、転職活動に有利になる資格取得の学習に励む姿がみられました。生活プログラムでは、ヨガや運動で体を動かしたり、塗り絵やアロマセラピーを行い、心と体をリフレッシュさせることを目的としたプログラムを実施しました。

○子ども虹の架け橋プロジェクト

企業や個人から寄付して頂いた食品や衣料品を一時的に保管し、区内の子ども食堂や支援団体のほか他社会福祉法人に配分するロジハブ拠点としての役割を担いつつ、地域のひとり親世帯や生活支援を必要とする家庭に対し、食品等の配布を行いました。今年度の年間配布回数は、31 回、延べ 860 世帯に食材等の配布を行いました。

食等の支援を通して、適切な相談機関に繋ぐことも目的としており、食材をお渡しする際は、近況報告や生活や子育てを中心とした相談を受け、相談先として関わる事ができました。

②地域交流事業

○地域交流行事

行事名	実施時期	内 容
①ハロウィン行事 ②クリスマスお楽しみ会	令和7年 ① 10月26日 ② 12月21日	①地域に対しコスモス苑の運営理解や交流を目的としてハロウィン行事を行いました。子ども実行委員会を設置し、入所児童と退所児童に行事運営に携わってもらいました。あいにくの雨だったため施設1階共用部を一部開放し開催しました。雨にも関わらずたくさんの方に楽しんでいただきました。尚、子どもたちによるダンス発表やボランティアによる楽器演奏の出し物については、来賓と施設の入退所者のみを学習室・保育室にお通しして実施し、良い交流の機会となりました。 ②クリスマスお楽しみ会は、利用者と職員と地域関係者の交流を目的に行いました。乳幼児は楽器演奏、児童は劇とダンスの発表を行いました。児童の劇は自分たちが提案し内容を考えたもので、大成功に終わったことで自信に繋がっていました。
新年お楽しみ会	令和8年 1月18日	新年にちなんだ遊びや、施設内にお参りができる神社やおみくじを用意し、日本の季節感や伝統を感じられる空間の中で、利用者とお茶をしながらゆったりと過ごすことができました。利用者と職員だけでなく、世帯間での交流も見られました。

○自治会活動・地域行事

地域の自治会に加入している中で、地域力推進会議にも出席し、自治会や地域の関係者の皆様とコミュニケーションを取っていきました。また、自治会の行事に子どもたちと参加し、反対にコスモス苑の行事に自治会や民生委員の皆様を招待する等して、地域との繋がりを強化し、利用者の退所後の地域生活における基盤作りを継続しました。

○ボランティアの受入

母の会の保育や学童保育時の読み聞かせ等のボランティア受入れを実施しました。大田区社会福祉協議会の地域福祉コーディネーターから手芸ボランティアの紹介があり、今年度より施設内で月1回手芸クラブを開催しました。その他、施設内行事等で受け入れを行いました。

③次世代育成

○実習生の受入

福祉施設現場を理解する福祉人材育成のため、保育コース・社会福祉コースを設けています。保育士コースは13校から15名、社会福祉コースは5校から7名の受け入れを行いました。

(5) 関係機関との連携

① 行政機関

○ 実施状況(回数)

入所面談	4 回
退所面談	4 回
定期面談	8 回
サービス調整会議	12 回
関係者会議	0 回
個別ケース検討会議	4 回
ネットワーク会議	
要保護児童対策地域協議会 各会議	10 回
関係機関行事・プログラム等	1 回
配偶者暴力相談支援センターおよび困難女性支援に係る関係機関実務者会議	

② 地域団体

大田区社会福祉協議会

児童贈物事業(クリスマスプレゼント)を申請し、クリスマス会の際に子どもたちにプレゼントを贈りました。また、企業からの寄贈品等を仲介していただき、「子ども虹の架け橋プロジェクト」では、利用者や地域の登録者の方へ多くの物資を頂きました。

地域福祉コーディネーターとの連携の中では特技ボランティアを紹介していただき、毎月の手芸クラブの実施や、施設行事の際のプログラムの充実に繋がりました。

③ 法人サポート組織

ゆうわ会

昭和 40 年代から、大洋社大森寮に協力してくださっている個人のボランティアが集まって出

来た、ゆうわ会（友輪会）ボランティア団体は、二代目ゆうわ会会長の須佐知行先生（密乗院住職）が引き継ぎ、また、平成 20 年度よりはじめて施設の退所児童の受け皿として青少年健全育成の目的で、活動会員の育成を始めましたが、施設の行事や特にハイキング・夏のキャンプへの協力を頂いています。

家庭福祉研究会

地域交流事業等、家庭福祉研究会会員の方達のお力添えがあつて多くの施設行事を行うことができました。今後も法人を支えて下さり、ご理解して下さいの会員の方達との交流を大切にしていきたいと考えています。

（6）施設機能強化推進事業

①総合防災対策強化事業

○総合防災強化事業

実施時期	内 容
令和7年 4月 より 令和8年 3月	BCP、BCM、BCMS の学習を行い、様々な状況を想定して自衛消防訓練を行いました。より訓練を充実させるために自衛消防訓練以外にも緊急時を想定した意見交換や防災機器の確認作業を行いました。

②社会復帰等自立促進事業

○施設入所児等社会（家庭）復帰促進事業

実施時期	内 容
令和7年 5月 より 令和8年 3月	公益事業（JOY）地域児童（退所児童）、入所児童を対象に、子どもの貧困防止を目的として、体験型学習支援を実施しました。一緒に調理を行い、会食をしました。
	公益事業（ママれいんぼう）に参加している母親を対象に、体験型就労支援）として、長期的な就労の安定を目指し、資格取得やスキルアップの為の学習や、職業適性検査等の就労に関するプログラムを実施しました。

○心身機能低下防止研究事業

①ハロウィーン行事 ②クリスマス会 ③新年お楽しみ会

※(4)地域活動 ①地域交流事業 ○地域交流行事に記載

○処遇困難事例研究事業

実施時期	内 容
①令和7年 10月 ②令和8年 1月	性教育に携わる専門家を招き、性教育の基本的な考え方や重要な視点について学びました。母子生活支援施設における性教育について理解を深めるとともに、今後のコスモス苑における実践の方向性について考える貴重な機会となりました。
令和7年 12月6日	精神科医を招き、精神疾患に関する医学的根拠に基づく講義を受けました。客観的かつ専門的に利用者を理解する事に繋がりました。

ii 緊急一時保護事業

施設名	大田区立コスモス苑
定数	1 世帯
利用世帯	14 世帯
母子	4 世帯
単身	10 世帯
利用総数	21 人
大人	14 人
子ども	7 人
滞在延べ日数	296 日
対象	緊急に保護を要する母子または単身女性に対し、 適当な施設に入所させる事が出来ない場合、一時的に入所させ必要な保護、相談および支援を行い、応急的支援を図ります。
利用条件	○利用期間 概ね2週間(14日) ○利用料金 無料

I 総括

住宅困窮や夫または親族による暴力から避難する単身女性や世帯の受け入れを行いました。心身ともに安心して過ごすことができるよう、環境を整備し、傾聴や寄り添いを意識した関わりを行いました。また、必要に応じて行政機関へ情報共有をし、退所に向けた支援を行いました。

(重点事項実施状況)

・緊急対応の確保

関係機関と連携し、正確に利用者の状況を把握するとともに、利用者が安心して過ごせるように事前に居室内の整備や清掃、備品の準備を行いました。

・安全で安心な場の提供

不安などを感じている利用者に対して、声掛けやお話の傾聴をすることで安心感を得られるよう配慮しました。

2 良質なサービスの提供（支援状況）

緊急一時保護入所理由は「住宅困窮」「夫・家族からの暴力」等でした。利用者の安全・安心を念頭に置きながら日々の生活を見守りました。必要に応じて利用者の気持ちに寄り添い、傾聴する等の支援を行いました。

利用状況

区分	項目	コスモス苑
世帯	単身	10世帯
	家族	4世帯
	合計	14世帯
人数	大人	14人
	子ども	7人
	合計	21人
滞在延日数		296日

入・退所状況

区分	項目	コスモス苑
入所理由	夫からの暴力	5世帯
	その他家族からの暴力	2世帯
	借金	0世帯
	失業	0世帯
	住宅困窮	7世帯
	その他	0世帯
	計	14世帯
入所前の居所	自宅	13世帯
	親せき宅	1世帯
	友人宅	0世帯
	宿泊所	0世帯
	社会福祉施設	0世帯
	その他	0世帯
	計	14世帯
退所先	自宅	1世帯
	親せき宅	1世帯
	母子生活支援施設	2世帯
	他社会福祉施設	9世帯
	アパート	0世帯
	その他	1世帯
	計	14世帯

iii 子育て短期支援事業（第2種社会福祉事業）

【事業概要】

施設名		大田区立コスモス苑
事業開始		平成19年4月1日
ショート ステイ	定員	3人
	延べ	473人
トワイライト ステイ	定員	5人
	延べ	364人
休日 デイ	定員	5人
	延べ	190人
対象者		大田区内在住 2歳以上15歳（中学生）以下

Ⅰ 総括

今年度の子育て短期支援事業の利用要件では、「育児疲れ」が最も多く全体の約 49%を占め、昨年度よりも利用全体に占める割合が増加しています。次いで「残業等」での利用が多く、全体の約 33%を占めています。また、「入院」による利用が増加しており、のべ 71 日の利用がありました。前年に引き続き、利用者に対する丁寧なサービス説明や対応を行い、安心して利用出来るよう努めました。

（重点事項実施状況）

子ども家庭支援センターと情報共有しながら地域利用者の受け入れを行ないました。育児疲れ等を理由とする、緊急的な登録や利用等に対応するとともに、関係機関との日常的な情報共有や協議、要保護児童対策地域協議会への出席などを通して、地域利用者への支援の一端を担いました。

また心理士による利用者に対する心理相談の取り組みや、心理職の視点を取り入れた利用者対応等、専門性を踏まえた利用者対応の実践を重ねました。

2 良質なサービスの提供

（1）サービス内容

- ①食事の提供および身の回りの世話
- ②学習の援助および遊びの指導
- ③通園または通学の援助
- ④その他

（2）利用状況

①利用の要件

いずれのサービス区分においても「育児疲れ」の要件が昨年度より増加しました。とりわけ休日デイサービスに於ける変化が著しく、約 50 人の増加がありました。養育者の入院に伴う子ども家庭支援センターを通じた緊急的な受入れケースが複数あり、「入院」要件の増加が見られました。

②利用状況

昨年比でショートステイでは１０２％、トワイライトステイでは１１４％、休日デイサービスでは１２０％の延べ利用件数となりました。また、休日デイサービスにおいては、継続して「育児疲れ」での利用が習慣化している家庭の利用が集中し、キャンセル待ちとなる傾向にありました。

○利用児童の傾向

休日デイサービスでは、「育児疲れ」の要件で定期的に利用する未就学児が多くいました。発達上の課題に起因する「育児疲れ」を理由とする登録者が増えました。また家庭内における課題から関係機関への相談を経て、大田区子ども家庭支援センターや児童相談所、乳幼児ショートステイ等からの紹介を受けて定期利用に繋がるケースもありました。

○家庭状況

母子世帯の一部では疾病や生活上の課題を抱えている方が見られ、育児への疲弊も見られた為、心理担当職員による相談等を行いながら、育児の負担軽減に努めました。必要に応じて子ども家庭支援センターの担当者と情報共有を行い、サービス利用から関係機関による支援へと繋がりました。ショートステイ・トワイライトステイは母子世帯の利用が多く、一方で休日デイサービスについては二人親世帯の育児疲れによる利用が多くありました。

利用要件別利用人数（ショートステイ）

	コスモス苑
残業等	65 人
出張	63 人
出産	10 人
疾病	5 人
入院	71 人
公的行事	2 人
冠婚葬祭	4 人
介護	2 人
その他	251 人
計	473 人

利用要件別利用人数（トワイライトステイ）

	コスモス苑
残業等	221 人
出張	9 人
出産	10 人
疾病	1 人
入院	0 人
看護	0 人
冠婚葬祭	0 人
介護	0 人
その他	123 人
計	364 人

利用要件別利用人数（休日デイサービス）

	コスモス苑
残業等	51 人
出張	2 人
出産	0 人
疾病	0 人
入院	0 人
看護	0 人
冠婚葬祭	0 人
介護	0 人
その他	137 人
計	190 人

家庭状況

		コスモス苑
ステイ ショート	父母世帯	182 人
	母子世帯	253 人
	父子世帯	38 人
	計	473 人
ステイ トワイライト	父母世帯	171 人
	母子世帯	183 人
	父子世帯	10 人
	計	364 人
サービス 休日デイ	父母世帯	115 人
	母子世帯	74 人
	父子世帯	1 人
	計	190 人
延べ数		1027 人

行事の実施状況

	コスモス苑
4 月	さくら製作
5 月	こいのぼり製作
6 月	かたつむり製作
7 月	ひまわり製作
8 月	きのこ製作
9 月	きのこ製作
10 月	かき製作
11 月	ぶどう 製作
12 月	雪だるま製作
1 月	鏡餅製作
2 月	豆まき
3 月	おやつ作り

Ⅳ 母子一体型ショートケア事業

施設名	大田区立コスモス苑
定数	1 世帯
利用世帯	3 世帯
利用総数	6 人
大人	3 人
子ども	3 人
滞在延べ日数	272 日
対象	生活基盤が脆弱であったり、産前産後において、安全安心の確保が難しい妊婦及び生後 6 か月未満の乳児
利用条件	○利用時間 概ね 1 週間(7 日) (行政判断で延長可) ○利用料金 無料

(1) 総括

母子一体型ショートケア事業は特定妊婦 1 世帯(延べ 2 名)、要支援家庭 2 世帯(延べ 4 名)の利用がありました。入所理由は「養育環境を整える」「療養」「母子の安全」「安定した暮らし」でした。安定した住環境と育児用品の提供を行いながら、授乳、沐浴等の育児補助や子の預かりを行いました。転宅先で必要な育児用品の準備、今後の育児についての助言や情報提供をしました。また、必要に応じてこどもの保育園への送迎や母親に対する心理支援、こどもへの関わり方を学ぶモデリングを実施する事もありました。入所前から関係機関との連携を行い、支援計画に基づいた支援を行いました。

(重点事項実施状況)

・緊急対応の確保

子ども家庭支援センターと利用者状況の共有を行い、緊急時の対応が適切に行えるように体制を整えました。必要に応じて、保健師や児童相談所へも情報共有を行い、支援方針を統一できるようにいたしました。特に新生児に関しては様々なリスクを想定し、こまめな安否確認を実施しました。

・安全で安心な場の提供

居室環境を整え、利用者のニーズに合わせて支援計画を立て、同意を得る中で、食事提供、育児支援、生活支援、心理支援等を行いました。また、在宅に戻ってからもこどもとの関わりが円滑になるようモデリングやカウンセリングの支援を行いました。

2025（令和7）年度

事業報告

自 2025（令和7）年 4月 1日（火）
至 2026（令和8）年 3月31日（火）

社会福祉法人 大洋社
練馬区立母子生活支援施設

Ⅱ 事業別サービス実施報告

ⅰ 母子生活支援施設（第Ⅰ種社会福祉事業）

練馬区立母子生活支援施設

【事業概要】

施設名		練馬区立 母子生活支援施設
事業開始		平成10年4月1日
事業内容		18歳未満の子どもを養育している母子家庭、または何らかの事情で離婚の届出ができないなど、母子家庭に準じる家庭の女性が、子どもと一緒に利用できる施設です。 緊急一時保護事業（1世帯）、女性および母子地域生活支援事業（2世帯）、子育て支援事業を付帯事業で行っています。
世帯数		18世帯
入退所	入所世帯	8世帯
	退所世帯	9世帯
	平均世帯構成	2.2人
	母親平均年齢	31歳
建物状況	構造	鉄筋コンクリート （一部鉄骨） 地上3階建、796.98㎡
	内訳	母子室18室 地域生活支援室2室・緊急一時室1室・シャワー室 事務室・医務室・相談室・静養室・ 宿直室・警備員室・保育室・多目的室・ プレイルーム・オープンスペース・学習室・学童室・ 談話コーナー・和室

Ⅰ 総括

指定管理制度の運営委託を受け2年目となり、令和7年度より「女性および母子地域生活支援事業（2世帯）」の開始を受けて定数が20世帯から18世帯となりました。

乳幼児を抱える世帯に対しては、母が抱える子育ての悩みや不安に寄り添い、ともにこどもの成長発達を見守りました。学齢児には、こどもと母の意向を確認しながら学童保育・学習会などの児童支援を行いました。関係機関とも連携を図り、必要に応じて母子関係調整、育児サポート、心理支援などの個別支援を行いました。

また、アフターケアに注力し、学習支援や行事等で退所後も継続して繋がる世帯が多くありました。地域の行事にも積極的に参加・協力し、交流を深めました。

（重点事項実施状況）

昨年度に引き続き、人材育成プロジェクトを通して業務標準化や人材育成に取り組みました。経験の浅い職員の意向を確認しながら、緊急時の対応や日々の業務姿勢について学習を深め、利用者の安心・信頼、職員の安心・自信に繋がる取り組みを行いました。アフターケアに関しては、昨年度に引き続き行事等での声かけを積極的に行い、退所後の世帯ともかかわりを多く持ちました。退所世帯の状況についても職員間で共有し、切れ目のない支援を継続できる仕組みづくりを行いました。

2 良質なサービスの提供

（1）利用者状況

入所理由は住宅困窮が最も多く、次いで夫等の暴力、養育困難世帯がありました。昨年度に続き、広域利用で他区からの受け入れも1世帯あり、一時保護後の親子関係再構築の場として施設を利用する世帯は2世帯となりました。

退所先には都営住宅の提案を積極的に行い、都営住宅や施設近隣の民間アパートへの転宅が多くありました。地域の方の参加を含めた行事や日々の関わりの中での地域交流を図り、利用者同士、利用者と職員の交流がより活発になりました。

（2）自立支援への取り組み

①母親支援

面談を通して本人の意向を確認し、それに基づいた支援を行いました。日々の対話や行事、母親対象のクラブ活動を通して信頼関係の構築に努めるとともに、関係機関と連携し、利用者の状況や支援方針を共有しながら支援を進めました。

子育てや健康、就労に関する相談に対応し、母子が安心して生活できる基盤づくりを支援しました。乳幼児世帯には発達に応じた食事や生活リズム等の助言を行い、学齢児世帯には学童保育や学習支援、登校支援、関係機関との連絡調整を行いました。

子育て不安に対しては、調理や清掃等を通じて養育スキル向上を支援し、入園手続きの補助や見守りを実施しました。育児疲れが見られる世帯には傾聴を行い、リフレッシュ保育等を活用して母親の負担軽減を図りました。また、親子参加型の行事を通して親子関係の形成を支援しました。

健康面では体調把握に努め、感染症罹患時には医療機関の情報提供や生活支援を行いました。生活面では居室環境の整備や手続き支援、外国籍世帯への書類支援等を行いました。

父親との交流がある世帯には見守りや同行支援を行い、離婚手続きに関する支援にも対応しました。就労については意向を踏まえ、関係機関と連携しながら就労支援を実施し、保育支援を通じて就労継続を支えました。

入所状況

	練馬
住宅困窮	6 世帯
生活困難	0 世帯
夫の暴力等	1 世帯
生活環境の不良	0 世帯
その他	1 世帯
計	8 世帯

退所状況

	練馬
公営住宅入居	3 世帯
民間住宅入居	5 世帯
他福祉施設	0 世帯
実家	0 世帯
その他	1 世帯
計	9 世帯

母親支援状況

	練馬
子育て支援	1,221 件
就労支援	400 件
生活支援	7,832 件
夫等との関係調整	58 件
家族等との関係調整	13 件
他機関との関係調整	585 件
その他の対人関係	21 件
入退所時の支援	148 件
上記に含まれない支援	1,909 件
計	12,187 件

世帯状況

		練馬
世帯	平均世帯人数	2.2人
	母親平均年齢	31歳
	子ども平均年齢	4.5歳
令和7年度退所世帯平均在籍年数		18.9月
令和7年度平均充足率		56%

生活保護受給状況（令和 8 年 3 月 31 日）

受給の有無		練馬	
無		5 人	
有	一部	5 人	6 人
	全部	1 人	
合計		11 人	

雇用形態（令和 8 年 3 月 31 日）

		練馬	
就 労	正社員	1 人	4 人
	パート・アルバイト	3 人	
未 就 労	職業訓練校	1 人	7 人
	未就労	6 人	
合 計		11 人	

職種（令和 8 年 3 月 31 日）

	練馬
専門・技術	0 人
事務	1 人
販売	0 人
軽作業	0 人
サービス	3 人
その他	0 人
合計	4 人

②児童支援

令和 7 年度の入所児童は延べ 58 名、月平均 4.8 名でした。母親支援と連動しつつ児童の意向を尊重し、世帯での自立を目標に支援を行いました。また、児童同士の前向きな交流を促進し、地域学童クラブへの入会支援を通じて退所後も継続利用可能な地域資源への接続を図りました。

放課後や長期休暇中には学童保育を実施し、安全な環境の中で課題解決に向けた行動を支援しました。役割分担やホワイトボードの活用により、主体性や時間管理意識の向上につながりました。留守番に不安のある児童には見守り支援を行い、段階的な声掛けを通して自立した生活力の習得を促しました。

調理や制作活動では、交流を通じて生活技術の習得を図りました。なかよし新聞では目標や課題について考える機会を設け、児童主体の運営経験につなげました。誕生会や会食では異年齢交流や食育を促進し、防災訓練や大掃除では協働意識や生活力の向上に寄与しました。

母子関係の調整にも取り組み、必要に応じた一時的分離や面談、プレイセラピーを通じて関係性の改善を図りました。また、日々の関わりを通じて信頼関係の構築に努めました。

学習支援では、児童の意思を尊重しながら苦手分野への取り組みを促し、学習習慣の定着や援助要請行動の獲得につながりました。退所後も支援継続を希望するケースが複数みられ、支援の有効性が確認されました。

こども会活動では社会体験や交流の機会を提供し、特に林間保育では親元を離れて友人と協力しながら宿泊をすることで、児童の成長の機会となりました。

児童支援状況

		練馬
令和 7 年度 延在籍数	学童保育	16 人
支援 延 人 数	学童保育	120 人
	(地域児童)	(0 人)
	補助保育	7 人
	学習指導	228 人
	学習会 (個別)	109 人
	児童会	51 人
	誕生会	42 人
	その他行事	116 人
	計	673 人

子ども会実施状況

月日	活 動 名	目 的 及 び 内 容
5 月 10 日	子ども会 入会式	ひまわり苑にて、他施設のメンバーと交流し、共同作業を通して、子ども会への意識や参加意欲を高めることができた。
7 月 19 日	子ども会 キャンプ集会	ひまわり苑にて、他施設のメンバーと交流し、子ども会林間保育の意識づけやメンバーシップの強化を行った。
7 月 29 日～ 30 日	子ども会 林間保育	宿泊を通して、3施設の児童間交流と親睦を深め、身近な自然の学びや関心を深めるとともに、子ども会活動の意識の向上、集団行動を意識した社会性を養った。
2 月 7 日	子ども会 ハイキング	日本科学未来館にて、先端科学技術を通して、多様な人々と共に未来を創る技術を体感し、科学に関する学び、関心を深めました。また、3施設の児童間交流と親睦を深め、集団行動を意識した社会性を養った。

③乳幼児支援

乳児の入所に伴い、居室環境の整備や離乳食づくりの支援を行いました。保育園の入園・転園にあたっては、子ども家庭支援センターと連携し、手続きや調整を行うことで円滑な入園につなげました。また、登園に不安のある世帯に対しては、こどもと母の気持ちに寄り添いながら対応を検討し、安心して通園できるよう支援しました。さらに、利用者の要望を踏まえ、試行的に休日の保育室開放を実施し、育児負担の軽減につなげました。

未入所児保育では 2 歳児、4 歳児、5 歳児を各 1 名受け入れ、生活リズムの構築と母親の休養を目的に、保育園入園までの期間支援を行いました。その結果、こどもが施設環境に適応し、職員との関係構築の機会となりました。

補助保育は、定期面談や母親の休養、就労を理由に利用され、体調不良による緊急受入れにも柔軟に対応しました。病後児保育では、通院結果や体調の聞き取りを丁寧に行い、安心して預けられる環境づくりに努めました。空気清浄機の活用や換気、加湿、室温管理を徹底し、安全な保育環境の維持に取り組みました。これらの支援により、母親の負担軽減と安定した生活の継続に寄与しました。

行事としての誕生会では、会食を通して喫食状況の把握を行うとともに、こども同士の関わりや異年齢交流の機会を提供し、社会性の育ちにつながりました。

乳幼児支援状況

		練馬
未入所児保育		20人
補助保育	日中保育	76人
	(内 緊急)	(15人)
	時間外保育	59人
	(内 緊急)	(9人)
	日曜祝日保育	11人
	(内 緊急)	(0人)
	計	146人
病後児保育		7人
(内 緊急)		(3人)
誕生会		63人
保育延数		239人

乳幼児保育入園状況

		練馬
令和7年度 延在籍数 (月平均)	未入所(未就園)児	0.67人
	未入所児保育	0.17人
保育園 入所状況 (月平均)	男	2.25人
	女	5.58人
保育園 入所者内訳 (令和8年3月31日)	私立保育園	6人
	公立保育園	2人
	認証保育園	0人
	幼稚園	2人
	計	8人

④アフターケア

食支援「子ども虹の架け橋プロジェクト」や退所者向け行事を通じて、退所者が定期的に来所し近況を共有する機会を設けました。また、季節の便りや入学祝の送付により、遠方の退所者も含めた継続的な関係維持に努めました。退所世帯への訪問も行い、生活状況の確認と必要に応じた助言を実施しました。

退所後も子育て短期支援事業を利用する世帯が複数あり、申込み時の聞き取りや利用中のこどもの様子の把握を通じて母子関係の調整を行いました。また、食支援や行事案内の連絡時に近況を把握し、こどもの成長や母親の就労状況の変化を継続的に確認しました。これらの取り組みにより、退所後も切れ目のない支援につながりました。

年度新たに退所した世帯では、びーのびーの教室や心理支援のため継続来所する児童が多く、退所後の支援が定着している様子がみられました。子育て短期支援事業利用時には、保護者とこどもの状況や子育ての悩みを共有し、地域で安心して生活できるよう支援しました。

また、陽だまり祭りには多くの退所者が参加し交流の機会となりました。事前の活動周知により来所機会も増加し、入所者と退所者の交流が促進されました。その結果、入所者にとっても退所後のイメージをもちながら生活を送るきっかけづくりを行うことができました。

アフターケア

		練馬
母親	電話	315 人
	来所	99 人
	訪問	4 人
	心理相談	2 人
	その他行事	26 人
子ども	学童保育	0 人
	学習会	112 人
	子ども会	20 人
	心理相談	24 人
	その他行事	19 人
計		621 人

⑤心理

母親への心理支援では、虐待やDVの体験による心的外傷を抱えている利用者への継続的な心理支援によって、精神の安定を図るよう努めました。児童・幼児への心理支援では、プレイセラピーを中心に、安心・安全に自己を表現できる場を提供しました。心理支援の状況について各担

当職員と情報共有し、連携して取り組みました。退所者への心理支援では、自立支援計画に基づいて、子どもへのプレイセラピー及び母親へのカウンセリングを中心に、地域の心理支援につなげられるような場を提供しました。

心理支援状況

		施設内	アフター	地域
母親	心理療法	46 人	1 人	0 人
	心理検査	6 人	1 人	0 人
	生活場面面接	327 人	36 人	0 人
	訪問	0 人	0 人	0 人
	施設職員等への助言・指導	25 人	2 人	0 人
	支援検討会議への出席	49 人	1 人	0 人
	クラブ等グループワーク	62 人	1 人	0 人
	SST	0 人	0 人	0 人
	その他（同行など）	34 人	3 人	0 人
子ども	心理療法	117 人	24 人	0 人
	心理検査	0 人	0 人	0 人
	生活場面面接	295 人	56 人	144 人
	訪問	0 人	0 人	0 人
	施設職員への助言・指導	44 人	8 人	0 人
	支援検討会への出席	51 人	1 人	0 人
	クラブ等グループワーク	7 人	3 人	0 人
	SST	0 人	0 人	0 人
	その他（同行など）	14 人	2 人	0 人
計		1077 人	139 人	144 人

⑥危機管理（事故・災害等）

アクシデント 14 件、インシデント 25 件の報告がありました。アクシデントは、鍵の返却忘れ等職員要因のものが多くありました。鍵の取り扱いについては時間を決めて鍵の所在を確認し申し送り時にも確認するよう再発防止に取り組みました。

○災害対策（防災訓練）

実施日 時間	訓練内容						場所/実施方法	参加人数
	初期 消火	通報	避難	総合	B C P	その他		
4月22日 14:30 ~ 15:00	○	○	○	○		○	施設内/火災発生を想定した 訓練 防災教育 (避難経路や消火器など 基本的な消防設備の説明)	利用者 2人 職員 16人
5月26日 14:30 ~ 15:00 ~ 15:10 ~ 15:25	○	○	○	○		○	施設内/火災発生を想定した 訓練 防災教育 (避難梯子の訓練、通報専用 電話機、水消火器の訓練) 防災備蓄の確認	利用者 1人 職員 7人
6月17日 14:30 ~ 15:00	○		○		○		風水害による浸水を想定した 訓練(BCP) 初期消火訓練	利用者 2人 職員 16人
7月28日 14:30 ~ 16:00	○	○	○		○	○	地震による大規模災害を想定 した訓練 初期消火訓練 通報訓練 BCP机上訓練 消防署員による応急救護訓練	利用者 1人 職員 7人
8月3日 16:00 ~ 16:30	○	○	○	○		○	施設内/火災発生を想定した 訓練 夜間想定訓練	利用者 8人 職員 7人 ショート3名 その他1人
9月16日 15:30 ~ 17:15 ~ 19:00 ~ 20:30	○		○		○	○	大規模災害(地震)を想定した 訓練(BCP) 初期消火訓練 災害用伝言ダイヤル訓練 夜間継走訓練	利用者 2人 職員 16人
10月22日 15:30 ~ 16:20	○	○	○			○	施設内/火災発生を想定した 訓練(不審火を想定)	利用者 7人 職員 5人 ショート2人
11月28日 15:00 ~ 15:30 ~ 14:00 ~ 16:15	○	○	○	○		○	通報専用電話機による通報 訓練、避難梯子の訓練、水消 火器の訓練、起震車体験 (豊玉学童クラブと合同訓 練)	利用者 1人 職員 10人 学童クラブ21人

12月23日 14:30 ~ 15:00	○	○	○	○	○	施設内／ガス漏れを想定した訓練 初期消火訓練（机上）	利用者 2 人 職員 8 人
1月27日 14:30 ~ 15:00	○	○	○	○		施設内／地震・火災発生を想定した訓練	利用者 4 人 職員 13 人
2月24日 15:30 ~ 15:55	○	○	○	○		施設内／火災発生を想定した訓練 地震を想定した訓練 豊玉学童クラブと合同訓練	利用者 5 人 職員 9 人 その他 1 人 学童クラブ 32 人
3月22日 11:00 ~ 11:45	○	○	○	○	○	施設内／火災発生を想定した訓練 夜間想定訓練	利用者 4 人 職員 6 人 その他 1 人 ショート 3 名

⑦要望等解決(苦情解決)

令和 7 年度は相談が6件、要望が10件、苦情が27件ありました。職員の利用者対応や支援に対する苦情や、世帯間同士の関係調整が必要な苦情が多く寄せられました。前者に関しては、利用者が置かれている状況に寄り添い、個別に話す場を設ける等、丁寧な返答と改善を心がけました。利用者には要望等解決の仕組みを行事等で説明し、結果として第三者委員宛のポストが多く活用されました。

⑧情報管理（個人情報保護・情報開示・セキュリティ）

個人情報の重要性を理解するため、マニュアルを通して、適切な管理と保護について理解の向上を図りました。また、人権尊重や情報開示を意識した文章表現の学習においては、実際の保育記録の訂正箇所から引用する等、実践的な学習を行いました。情報セキュリティ教材の読み合わせや、穴埋め問題を利用して理解度の確認をしました。外部からの問い合わせ事例が発生した際の対応方法については、事例を用いた学習や、ロールプレイを通じて、対応力の強化を図りました。

（3）総務委員会

○建物・設備維持管理（保守・点検）

実施日	項目	点検の種類
4月8日	建物設備	居室内安全点検
17日	電気設備	自家用電気工作物点検
17日	建物設備	自主点検
17日	フロン	第一種特定製品の簡易点検

17日	貯水設備	貯水槽自主点検
5月15日 26日 26日 26日	建物設備 消防設備 防火設備 貯水設備	居室内安全点検 消防用設備等点検 防火設備定期点検 貯水槽自主点検
6月10日 16日 16日 20日 23日	建物設備 建物設備 貯水設備 電気設備 建物設備	居室内安全点検 自動扉保守点検 貯水槽自主点検 自家用電気工作物点検 害虫駆除
7月8日 28日 28日 28日 28日	建物設備 水道設備 貯水設備 建物設備 フロン	居室内安全点検 水質検査 貯水槽自主点検 自主点検 第一種特定製品の簡易点検
8月5日 14日 21日 21日	建物設備 環境 電気設備 貯水設備	居室内安全点検 空気環境測定 自家用電気工作物点検 貯水槽自主点検
9月5日 5日 8日	建物設備 貯水設備 建物設備	自動扉保守点検 貯水槽自主点検 居室内安全点検
10月6日 29日 29日 29日 29日	建物設備 電気設備 建物設備 貯水設備 フロン	居室内安全点検 自家用電気工作物点検 自主点検 貯水槽自検主点検 第一種特定製品の簡易点検
11月4日 28日 28日	建物設備 貯水設備 消防設備	居室内安全点検 貯水槽自検主点 消防用設備等点検
12月2日 11日 15日 17日 17日	建物設備 建物設備 建物設備 電気設備 貯水設備	自動扉保守点検 居室内安全点検 害虫駆除 自家用電気工作物点検 貯水槽自主点検
1月8日 8日 13日 17日	貯水設備 建物点検 建物点検 フロン	貯水槽自主点検 自主点検 居室内安全点検 第一種特定製品の簡易点検
2月9日 16日 16日 25日	建物設備 貯水設備 電気設備 環境	居室内安全点検 貯水槽自主点検 自家用電気工作物点検 空気環境測定
3月4日 9日 26日	建物設備 建物設備 貯水設備	自動扉保守点検 居室内安全点検 貯水槽自主点検

○修繕

各居室や共用部分に経年劣化による修繕箇所が複数みられました。居室修繕では主に、退去に伴う、畳や壁紙の修繕を行いました。共用部分では、幼児用女子トイレの目隠し設置工事を行いました。生活福祉課工事として給湯器交換工事を行いました。

○保健衛生

すこやかだよりの発行を通し、利用者の健康意識の向上を図りました。毎月の嘱託医による健康相談、10月と3月に歯科健診を行いました。健康診断の結果を把握するとともに、必要に応じて医療機関の情報提供や通院の促しを行いました。また、感染症が発生した時には感染症マニュアルに基づき迅速な対応を行い、事業所内で感染症が発生した事を知らせるポスターを張り出し利用者へ周知することで感染防止を図りました。

① 健康管理（母親・児童・乳幼児）

月日	内容	参加人数
4月9日	施設内健康診断	9人（母親3・児童2・乳幼児2）
5月14日	施設内健康診断	12人（母親5・児童3・乳幼児4）
6月11日	施設内健康診断	11人（母親4・児童4・乳幼児3）
8月25日 ～9月12日	前期健康診断	7人（母親） ※その他の利用者は職場で実施。
7月9日	施設内健康診断	14人（母親5・児童4・乳幼児5）
8月6日	施設内健康診断	8人（母親2・児童4・乳幼児2）
9月10日	施設内健康診断	5人（母親0・児童3・乳幼児2）
10月8日	施設内健康診断	8人（母親2・児童4・乳幼児2）
10月29日	歯科健診（1回目）	18人（母親7・児童5・乳幼児6）
11月12日	施設内健康診断	9人（母親2・児童4・乳幼児3）
12月11日	施設内健康診断	4人（母親0・児童3・乳幼児1）
1月14日	施設内健康診断	8人（母親3・児童3・乳幼児2）
2月4日	施設内健康診断	4人（母親1・児童3・乳幼児0）
2月25日	歯科健診（2回目）	13人（母6・児童2・乳幼児5）
3月11日	施設内健康診断	7人（母親3・児童3・乳幼児1）
2月2日 ～2月26日	後期健康診断	5人（母親） ※その他の利用者は職場で実施。

② 乳幼児の健康管理

乳幼児の健康管理	
区分	説明
健康診断	① のとおり 保育園にて実施 未入所児：嘱託医により実施 または各病院で実施
歯科健診	① のとおり 保育園にて実施

(4) 地域活動

① 公益的取組

○びーのびーの教室

地域のひとり親家庭の子ども達が将来社会人として、自分らしい生き方ができるように学習環境を整え、こどもの基礎学力向上のための学習支援を実施しました。支援延べ人数 112 人でした。

○ねりま社会福祉法人等のネット

練馬地区の様々な分野の法人等と連携し、地域の地区祭に出向いて福祉何でも相談を行いました。こども向けの遊びのコーナーも設け、親子で立ち寄りやすい相談の場とし、パンフレットも配布して地域にたくさんの相談窓口があることを地域住民に伝えました。

○子ども虹の架け橋プロジェクト

地域に住む退所世帯を中心に食品等の配布を行いました。今年度の年間配布回数は、3回、延べ28世帯に食材配布を行いました。

また、食支援を通して、適切な相談機関に繋ぐことも目的としており、食材をお渡しする際は、近況報告や生活や子育てを中心とした相談を受け、相談先として関わることができました。

② 地域交流事業

○地域交流行事

○自治会活動・地域行事

地域の町会に加入し、毎月の町内パトロールや年 2 回の町内の清掃、年末の夜回りなどに参加しました。盆踊り大会やハロウィンスタンプラリーなどの季節行事に協力し、地域との交流を深めました。また、昨年度に引き続き、陽だまり祭りは地域関係者や住民の方をお招きして実施し、

地域からもたくさんの方に参加していただきました。

行事名	実施日	実施内容	参加者
祭り	令和7年 9月27日	猛暑を避け9月開催としました。今年度も利用者、退所者、そしてお世話になっている関係機関、町会、地域のみなさまをお招きし、地域交流を図りました。「海の冒険」テーマにフォトスポットやゲームコーナーを用意し、児童と乳幼児の出し物を行いました。制作では、こども達が楽しめるコーナーを用意し、飲食コーナーは入所者、退所者、地域関係者の交流の場となりました。また、入所している児童や母親も運営のお手伝いをし、地域交流を図りました。	97人
ベビーマッサージ	令和7年4月 より 令和8年3月	地域交流を目的としたベビーマッサージを外部講師を招いて実施し、心身機能の低下防止を図りました。親子でスキンシップをとり、親子関係を深める機会となりました。地域で子育てをしている世帯の交流の場としても機能し参加者同士で育児や近隣の情報交換なども行い、有意義な時間となり好評でした。リピーターも多く談笑する姿がみられました。	15組

○ボランティアの受入

年忘れお楽しみ会や陽だまり祭りでボランティアの受け入れを行いました。

③次世代育成

○実習生の受入

今年度も、積極的に実習性を受け入れ福祉人材育成を行いました。
保育士コースは7校から、社会福祉士コースは3校から4名を受け入れました。

(5) 関係機関との連携

① 行政機関

○ 実施状況(回数)

入所面談	7 回
退所面談	8 回
定期面談	14 回
サービス調整会議	11 回
関係者会議	1 回
個別ケース検討会議・ ネットワーク会議	4 回
要保護児童対策地域協議会 各会議	9 回
関係機関行事・プログラム等(入卒園式含む)	10 回
配偶者暴力相談支援センターおよび 困難女性支援に係る関係機関実務者会議	1 回

② 地域団体

練馬区ひとり親福祉連合会

8 月 2 日(土)に、東京練馬ライオンズクラブ主催のデイキャンプにご招待いただき、練馬区ひとり親福祉連合会との交流を深めました。当日は 3 世帯がアメリカキャンプ村にてデイキャンプを楽しみました。参加した世帯からは練馬区ひとり親福祉連合会への加入の相談があり案内することが出来ました。

(6) 施設機能強化推進事業

① 総合防災対策強化事業

○ 総合防災強化事業

実施時期	内 容
令和7年4月 より 令和8年3月	食品、飲料などを計画的に備蓄しました。防災食に関しては、低年齢児やアレルギーに配慮した防災食のストックも行いました。

② 専門機能強化事業

○ 養育機能等強化事業

実施時期	内 容
令和7年4月 より 令和8年3月	外部講師を招いての退所者のグループワークを通して、養育や課題解決の力を向上させました。

③ 社会復帰等自立促進事業

○ 心身機能低下防止研究事業

※(4) 地域活動 ① 地域交流事業 ○ 地域交流行事に記載

○ 施設入所児等社会(家庭)復帰促進事業

実施期間	内 容
令和7年4月 より 令和8年3月	入所者と退所者の交流の場を設け、会話や取り組みを通して社会性の向上を図りました。母親のクラブや、児童対象のクラブ活動(ほっとJr)を通して交流を深めました。

○処遇困難事例研究事業

実施期間	内容
令和7年 7月24日 12月5日 12月24日	精神科医、臨床心理士を招いて事例検討をしました。また、講師から精神や心理分野についての知識のレクチャーも受け、支援技術の体得につなかりました。入所世帯の事例を取り上げ、本質的な理解と対応について学習しました。

ii 緊急一時保護事業

施設名	練馬区立母子生活支援施設	
定数	1 世帯	
利用世帯	12 世帯	
	母子	7 世帯
	単身	5 世帯
利用総数	20 人	
	大人	12 人
	子ども	8 人
滞在延べ日数	237日	
対象	緊急に保護を要する母子または単身女性に対し、適当な施設に入所させる事が出来ない場合、一時的に入所させ必要な保護、相談および支援を行い、応急的支援を図ります。	
利用条件	○利用期間 概ね1週間(7日) ○利用料金 無料	

I 総括

緊急一時保護事業は、母子世帯、単身者共に多くの利用がありました。利用理由は夫等の暴力、住宅困窮などによる利用が多くみられました。

(重点事項実施状況)

・緊急対応の確保

関係機関と連携して正確に利用者状況を共有し、適切な対応ができるよう努めました。迅速に緊急対応できるように常に居室内の整備や清掃、備品の準備を行いました。

・安全で安心な場の提供

利用者の安全を確保し、安心して過ごすことができるよう関係機関との連携を図り情報共有しながら職員間で対応を統一して支援しました。

2 良質なサービスの提供（支援状況）

入所理由では、「住宅困窮」「夫等の暴力」が多く、その他に「金銭トラブル」「同居人との関係悪化」「ストーカー被害」がありました。受入れに際しては、安心して入所できるよう居室の清掃や整備を行い、心身の安定を図れる環境整備に努めました。退所先として、今年度より開始した女性および母子地域生活支援事業への移行が 3 世帯ありました。

利用状況

区分	項目	練馬
世帯	単身	5世帯
	家族	7世帯
	合計	12世帯
人数	大人	12人
	子ども	8人
	合計	20人
滞在延日数		237日

入・退所状況

区分	項目	練馬
入所理由	夫からの暴力	4世帯
	その他家族からの暴力	0世帯
	借金	0世帯
	失業	0世帯
	住宅困窮	5世帯
	その他	3世帯
	計	12世帯
入所前の居所	自宅	7世帯
	親せき宅	1世帯
	友人宅	2世帯
	宿泊所	0世帯
	社会福祉施設	0世帯
	その他	2世帯
	計	12世帯
退所先	自宅	1世帯
	親せき宅	0世帯
	母子生活支援施設	0世帯
	他社会福祉施設	3世帯
	アパート	0世帯
	その他	8世帯
	計	12世帯

iii 女性および母子地域生活支援事業

施設名	練馬区立母子生活支援施設	
定数	2 世帯	
利用世帯		4 世帯
	母子	3 世帯
	単身	1 世帯
利用総数		7 人
	大人	4 人
	子ども	3 人
滞在延べ日数	149 日	
対象	困難な問題を抱える女性または母子家庭のうち、つぎのいずれかにいずれかに該当するもの (1) 練馬区女性および母子緊急一時保護事業を利用しているものであってつぎの支援先が決まらず、行き場のないもの (2) 家庭関係の破綻や生活困窮等で支援が必要な状態にあり、就労先や子の就学先等の事情により、区内での保護を希望するもの (3) 自身で居所を確保することが困難である等、真に支援が必要であると総合福祉事務所長が必要と認めるもの	
利用条件	○利用期間 3か月以内 ○利用料金 規定による利用料	

I 総括

女性および母子地域生活支援事業は、単身者よりも母子世帯の利用が多くありました。利用理由は住宅困窮、夫等の暴力による利用がみられました。女性および母子緊急一時保護事業からの入所、母子生活支援施設への退所等、施設内の他事業との連携を図り、スムーズな移行を支援しました。

(重点事項実施状況)

・事業の開始

事業の開始にあたり、関係機関と連携して環境の整備を行うとともに、職員への研修を実施し、受け入れ態勢を整えました。

・安全で安心な場の提供

困難な問題を抱える女性および母子を支援するために、関係機関と連携しながら適切な支援を提供しました。家庭関係の破綻や生活困窮で支援が必要な利用者に対し、安心安全な環境を提供し、落ち着ける空間の整備に努めました。また、利用者の状況に合わせて、相談支援、一時保育、安否確認を行いました。

2 良質なサービスの提供（支援状況）

入所理由では、「住宅困窮」が多く、その他に「夫等の暴力」がありました。受入れに際しては、安心して入所できるよう居室の清掃や整備を行い、心身の安定を図れる環境整備に努めました。

利用状況

区分	項目	練馬
世帯	単身	1世帯
	家族	3世帯
	合計	4世帯
人数	大人	4人
	子ども	3人
	合計	7人
滞在延日数		149日

入所理由および入・退所状況

区分	項目	世帯数			
入所理由	夫からの暴力	1世帯			
	その他家族からの暴力	0世帯			
	借金	0世帯			
	失業	0世帯			
	住宅困窮	3世帯			
	その他	0世帯			
	計	4世帯			
区分	項目	世帯数	区分	項目	世帯数
入所前の居所	自宅	0世帯	退所先	自宅	1世帯
	親せき宅	0世帯		親せき宅	0世帯
	友人宅	0世帯		母子生活支援施設	2世帯
	宿泊所	0世帯		他社会福祉施設	1世帯
	社会福祉施設	1世帯		アパート	0世帯
	その他	3世帯		その他	0世帯
	計	4世帯		計	4世帯

Ⅳ 子育て短期支援事業（第2種社会福祉事業）

【事業概要】

施設名		陽だまり荘
事業開始		平成10年11月1日
ショート ステイ	定員	5人 (要支援親子入所型：母子1組)
	延べ	1,496人 (内要支援子ども型233人、親子入所型17人)
対象者		練馬区内在住 2歳以上12歳 (小学生)以下 ※要支援親子入所型は、生後4か月以上12歳 (小学生以下)までの児童と保護者

I 総括

今年度の子育て短期支援事業は昨年度に引き続き、子ども家庭支援センターからの紹介によりレスパイト要件で利用するケースが多くを占めました。昨年度から継続して利用する世帯が多く、定期的な利用によりこどもの地域生活の継続を支援しました。要支援ショートステイでは、親子ショートステイを含めて利用世帯数の増加がみられ、各家庭の状況に応じた支援が必要となりました。要支援ショートステイを含め、背景を異にする児童の生活の丁寧なケアと保護者への支援、利用による家族間の関係調整に努めました。

（重点事項実施状況）

様々な背景から利用する児童・保護者に対して、関係機関と連携を保ちながら支援を行いました。要支援家庭を対象としたショートステイ事業のうち「親子入所型」では、本年度より助産師との連携を開始し、乳児期の親子の支援を行いました。

日常の支援では、安心、安全な保育環境の提供に努め、毎月の陽だまりクラブでは、こどもが安定した環境を基盤に豊かな体験を得られるような機会を設けました。

2 良質なサービスの提供

(1) サービス内容

- ①食事の提供および身の回りの世話
- ②学習の援助および遊びの指導
- ③通園または通学の援助
- ④その他

(2) 利用状況

①利用の要件

保護者のレスパイトを要件とする利用は未就学児世帯に多く、毎月定期的な利用があることで、保護者の休息やこどもの育ちの共有へと繋がりました。「就労」「介護」「出産」等での利用は限定的となり、いずれも一部世帯の定期的な利用となりました。子ども家庭支援センター経由でのレスパイト利用が多くを占めており、その他要件に関しては、サービスの周知や予約の取りづらさが課題となりました。

②利用状況

昨年度に引き続きショートステイの利用は増加傾向となりました。また、要支援ショートステイにおいても「子ども型」「親子入所型」とともに利用世帯数、利用日数が増加しました。レスパイト要件での利用は昨年度と同様、週末や祝日に利用が集中する傾向がありました。子ども家庭支援センター経由での利用ケースは、毎月の定期的な利用となることが多く、こどもが地域で安定した生活を送るための支援の一端を担いました。

○利用児童の傾向

昨年度から継続利用する世帯が多く、未就学児から小学校低学年児童の利用が多くありました。神経発達症の診断を受けているこどもが多く、こどもの成長発達や特性に応じた支援が必要とされました。また、家庭での被虐待体験を経て利用に至るケースも多く、直接的な生活支援のみならず、心理的なケアや意見表明の機会の保障が望まれました。

○家庭状況

児童相談所の一時保護から家庭復帰する際に利用登録を行う世帯など、家族関係調整が望まれるケースがありました。また、こどもの寝かしつけや夜泣き対応、発達特性等により保護者の養育負担が大きい世帯、保護者の精神疾患に伴うレスパイトの必要から利用する世帯が多くありました。保護者負担の軽減による虐待防止の観点から利用する家庭が多くなっています。

利用要件別利用人数（ショートステイ）

	陽だまり荘
残業等（夜勤含む）	53 人
出張	32 人
出産	2 人
疾病	4 人
入院	0 人
公的行事	0 人
冠婚葬祭	0 人
介護（看護含む）	14 人
その他（レスパイト等）	1,391 人
計	1,496 人

利用要件別利用人数（要支援）

	陽だまり荘
残業等	0 人
出張	0 人
出産	0 人
疾病	0 人
入院	0 人
看護	0 人
冠婚葬祭	0 人
介護	0 人
その他（レスパイト等）	250 人
計	250 人

家庭状況

		陽だまり荘
ショートステイ	父母世帯	720 人/ 要支援: 155 人
	母子世帯	770 人/ 要支援: 95 人
	父子世帯	6 人/(うちその他 6 人) 要支援: 0 人
	計	1496 人/ 要支援: 250 人
延べ数		1496(250)人

行事の実施状況

	練馬
4 月	桜のセンサリーボトル制作
5 月	鯉のぼり制作・菖蒲湯体験
6 月	紫陽花制作
7 月	七夕制作
8 月	海の生き物制作
9 月	お月見体験
10 月	ハロウィン制作
11 月	秋のリース制作
12 月	クリスマスリース制作
1 月	お正月遊び
2 月	バレンタイン
3 月	進級祝い

2 0 2 5 (令和 7) 年度

事業報告

自 2025(令和 7)年 4月 1日(火)

至 2026(令和 8)年 3月31日(火)

社会福祉法人 大洋社

一時預かり事業

Ⅳ 一時預かり事業 (第2種社会福祉事業)

事業概要

施設名		保育室サン御園	大田区立子ども家庭支援センター大森 一時保育室
事業開始		平成24年6月1日	平成25年3月1日
所在地		大田区西蒲田7-49-2 大田区社会福祉センター1階	大田区大森北4-16-5
連絡先		Tel 03-6424-5088	Tel 03-5753-0805
		Fax 03-6424-4933	Fax 035753-0806
一時預かり	定員	13人	15人
	延べ	3,397人	3,577人
定期利用	定員	3人	3人
	延べ	647人	251人
対象者		一時預かり事業	生後5か月から就学時前の児童
		定期利用型事業	大田区在住の1歳児および2歳児

1 総括

保育室サン御園

「一時預かり事業」は計 3,397 人の利用があり、昨年度の利用人数を下回ったものの、0～1 歳の利用が全体の多くを占め、初めての集団生活を経験する場としての利用が多くありました。利用目的はリフレッシュが中心であり、就労要件による利用が減少傾向にあります。予約開始日には問い合わせが集中し、特に土曜日はすぐに定員に達するなど、利用ニーズの高さが継続して見られました。

「定期利用事業」は今年度より定員が 3 名となり、そのうち 2 名が昨年度からの継続利用でした。6 月からは 3 名の入れ替わりがなかったため、仲が深まり、相互に刺激を受けながら関係性を深める姿が見られました。友だちとの関わりを通して思いやりの気持ちや身の回りのことに取り組む更なる意欲が育ち、定期利用の集大成として、体だけでなく心も大いに成長しました。

（重点事項実施状況）

令和 7 年度は一時預かり定員が 13 名になり、0～1 歳の預かりが多くなることが予想されました。そのため、乳幼児が安心して過ごせる環境設定とインシデントの汲み取りを徹底し、アクシデントの予防に重点を置くことで、インシデントの把握件数が増加した一方で、重大事故の発生は抑制され、予防的な安全管理体制の強化に繋がりました。また、不適切保育防止の学習を継続し、職員一人ひとり振り返りができるように、職員間で意見交換やロールプレイを行い、保育の質の向上に努めました。

大田区子ども家庭支援センター大森 一時保育室

「一時預かり事業」は、定員数が増えて予約は多くなりましたがキャンセルも多く、結果的にはあまり増加しませんでした。夏季は来所までの外気温の暑さによりこどもの体温が高く、受け入れが難しい状態が多くあり、今年度の傾向の一つとして挙げられます。また、例年は 15 時以降の利用が減少傾向でしたが、今年度は夕方の短時間利用も多く、一時的な利用が増えて気軽に利用できる保育室となりました。

「定期利用保育」は対象と定員が減り、1 名で始まりました。毎日同じこども達と遊べるわけではありませんが、他児の名前を知らせ、楽しめる言葉掛けをすると仲良く遊ぶことができました。感触遊びや自然物に触れた遊びを積極的に取り入れ、小さな挑戦や発見を積み重ねました。散歩中は交通安全のためこどもと一緒に道路確認を行い、横断歩道を渡る際は自主的に手を挙げ、車が来ないか確認することが出来るようになりました。「定期利用保育」は待機児童問題解消により、令和 7 年度で事業が廃止となりました。

（重点事項実施状況）

令和 7 年度は、こどもの成長発達状況に合わせた保育に関する学習を行いました。職員自身が講師となり、学習時間を作る事で学びが深められました。但し、単発的な実践はできても継続的な実践には至らず、今後も取り組みが必要となります。事故予防の徹底に関しては、アクシデント等の要因分析や事業所としてのウィークポイントの分析は出来ましたが、効果的な改善策を見つけるまでは至りませんでした。次年度の課題として挙げています。不適切保育の防止に関しては、数年継続して取り組んでいることから意識向上はしており、言葉掛けの内容が変わってきている事も感じられます。今後も意識を高め、人権尊重をした保育となるよう努めます。

2 良質なサービスの提供

(1) サービス内容

- ① 保育の質の向上を目指して、「定期利用保育」のこどもに対しては、一人ひとりの成長発達に合った保育カリキュラムを作成し、保育を行いました。
- ② こどもが愛情に満ちた、安心できる環境の中で成長していけるように、保護者との連携を図りながら、こどもの健全な心身の発達を支える保育の実践に努めました。

主な年間行事

	保育室サン御園	大森 一時保育室
4 月	お花見	お花見
5 月	母の日	母の日
6 月	父の日	父の日
7 月	七夕飾り	七夕飾り
8 月	うちわ作り	うちわ作り
9 月	敬老の日、夏の思い出製作	敬老の日、夏の思い出製作
10 月	ハロウィン	ハロウィン
11 月	勤労感謝の日	勤労感謝の日
12 月	クリスマス会	クリスマス会
1 月	新年のお祝い	新年のお祝い
2 月	豆まき	豆まき
3 月	お雛様	お雛様

(2)利用状況

①利用の提供と利用者状況

保育室サン御園

令和 6 年度の「一時預かり」では、リフレッシュや家事、お買い物等を目的に利用される方が多く見られました。また、初めての親子分離の場所として利用される方も多く、集団で過ごす練習として短時間での利用が多くみられました。長期休暇期間中は就労要件による預かりの利用の傾向が確認され、一方「定期利用」では、自営業やフリーランスなど、保育園の入園基準に該当しにくい就労形態の方による利用が中心となりました。

○ 利用児童の傾向

「一時預かり」では、0 歳児から 1 歳児の利用が全体の約 7 割を占めており、年々、低年齢児の利用が増加する傾向が見られます。また、長期休暇期間中は、3 歳児以上の預かり利用も多くなっています。初めて利用する子どもは泣く姿も見られますが、慣らし保育を行うことで、保育室の生活に徐々に慣れ、定期的かつ長時間利用する子どもも多く見られました。

「定期利用」では、1 歳児クラスからの持ち上がりにより、2 歳児クラスで継続して利用する子どもが多く見られました。保育室での生活にも慣れ、集団活動や保育者との関わりにおいても、安定した姿が見られています。

○ 家庭状況

「一時預かり」は二人親世帯が大半を占めておりますが、一人親世帯や大田区こども家庭支援センターからの紹介で利用する世帯も数世帯ありました。単発の利用では家庭状況が見えづらいという課題はありますが、継続的に利用がある世帯とは積極的にコミュニケーションを図ることで関係構築がなされ、保護者からの相談対応へと繋がりました。

「定期利用」はすべての利用者が二人親世帯でした。成長したことで自我が強くなったこどもの気持ちの受け止め方や、きょうだいが多くいる中での関わり方など、悩み事の相談対応をしたり、話を傾聴したりと、それぞれの保護者の気持ちに寄り添い、こどもの成長を共に喜び、見守る姿勢を大切にしました。

令和 8 年 3 月 31 日現在

利用要件名			
一時預かり		定期利用	
就労	640	就労	647
介護	0	求職	
冠婚葬祭	0	介護	
通院	501	その他	
リフレッシュ	1,473	計	647
その他（※）	783		
計	3,397		

※兄弟姉妹の行事参加など

利用年齢			
一時預かり		定期利用	
0 歳児	705	2 歳児クラス	647
1 歳児	1,626		
2 歳児	532		
3 歳児	150		
4 歳児	206		
5 歳児	178		
計	3,397		

利用時間			
一時預かり		定期利用	
4 時間以内	1,199	4 時間以内	2
4 時間以上	2,198	4 時間以上	645
計	3,397	計	647

大田区子ども家庭支援センター大森 一時保育室

「一時預かり」については、例年同様「その他」の利用が最も多く、「通院」は昨年度より増加しました。一方で、待機児童問題の解消の影響もあり、「就労」による利用は減少傾向にありました。予約状況としては、月初めに定員を超える申し込みがあり、電子申請による予約は開始後数分で定員に達する曜日や時間帯も見られました。その一方で、当日の体調不良によるキャンセルや無断キャンセルもあり、全体として予約が取りづらい状況が続いています。

利用時間については、長時間の予約が難しい状況でも利用ニーズは高く、短時間で予約した後にキャンセル枠が出た際、利用時間を延長するケースも見られました。また、例年は希望の少なかった夕方の時間帯についても、今年度は1～2時間の短時間利用の希望が増加し、4時間以内の利用が昨年度より増える傾向となりました。短時間でも、掃除や買い物などを目的とした気軽な利用が広がっています。

「定期利用保育」については、待機児童問題の解消により、2歳児のみ定員3名へと縮小されました。2月までは前年度からの継続利用者1名（産休・育休による「その他」要件）のみでしたが、3月に区外からの転入者1名が、4月入園までのつなぎとして「就労」要件で利用を開始し、最終的に計2名での運用となりました。なお、1歳児で定期利用を希望する問い合わせは多くありましたが、対象外であるため利用には至らず、結果として定員に空きがある状況となりました。これらの希望者に対しては、「一時預かり保育」の利用を案内しました。

○利用児童の傾向

「一時預かり」は例年同様0～2歳児の利用が多く割合も増え、前年度より更に低年齢化となりました。食べ物アレルギーをもつお子さんも多く、職員間での配慮事項を情報共有し、食事対応への配慮を心掛けました。3～5歳児の利用は長期休みは例年通り多くありましたが、土曜日の利用は減少傾向でした。

「定期利用保育」は、対象が2歳児のみとなったことで、継続者1名の利用で始まりました。年度当初は気の合う他児が転園し、第2子出産等による家庭状況の変化等もあり、保育者と関わりながら安心して遊ぶ姿が多く見られました。家庭と保育室でこどもの姿を共有し、1対1の関わりやありのままの姿を受け止めて情緒の安定を図る保育が出来ました。継続して一時預かり保育を利用していることも一緒に散歩や活動を行う中でこども同士の仲が深まり、手を繋いで歩いたり名前を呼び合ったり、遊んだりする姿が見られるようになりました。最後の1ヶ月に入園したこどもは転園続きとなる為一時預かり保育と同様の保育スタイルとし、ゆったりと過ごせることを重視した関わりを多くしたことにより、落ち着いて遊ぶことができました。

○家庭状況

「一時預かり」は、二人親世帯が大半を占めていましたが、母親一人での育児による負担軽減のため、リフレッシュ利用する世帯も増加傾向にありました。家庭の様々な事情により、送迎には祖父母やベビーシッターが代行する世帯も見られました。こどもたちとの日々の関わりの中で、保護者もこどもも安心して過ごせる保育室の存在を目指しました。

「定期利用保育」はすべての利用者が二人親世帯でした。出産時期が重なり、送迎が祖父母に代わるこ

ともありましたが、連絡帳や送迎時にコミュニケーションをとる中で、こどもの姿や成長を丁寧に継続して伝えることが出来ました。家庭での様子を聞き取りながら働き掛けの方法を一緒に考え、家庭と連携した促しが出来ました。3月に入園した世帯は外国籍世帯であり、日々の様子を伝える際は丁寧に行うようにしました。

利用要件

一時預かり		定期利用	
就労	725 人	就労	52 人
介護	4 人	求職	0 人
冠婚葬祭	7 人	介護	0 人
通院	624 人	通学	0 人
その他（※）	2,217 人	その他	199 人
計	3,577 人	計	251 人

利用年齢

一時預かり		定期利用	
0 歳児	757 人	2 歳児クラス	251 人
1 歳児	1,601 人	計	251 人
2 歳児	702 人		
3 歳児	340 人		
4 歳児	101 人		
5 歳児	65 人		
6 歳児	11 人		
計	3,577 人		

利用時間

一時預かり		定期利用	
4 時間以内	1,111 人	4 時間以内	1 人
4 時間以上	2,466 人	4 時間以上	250 人
計	3,577 人	計	251 人

③危機管理（事故・災害等）

保育室サン御園

今年度は、アクシデント 6 件、インシデント 36 件の報告がありました。保育者の危機察知能力の向上や保育室環境の見直し、さらに保育者数に応じた利用者数の調整を行った結果、大きな怪我や緊急通報につながる事故は減少しました。一方、アクシデントの中には、誤飲につながる恐れのある事例や、荷物管理の不備による渡し忘れなどが見られました。これらを踏まえ、さらなる保育室環境の改善や荷物管理方法の見直しを進め、再発防止策の具体化と職員間での共有を徹底しています。

また、災害対応においては、新たに停電時を想定した訓練を行い、多様な災害を想定した実践的な訓練を実施しました。職員間で緊急時・災害時に必要な訓練内容や方法を検討し、繰り返し実践することで、非常時への対応力の向上を図りました。

○ 災害対策（防災訓練）

実施日 時間	訓練内容						場所/実施方法	参加人数
	初期 消火	通報	避難	総合	BCP	その他		
4 月 25 日 10:00～10:15	○	○	○	○			キッチンからの火災を想定した避難誘導の訓練	利用者 10 人 職員 5 人
5 月 22 日 14:45～15:00	○	○	○	○			午睡の時間帯を想定した避難誘導の訓練	利用者 8 人 職員 5 人
6 月 23 日 9:15～9:25	○	○	○	○			朝の時間帯を想定した避難誘導の訓練	利用者 5 人 職員 3 人
7 月 22 日 17:00～17:15	○	○	○	○			夕方の時間帯を想定した避難誘導の訓練	利用者 2 人 職員 2 人
7 月 24 日 17:00～17:15		○				○	喉のつまり発生時の発見、通報、処理、記録、緊急通報訓練	利用者 0 人 職員 4 人
8 月 20 日 15:30～15:45	○	○	○	○			おやつ中、事務所からの火災を想定した避難誘導訓練	利用者 8 人 職員 4 人
8 月 25 日 16:30～16:45		○	○			○	不審者対応訓練	利用者 6 人 職員 5 人
9 月 26 日 10:00～10:30	○	○	○	○	○		地震発生後、ビル上階からの火災を想定した避難誘導訓練	利用者 7 人 職員 5 人
10 月 24 日 17:00～17:15		○	○			○	停電対応訓練	利用者 0 人 職員 3 人
10 月 27 日 16:00～16:15	○	○	○	○			地震発生後、玄関口からの火災を想定した避難誘導訓練	利用者 1 人 職員 3 人
11 月 18 日 10:15～10:30	○	○	○	○			地震発生後、キッチンからの火災を想定し避難誘導訓練 立ち合い訓練	利用者 11 人 職員 5 人
12 月 26 日 10:45～10:55	○	○	○	○			昼食前の時間帯を想定した避難誘導の訓練	利用者 9 人 職員 4 人

1月27日 16:00～16:15		○				○	出血を伴う怪我が起こった際の発見、通報、処置、記録、緊急通報訓練	利用者 職員	0人 3人
1月29日 10:05～10:15	○	○	○	○			地震発生後、事務所からの火災を想定した避難誘導の訓練	利用者 職員	9人 6人
2月25日 16:15～16:30	○	○	○	○	○		地震発生後、近隣ビルより火災発生、津波を想定した避難誘導の訓練	利用者 職員	6人 4人
3月24日 10:00～10:15	○	○	○	○			キッチンからの火災を想定した避難誘導の訓練	利用者 職員	8人 4人
3月24日 10:55～11:00		○	○			○	不審者対応訓練	利用者 職員	5人 2人

大田区子ども家庭支援センター大森 一時保育室

アクシデント41件、インシデント33件、ヒヤリハット17件の報告がありました。今年度は噛みつきや転倒などによるこどもの怪我が多くありました。いずれもこどもの特性など職員間の情報共有不足や、こどもの動きに対する予測不足などが要因として挙げられました。こどもの特性など事前情報は受け入れ後に、職員間で周知を行い、保育者の配置など安全に保育を行えるように努めました。またインシデントでは食事スペースやトイレスペースでの気付きが多く、アクシデントに繋がる前に職員間でインシデント内容を共有し、対策することが出来ました。今後も保育室内の危険が予測される場所や場面を職員間で意見交換を行い、安心安全な保育に努めていきます。

○ 災害対策（防災訓練）

実施日 時間	訓練内容						場所/実施方法	参加人数	
	初期 消 火	通 報	避 難	総 合	BC P	その 他			
4月23日 10:10～10:25	○	○	○	○			地震発生後、ハローワークからの火災発生を想定した訓練	利用者 職員	7人 8人
5月23日 14:30～14:45	○	○	○	○			保育室内からの火災発生を想定した訓練	利用者 職員	9人 7人
6月23日 11:30～11:45	○	○	○	○			地震発生後、キッチンからの火災発生を想定した訓練、	利用者 職員	9人 6人
6月27日 14:30～14:45						○	不審者対応訓練 不審者が窓から来訪しようとすることを想定した訓練	利用者 職員	6人 6人

7月23日 14:45~15:00	○	○	○	○	○	○	BCP 訓練 震度6の地震発生後、駐輪場から火災発生、初期消火失敗後、第一避難所までの避難訓練 引取り訓練実施	利用者 8人 職員 6人
8月23日 16:10~16:25	○	○	○	○		○	地震発生後、隣接する建物からの火災発生、津波を想定し、階段にて屋上までの避難訓練	利用者 8人 職員 3人
9月22日 10:15~10:25	○	○	○	○			地震発生後、給湯器からの火災発生を想定した訓練	利用者 8人 職員 6人
9月24日 14:40~15:00			○			○	台風による大雨と集中豪雨を想定し、階段で3階までの垂直避難訓練	利用者 10人 職員 8人
10月23日 15:30~15:45	○	○	○	○			地震発生後、トイレより火災発生を想定した訓練	利用者 8人 職員 4人
11月22日 15:40~16:00	○	○	○	○	○	○	BCP 訓練 震度6の地震発生後、給湯器から火災発生、初期消火失敗後、第一避難場所までの避難訓練 引き取り訓練実施	利用者 7人 職員 5人
12月23日 11:15~11:25						○	不審者対応訓練 散歩帰園途中に不審者に遭遇したことを想定した訓練	利用者 5人 職員 5人
12月23日 14:40~14:55	○	○	○	○			地震発生後、給湯器からの火災発生を想定した訓練	利用者 12人 職員 9人
1月23日 10:25~10:40	○	○	○	○			給湯器からの火災発生を想定し、第一避難所までの避難訓練	利用者 9人 職員 6人
2月22日 15:20~15:40	○	○	○	○		○	台所、給湯器からの火災・ガス漏れを想定した訓練	利用者 11人 職員 5人
3月21日 10:20~11:35	○	○	○	○			地震発生後のトイレより火災発生を想定した訓練	利用者 9人 職員 5人

④要望等解決(苦情解決)

保育室サン御園

令和7年度は、相談11件、要望22件、苦情1件の計33件でした。職員が利用者との関わりを安定的・継続的に積み重ねてきたことで良好な信頼関係の構築が進み、昨年度と比較して相談・要望件数の増加、苦情件数の減少という結果につながりました。相談等は主に定期的にご利用している保護者から寄せられることが多くありましたが、初めて利用される方からも、子どもの様子を気にする声や、初めての親子分離に対する不安の声が挙がりました。

そのような声に対し、日々の関わりを大切にするとともに、初回利用者にはより丁寧な説明を行い、子どもの様子の共有や専門的な助言を伝えました。今後は一時預かり事業に特化した

支援へ移行します。限られた関わりの中でも信頼関係を築けるよう工夫し、利用者が安心して過ごせる環境整備に引き続き取り組んでいきます。

大田区子ども家庭支援センター大森 一時保育室

令和7年度は、相談が15件、要望が12件、苦情が2件でした。日頃から利用者対応の姿勢の意識向上を目指し、コミュニケーションを積極的に取ることで、前年度よりも要望件数は4倍の増加し、苦情件数が減少しました。相談は例年通りこどもの成長発達に関するものが多く、丁寧に返答した結果、感謝の手紙をいただく嬉しいご意見もありました。要望は月初めの予約受付に関するものが多く、大田区へ意見として報告しました。苦情1件は受付対応の遅さ等の職員対応に関するもので、2件目は荷物の入れ間違いに関するものでした。丁寧な利用者対応を心掛けるよう職員間でも周知して改善に努めました。

⑤情報管理（個人情報保護・情報開示・セキュリティ）

保育室サン御園

情報の取り扱いについて、基礎的な学習を行い、職員全体の理解の底上げと基盤の強化を図りました。また、さまざまなケースを想定した対応方法を確認することで、実践的な対応力の向上にもつなげました。さらに、日々の保育記録やカリキュラムの見直しを通して学習を重ね、より適切で分かりやすい表現方法の習得に努めました。来年度は一時預かり保育が主体となる支援提供になることを踏まえ、保育記録様式やしおり、新たな連絡メモの見直し・追加を行い、全体の書類整理を進めました。これにより、情報管理の一層の徹底と運用の明確化を図りました。

大田区子ども家庭支援センター大森 一時保育室

情報管理は、個人情報保護の取り扱いについてマニュアルや取り扱い方法の理解を深めるだけでなく、意識強化のために職員間で身の回りの情報漏洩を考えられる場所について意見を出し合いました。一人ひとりの意見を共有したことで、身の回りの個人情報の漏洩について考える機会を作り、意識を高めることができました。また、継続して取り組んでいる正しい記録の書き方と表現についての学習は、来年度も見据えて一時預かり保育の記録に着目して取り組みました。正しい書き方以外にも手本となる文章も資料を用いて確認したことで、実践を意識した文章表現について学習することができました。

(3)総務委員会

保育室サン御園

○建物・設備維持管理（保守・点検）

実施日	項目	点検の種類
4月13日 4月15日	設備清掃 設備点検	床ワックス 自動ドア保守点検
5月3日6日 5月11日	設備点検、清掃 設備清掃	照明器具・吸出口・フィルター他 床ワックス
6月8日 6月17日	設備清掃 設備点検	床ワックス 消防用設備法定点検
7月7日 7月13日 7月13日	設備点検 害虫駆除 設備清掃	自動ドア保守点検 害虫駆除 床ワックス・窓清掃・エアコンフィルター
8月10日	設備清掃	床ワックス
9月14日 9月28日	設備清掃 設備清掃	床ワックス・エアコンフィルター 貯水槽清掃
10月2日 10月12日	設備点検 設備清掃	自動ドア保守点検 床ワックス
11月9日	設備清掃	床ワックス、吸出口
12月14日 12月23日	設備清掃 設備点検	床ワックス・窓清掃・エアコンフィルター 消防用設備法定点検
1月11日 1月11日 1月11日 1月23日	設備清掃 害虫駆除 設備点検 定期点検	床ワックス 害虫駆除 電気設備点検（法定点検） 自動ドア保守点検
2月8日	設備清掃	床ワックス
3月8日 3月26日	設備清掃 設備点検	床ワックス、エアコンフィルター 建築設備定期検査

○保健衛生

今年度も継続して毎月のおたよりや年4回のすこやかだよりの配布や掲示を行い、感染症対策や食育、環境美化に関する情報提供を行うことで、利用者の保健衛生や健康の増進を図りました。日頃から、保育者・こどもの手洗いの励行や保育室内の消毒の徹底をし、感染症対策に努め、保育室内で感染症が大きく流行することがありませんでした。また、健康的な生活やメンタルヘルスについての学習を行い、職員自身の健康増進を図りました。

○健康管理（乳幼児）

月日	内容	参加人数
6月7日	入園前健康診断	入園前児童 1人
6月12日	健康診断	定期利用保育児 2人
11月27日	健康診断	定期利用保育児 3人

大田区子ども家庭支援センター大森 一時保育室

○建物管理（保守・点検）

実施日	項目	点検の種類
4月8日	定期清掃	床清掃
15日	非常通報装置	定期保守点検
5月10日	特別清掃	窓ガラス、網戸、格子柵、空調機フィルター
13日	定期清掃	床清掃
15日	電気設備点検	定期保守点検
19日	機械警備点検	定期保守点検
27日	殺虫トラップ点検	定期保守点検
6月5日	自動ドア点検	定期保守点検
8日	空調機清掃作業	空調機清掃
10日	定期清掃	床清掃
20日	エレベーター点検	定期保守点検
7月1日	電気設備点検	定期保守点検
5日	害虫駆除	定期保守点検
8日	定期清掃	床清掃
8月1日	公共施設点検	定期保守点検
12日	定期清掃	床清掃
9月7日	消防用設備点検	定期保守点検
8日	電気設備点検	定期保守点検
9日	定期清掃	床清掃
9日	シャッター点検	定期保守点検
10日	トイレ自動ドア点検	定期保守点検
19日	エレベーター点検	定期保守点検
10月5日	排水管清掃	定期保守点検
14日	定期清掃	床清掃
16日	非常通報装置点検	定期保守点検
23日	自動ドア点検	定期保守点検
11月8日	特別清掃	窓ガラス、空調機フィルター、照明、ブラインド
9日	電気設備点検	定期保守点検
11日	定期清掃	床清掃
30日	ガス法定点検	定期保守点検
12月9日	定期清掃	床清掃
17日	エレベーター点検	定期保守点検

1月13日	定期清掃	床清掃
15日	電気設備点検	定期保守点検
2月3日	自動ドア点検	定期保守点検
10日	定期清掃	床清掃
3月1日	消防用設備点検	定期保守点検
10日	定期清掃	床清掃
28日	特別清掃	窓ガラス、空調機フィルター、照明、ブラインド

○保健衛生

前年度より保育室側でオムツを回収する事となったため、今年度も衛生面の徹底や臭い対策等を強化しました。感染症が発生時には消毒の徹底を行い、感染症マニュアルに基づいた迅速な対応を行いました。玩具や保育室内、オムツ交換時の消毒等を徹底し、感染予防にも努めました。また、感染症が流行する時期には掲示物等により保護者へ注意喚起を働きかけました。食育や健康については、おたよりの配布と掲示の他、保育室で野菜を育てたり、持ち帰ったり等、家庭と連携して食育にも取り組むことが出来ました。

○健康管理(乳幼児)

月 日	内 容	参 加 人 数
6月19日	健康診断	定期利用保育児 1人
12月9日	健康診断	定期利用保育児 1人
2月27日	入園前健康診断	入園前児童 1人

2025(令和7)年度

事業報告

自 2025(令和7)年 4月 1日(火)

至 2026(令和8)年 3月31日(火)

社会福祉法人 大洋社

ファミリー・サポート・センター事業

Ⅵ ファミリー・サポート・センター事業

(第2種社会福祉事業)

【事業概要】

施設名	ファミリー・サポート・センター事業	
事業開始	平成 25 年 3 月 1 日	
所在地	大田区大森北 4-16-5	
連絡先	Tel 03-5753-1152 Fax 03-3763-0191	
対象者	利用会員	大田区在住、もしくは在勤の方 対象年齢は生後 4 か月から、おおむね 12 歳までのお子さんをお持ちの方
	提供会員	大田区在住の 20 歳以上の心身ともに 健康な方で、 地域の子育て支援に熱意のある方 (提供会員養成講座を受講後の登録 となります)
	両方会員	上記の利用会員・提供会員のどちらに も該当で、 希望のある方

Ⅰ 総括

令和 7 年度は、時期と依頼の件数に変動が少なく、依頼数や事前打ち合わせ数等は年間を通して毎月平均的にありました。

提供会員に関しては、こどもへの虐待防止・不適切保育防止の働き掛けとして、提供会員養成講座にその内容を盛り込みました。また、会員自身による虐待や犯罪歴の有無の確認を行う等、事業としての虐待防止体制の構築に努めました。

利用会員に関しては、Web で動画視聴後の書類提出による入会手続きが軌道にのった為、今年度で利用会員登録説明会の実施を終了いたしました。依頼としては療育施設への送迎がここ数年増加しており、今年度は年間を通して依頼があったことが特徴として挙げられます。どの依頼も安全な活動となるよう吟味しながらマッチングを行いました。

（重点事項実施状況）

令和 7 年度の事業計画の重点事項のうち、職員のマッチング力向上の為、依頼内容の確認を行い、聞き取り時のワンポイントを職員間で確認し合う等、理解を深めました。災害対策面では、事前打合せ時に活動時の避難先等の確認をしっかりと行い、会員への意識作りを行う事が出来ました。安全な活動のためにヒヤリハットアンケートを実施し、活動の際のワンポイントアドバイスを掲載する等事故予防啓発を行いました。

2 良質なサービスの提供

（Ⅰ）サービス内容

①提供会員に関する業務

年 4 回開催した提供会員養成講座では、新たに 52 名の方が登録をされました。今年度よりこどもの虐待防止や不適切保育防止の内容を講義の中に盛り込みました。年 2 回の地域交流会では、7 月に産後の家庭との関わり方というテーマで講座を行いました。産後ドゥーラをしている提供会員に講師をお願いし、参加者は 23 名でした。2 月にはこどもの人権と適切な関わりというテーマで講座を行い、24 名が参加しました。講師は子ども家庭支援センターの職員をお招きし、虐待防止と不適切保育防止についての学習をしました。交流時間では、活動に関する困りごとや工夫点等の意見交換を行う等、会員同士の交流を図る事ができました。フォローアップ講習会では救急救命講習を実施し、9 名が参加しました。少人数でしたが、一人ひとりがじっくりと実技に取り組み、しっかりと学ぶことが出来ました。

②利用会員に関する業務

令和 7 年度の利用会員の年間登録数は 419 名となり、前年度とあまり変わりませんでした。登録の際は対面で説明を聞いたとの希望から、利用登録説明会に参加するが 18 名いました。関係機関から配布するフ

ファミリー・サポートの申込用紙セットの配布数が前年度より多くなり、他機関からの紹介による問い合わせも増えてきました。支援を必要とする家庭にファミリー・サポートの周知がされていることが実感でき、地域における需要の高さが窺えます。より多くの方が登録までスムーズに行えるよう、今後とも広報はしっかりと行っていきます。

③その他の業務

会報誌は全会員向けを2回(6・10月)、提供会員向けを2回(8・1月)発行しました。郵送費の値上げにより、前年度は提供会員向けを1回発行としていましたが、令和7年度は通常通り2回発行に戻しました。提供会員にはヒヤリ・ハットアンケートを実施し、1月の会報誌にて集計結果と共に活動の際の注意喚起をワンポイントで掲載する等、事故予防啓発を行いました。また、こどもの人権擁護や虐待防止のため、全提供・両方会員に対して虐待行為をしていない事の「宣誓書」を発送し、提出を依頼しています。

プログラムの実施状況

4月	—
5月	—
6月	提供会員養成講座、会報誌発行
7月	地域交流会
8月	—
9月	提供会員養成講座
10月	提供会員養成講座、会報誌発行
11月	—
12月	フォローアップ講習会
1月	会報誌発行
2月	提供会員養成講座、地域交流会
3月	更新手続き

(2)事業の普及及び会員拡大

①事業の普及

今年度も提供会員養成講座を大森・蒲田地区で各2回ずつ開催しました。前年度よりも受講希望者自体が減少傾向にあり、登録者が大幅に減少しました。大田区報への掲載が2回までとなり、今までの半分となりました。区報に掲載される月は電子申請への申し込みも多いことから、区報の広報力が高いことを実感しました。また、電子申請となってから受講希望者の世代が若い世代に広がったことは良い点ですが、逆に60代以降の申し込みが減ったことは課題です。今後の新しい広報活動のさらなる開拓が課題となります。

(3)利用状況

①サービスの提供

令和 7 年度の利用総延べ人数は 9,548 名で、前年度より増加しました。活動内容の割合は例年と変わらない傾向ですが、小学生の預かりや送迎等が若干増加傾向にあります。前年度より予測されておりました療育施設への送迎等は予想通り増加しており、これが保育施設への送迎の増加に繋がっています。依頼数は前年度とあまり変わらず 482 件でした。事前打ち合わせ数は 287 件、書類追記対応は 66 件で、前年度よりやや増加しています。

②利用者の状況

(利用児童の傾向)

利用児童の年齢は、例年通り乳幼児が多くを占めており、4 歳児と 6 歳児の割合が増え、8 歳児の割合が大幅に減少しています。4 歳児や 6 歳児は療育施設への送迎等で増加、8 歳児の減少は習い事の送迎等が一人で行けるようになり終了した為の減少と予想されます。例年同様、保育施設への送迎活動が多い状況となっています。

(提供・両方会員の傾向)

提供・両方会員の傾向としては、半数以上の方が 60 代以上である事は変わりませんでした。仕事や介護、子の受験等で休会となる方も見られます。提供会員養成講座の申し込みが電子申請になった事から、60 代以降の受講希望者が減少しており、40・50 代の受講者が増加し、ました。その為、会員としても前年度より 40 代が増加しています。但し、新規の提供会員の多くは働く世代でもある為、活動に結び付きにくいのが現状の課題として挙げられます。

○提供会員年齢別人数

20 代	6 人	50 代	188 人
30 代	16 人	60 代	190 人
40 代	80 人	70 代以上	109 人

○利用児童年齢別人数

0 歳	226 人	5 歳	1,313 人	11 歳	122 人
1 歳	596 人	7 歳	655 人	12 歳	16 人
2 歳	1,127 人	8 歳	410 人	13 歳	0 人
3 歳	1,157 人	9 歳	520 人	未振分け	0 人
4 歳	1,647 人	10 歳	282 人		

合計 9,548 人

○活動利用人数

保育施設の送り(預かりを含まない)	1,723 人
保育施設の迎え(預かりを含まない)	3,102 人
保育所・幼稚園の登園前の預かり及び送り	126 人
保育所・幼稚園の迎え及び帰宅後の預かり	540 人
子どもの習い事等の預かりや送迎	1,869 人
保護者等のリフレッシュのための預かり	133 人
小学生の預かりや送迎	1,214 人
学童保育施設の迎え及び帰宅後の預かり	173 人
産前(出産)産後の兄弟姉妹の預かりや送迎	210 人
子どもの病気後の預かり	0 人
保育所・学校等の休み時の預かり	58 人
保育所等施設入所前の預かり	4 人
保護者等の短時間・臨時的就労の場合の預かり	126 人
保護者等の求職活動中の預かり	1 人
保護者等の冠婚葬祭による外出及び学校行事の場合の預かり	10 人
保護者等の買い物等外出の場合の預かり	173 人
保護者等の病気、急用などの場合の預かり	34 人
その他	52 人
マスターにない項目	0 人
合計	9,548 人

③危機管理(事故・災害等)

アクシデント 4 件、インシデント 13 件の報告がありました。アクシデントは、分室への書類持出しと週間予定表への事前打合せ入力漏れ、机の施錠漏れがあり、前年度と同様職員の確認不足等によるものでした。また、預かり活動中のこどもの怪我が発生し、保険適用となりました。

インシデント報告は、引き続き職員のケアレスミスによるものが多くありました。書類業務が煩雑な傾向があり、ダブルチェックで予防に繋がっているものも多くあります。今後も一つひとつ丁寧に作業を行うよう職員間で意識出来るよう確認をしていきます。

○災害対策(防災訓練)

実施日 ／時間	訓練内容						場所／実施方法	参加人数
	初期 消火	通報	避難	総合	BC P	その他		
実施なし								

④要望等解決（苦情解決）

相談 1 件、要望 2 件、苦情 3 件でした。相談は、利用会員からのお礼のご意見でした。要望は、利用会員宅での活動に関する要望と会員情報の更新作業のデジタル化に関する要望で、大田区にも情報共有をしました。苦情は利用会員の元夫からの離婚調停に関するファミリー・サポート事業の介入の仕方に関する内容と、会員間の連絡の取り方に関する内容と、書類追記対応の遅れに関する内容でした。会員に関する内容は双方の意見を行い、調整をしました。対応の遅れに関しては職員の連携ミスでもあった為、今後は業務の流れを適切に行えるよう各職員に引継ぎをしっかりと行い、次年度も引き続き取り組みます。

⑤情報管理（個人情報保護・情報開示・セキュリティ）

毎月、情報管理に関する目標を掲示し、職員会議でも確認する等、職員一人ひとりが意識できるよう働きかけました。また、情報の取り扱いに関して職員の対応に注意が必要な際には、一つずつ注意点を確認しながら業務を進める等、適切な処理が行われるよう周知をしました。

(4)総務委員会

○建物・設備維持管理（保守・点検）

実施日	項目	点検の種類
4 月 8 日	定期清掃	床清掃
15 日	非常通報装置	定期保守点検
5 月 10 日	特別清掃	窓ガラス、網戸、格子柵、空調機フィルター
13 日	定期清掃	床清掃
15 日	電気設備点検	定期保守点検
19 日	機械警備点検	定期保守点検
27 日	殺虫トラップ点検	定期保守点検
6 月 5 日	自動ドア点検	定期保守点検
8 日	空調機清掃作業	空調機清掃
10 日	定期清掃	床清掃
20 日	エレベーター点検	定期保守点検
7 月 1 日	電気設備点検	定期保守点検
5 日	害虫駆除	定期保守点検
8 日	定期清掃	床清掃
8 月 1 日	公共施設点検	定期保守点検
12 日	定期清掃	床清掃

9月7日	消防用設備点検	定期保守点検
8日	電気設備点検	定期保守点検
9日	定期清掃	床清掃
9日	シャッター点検	定期保守点検
10日	トイレ自動ドア点検	定期保守点検
19日	エレベーター点検	定期保守点検
10月5日	排水管清掃	定期保守点検
14日	定期清掃	床清掃
16日	非常通報装置点検	定期保守点検
23日	自動ドア点検	定期保守点検
11月8日	特別清掃	窓ガラス、空調機フィルター、照明、ブラインド
9日	電気設備点検	定期保守点検
11日	定期清掃	床清掃
30日	ガス法定点検	定期保守点検
12月9日	定期清掃	床清掃
17日	エレベーター点検	定期保守点検
1月13日	定期清掃	床清掃
15日	電気設備点検	定期保守点検
2月3日	自動ドア点検	定期保守点検
10日	定期清掃	床清掃
3月1日	消防用設備点検	定期保守点検
10日	定期清掃	床清掃
28日	特別清掃	窓ガラス、空調機フィルター、照明、ブラインド

○修繕

ファミリー・サポートの事務局は大田区子ども家庭支援センター内の一室にある為修繕等は建物内全体で行われます。

○保健衛生

今年度も引き続き消毒を徹底し、感染症が流行している時期に関しては事前打ち合わせの際に会員にも注意喚起を行う等、感染拡大防止に努めました。また、熱中症予防のため、夏季の長時間の送迎活動等は控えていただくか、一時的に交通機関を利用するよう会員に注意喚起を行い、マッチングの際にも調整を行いました。

令和 7 年度

事業報告

令和 7 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 3 1 日

社会福祉法人 大洋社

大 森 保 育 園

目 次

1. 運営のあらまし	1
「一年を振り返って」	
2. 保育事業実施実績	2
① 名称及び所在地	2
② 実施事業の内容	2
③ 利用児童数実施実績	2
④ 延長保育利用児童数実施実績	2
3. 保育内容、年間指導計画、環境	3
4. 職員関係	3
① 職員配置数	3
② 採用・退職	4
③ 各部分担の反省・感想	4
④ 職員会議実施実績	7
⑤ 保育会議実施実績	8
⑥ 職員研修実施実績	11
⑦ 細菌検査実施実績	12
⑧ 職員健康診断実施実績	12
5. 児童処遇関係	13
① 健康管理実施実績	13
② 健康診断実施実績	13
③ 歯科検診実施実績	13
④ 健康指導実施実績	13
⑤ ヒヤリハット・ケガ簿	14
⑥ 事故影報告書	14
⑦ 給食実施実績	14
⑧ 年間行事実施実績	14
6. 安全管理関係	18
① 災害・防犯訓練実施実績	19
② その他の訓練実施実績	19
③ 設備等点検実施実績	19

7. 保護者の関係	20
① 保護者懇談会実施実績	20
8. 自主事業関係	22
① パートナー保育登録実施実績	22
② 緊急一時保育実施実績	22
③ 一時保育実施実績	22
④ 体験保育実施実績	23
⑤ 年末保育実施実績	23
⑥ 育児講座実施実績	23
⑦ 老人ホーム交流会実施実績	23
9. 実習生・ボランティア・小中高大学生等受入関係	23
① 実習生受入実施実績	23
② ボランティア受入実施実績	24
③ 中学生・高校生職場体験受入実勢実績	24
10. 中長期計画・施設設備整備関係	24
① 給湯器老朽化に伴う入替	24
11. 苦情解決・対応について	24
① 利用者からの苦情解決の取り組み	24
② 苦情の件数	24
12. 東京都福祉サービス第三者評価	24
① 東京都福祉サービス第三者評価受審	24

1・運営のあらまし「一年を振り返って」

令和7年度は、転居により2歳児1名、3歳児1名、転園により5歳児1名が欠員の定員数53名でのスタートとなりました。途中入園と、転居による退園、その分の入園が複数人あり、最終的に54名をお預かりして3月末を迎えました。

年間の大きな行事も、一つ一つ職員皆でアイディアを出し合いながら、協力し実施して行く事で、子ども達はもちろんの事、保護者やそのご家族、地域の方々にも多く参加して頂きました。また、今年度も年長児さんの夏のお泊り保育「林間保育」に参加出来なかった要支援児がお泊りを経験出来るように昨年、初めて実施しました、保育園にて一泊のお泊り保育を今年も行いました。翌日には、「家族でカレーライス作り」も行い、とても喜んで参加しておりました。

また、令和7年度は子育て支援の一環として、「お父さん会」を企画し初開催をいたしました。子育てに悩むお父さん方も多い中、お父さん同志で話し合える場を提供する事で、お父さん同志の交流が深まり、縦と横の関係が出来、情報共有をして育児の悩みを解消する事が出来ていたようです。参加したお父さん達からは、「とても良い会を開催して頂き、ありがとうございます。毎月でもいいので開催してほしい」などの声を頂きました。

また、令和7年度は、大田区実地検査がありました。文章による指摘事項はございませんでしたが、当日の口頭による指摘事項はございましたので、順を追って改善して行きました。

職員の関係では、令和7年度も退職する職員はおらず、定着してきています。しかし、勤続年数が長くなるにつれ、産休育休を取得する職員も多くなり、2名、産休育休を取得しておりました。1名は来年度初めに復帰致しますが、もう1名はそのまま継続となります。

働き方を見直してから二年が経ちましたが、職員もゆとりを持って業務にあたる事が出来ており、実地検査の際も書類等の不備が無く進めて来ております。これからも、職員一人ひとりが守られながら、自己を出せる環境を整えて行き、安心して働くことの出来る職場となれるようにして行きます。そしてそのことにより、子ども達をしっかりと見守りながら丁寧に保育をして行けるように努めてまいります。

2・保育事業実施実績

① 名称及び所在地

社会福祉法人 大洋社 大森保育園
 東京都大田区大森南4丁目10番4号
 Tel 03-3741-7645

② 実施事業の内容

- ・保育所事業、定員56名
- ・延長保育事業、定員20名
- ・年末保育事業

③ 利用児童数実施実績（定員数：もも16名・さくら20名・うめ20名）

5歳児は昨年度より1名欠員の9名から年度途中での入退園が少し多い年となった。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
もも	16	16	15	16	16	16	16	16	16	16	16	16	191
0歳児	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	72
1歳児	10	10	9	10	10	10	10	10	10	10	10	10	119
さくら	18	18	17	19	20	20	20	20	20	20	20	20	232
2歳児	9	9	8	10	10	10	10	10	10	10	10	10	116
3歳児	9	9	9	9	10	10	10	10	10	10	10	10	116
うめ	19	19	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	218
4歳児	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	120
5歳児	9	9	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	98
合計	53	53	50	53	54	54	54	54	54	54	54	54	641

④ 延長保育利用児童数実施実績（定員数：20名）

延長保育定期利用を申請する児童が年々減少している傾向にある。また、臨時利用児童も少なく、働き方改革の影響もあり、延長保育を利用する児童は全体的に減少傾向にある。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施 日数	21 日間	20 日間	21 日間	22 日間	20 日間	20 日間	22 日間	18 日間	20 日間	19 日間	18 日間	22 日間	243 日間
申請児	0	0	0	42	38	34	34	34	38	38	36	38	332

臨時	13	11	8	10	6	8	9	10	13	8	9	10	115
合計	13	11	8	52	44	42	43	44	51	46	45	48	447
一日 平均	0.6 名	0.5 名	0.3 名	2.3 名	2.2 名	2.1 名	1.9 名	2.4 名	2.5 名	2.4 名	2.5 名	2.1 名	1.8 名

3・保育内容、年間指導計画、環境

保育所保育指針を根底に登園の保育の理念、方針を基に年間指導計画案、月案、週案を作成した。子ども達一人ひとりに寄り添い、主体性を大切にしながらも協調性、規範意識が育まれるように時には一斉保育も取り入れて活動を展開させてきた。その結果、落ち着いた姿が見られていた。

【*各クラスカリキュラム・記録等参照】

4・職員関係

① 職員配置数

職 種	国定数	都・区加算		基準外配 置	合 計
		常勤	非常勤		
計 算 上 の 職 員 数 （必 要 数）					
園 長	1				1
保 育 士	9	1	1		1 1
調 理 員 等	2	1	1		4
看 護 師	1				1
嘱 託 医			1		1
嘱 託 歯 科 医			1		1
合 計	1 3	2	4		1 9
在 籍 職 員 数					
園 長	1				1
幼児部主任保育士	1				1
乳児部主任保育士	1				1
幼児部副主任保育士	1				1
乳児部副主任保育士	1				1
保 育 士	5	1	1	4	1 1
栄 養 士	2				2
看 護 師	1				1

調 理 員 等		1	1		2
保育アシスタント				2	2
嘱 託 医			1		1
嘱託歯科医			1		1
会 計 士				1	1
社 労 士				1	1
合 計	1 3	2	4	8	2 7

② 採用・退職

採用、退職はなし。

③ 各部分担の反省・感想

各部署の担当は一年を振り返り、新年度の担当へ引き継ぎ・申し送りができるよう以下のように総評を行なう。

部 署 名	目 標	反省・感想
地域交流部 3 名	☆ 保護者、地域の方々、職員の交流を深め、皆が楽しめる行事計画をする。 ☆ 行事やその準備が、円滑に進むように、全職員に分かりやすく知らせ、協力し合って作り上げていく。 ☆ 多くの保護者にたたえる賞を授与できるよう企画・運営をする。 ☆ 地域の方が参加しやすい行事を企画運営し、子育て支援部と連携する。	☆ 職員の協力もあり計画通りに進めることが出来た。 ☆ ご案内を一カ月前、お知らせを一週間前の週末に出すようにした結果、行事に多くの方が参加頂けるようになり、たたえる賞が増えた。
子育て支援部 4 名	☆ 地域で子育てをしている家庭が気軽に保育園を利用したり、親子で講座に参加したり出来るように計画をする。 ☆ 育児講座では、保護者に子育ての楽しさを伝えていけるようにする。また、企画・計	☆ 育児講師は、保護者や職員の意見をもらい、早い段階で決められて良かった。 ☆ パートナー保育登録者は1名だが、ほぼ行事に参加をして頂

	画に当たっては、連絡会議等でこまめに進捗状況等を報告し、計画性を持って取り組み、全職員で準備が出来るようにする。 ☆ 保護者や地域の方々との交流を深め、気軽に相談できる雰囲気を作ったり、環境を工夫したりする。また、社会資源の活用、アドバイス等ができるように職員が学び、共有し支援に努める。	けた。 ☆ お父さん会を開催する事が出来た。大変盛り上がり良かった。
研修部 3 名	☆ 保育園の理念・方針、また、保育所保育指針から、自身や園の役割を理解する。 ☆ 一人ひとりが積極的に意見を出せる会議を目指す。 ☆ 職員同士の意見を積極的に交換しながら、子ども理解に繋がる会議を目指す。 ☆ 研修会に参加したり、学びを深めたりしながら、保育の質を高め、保育士としての意識の向上を図る。	☆ キャリアアップ研修では、ほぼ計画的に進められた。 ☆ 外部研修に多くの職員が参加出来た。 ☆ 会議では、いつも同じ職員が意見をだしているように感じる。みんなが意見を出しやすい、内容や場にしたいと思う。
災害・防犯対策部 3 名	☆ 非常災害時に落ち着いて速やかに避難行動できるよう、常日頃から、様々な想定をした訓練を実施する。 ☆ 各職員が、災害や防犯への意識を高く持ち、日々の職務につけるよう働きかける。 ☆ 防犯訓練では、不審者対応の様々な知識を深めていく為、訓練が実施できるよう、計画	☆ 監査で、防災訓練実施報告を年二回、提出すること、時差退社計画作成の指摘があった。早急に対応できた。 ☆ 災害訓練は、その都度、各担当の役割を話して改善していった。

	性を持って準備を行なっていく。 ☆ 保育活動中に園児も一緒に参加する防犯訓練を警察に依頼、実施する。 ☆ 防災防火管理者講習を受け、防火管理者を取得する。また、そこで学んだ防火防災に関する知識を他職員へ共有して行く。	☆ 安全計画を見直しした。 ☆ 備蓄品の管理を行い、献立に入れたり、配布したりした。使用したものは補充し、リストの変更を行った。
環境美化部 3名	☆ 日々子ども達が、清潔で安全な環境の中で過ごせるように、職員一人一人が取り組めるように働きかけていく。 ☆ 年間を通して、季節に合った自然や身近なもの等、家庭的な雰囲気となるような装飾を、園内外に取り入れていく。 ☆ 子どもと一緒に、身近な野菜や、四季折々の植物を育てたり、生き物の世話をしたり出来るよう、職員同士協力していく。また、知識を身に付け、わかりやすく伝えていく。	☆ やることを役割分担して行うことが出来た。 ☆ 花壇の整備は、全員出勤の時に前もって行う事が出来た。 ☆ チューリップの球根発注が遅くなってしまったので、早めに発注をする。
写真管理・ホームページ部 3名	☆ 写真販売がスムーズに行えるよう進めて行く。 ☆ 気軽に楽しんで見る事ができる、分かりやすいホームページ作成を心掛ける。	☆ ホームページは、園だより記載に当たり、園長に更新してもらった。 ☆ 毎月5日までに前月の様子を入れてもらう事が定着してきて、スムーズに販売を行う事が出来た。

④ 職員会議実施実績

全職員が自分の意見を発言できるように進め、一つ一つ話し合いで決めて行った。また、次年度の職員配置についても職員の話し合いのもと、最終、主任職員で確定させた。そうする事により、一人ひとりが保育園運営に係わっている自覚が芽生え、好循環している。【*職員会議録参照】

日 付	会 議 名	内 容	人数
4 月 5 日	職員会議	令和 7 年度事業計画について 個人別育成計画について 自衛消防計画・災害時避難経路確認 遠足について その他連絡事項	14
5 月 10 日	職員会議	初期消火・通報訓練 個人別育成計画各自目標発表 夕涼み会について その他連絡事項	15
6 月 7 日	職員会議	保育参加、試食会の振り返り 保健研修・安全管理 事業報告について その他連絡事項	15
7 月 5 日	職員会議	防犯研修 園内研修（園見学の実践） その他連絡事項	15
9 月 6 日	職員会議	防災研修 ファミリースポーツデーについて その他連絡事項	15
10 月 11 日	職員会議	ファミリースポーツデーについて 処遇改善加算について 冬季賞与について 規程の改正 その他連絡事項	15
11 月 9 日	職員会議	保健研修 もちつき活動展について 冬季賞与について 大田区実地検査について	14

		その他連絡事項	
12月6日	職員会議	もちつき大会、活動展振り返り 環境美化研修 その他連絡事項	17
1月17日	職員会議	自衛消防計画、時差退社について 個人別育成計画について 処遇改善加算について 新年度クラス配置について 発表会について その他連絡事項	18
2月7日	職員会議	各部署より振り返り 新年度計画案（クラス配置、担当部署） 発表会について その他連絡事項	11
3月7日	職員会議	発表会の振り返り 規程の改正 新年度書類変更について その他連絡事項	13

⑤ 保育会議実施実績

事業計画を基に研修部が企画・実行。特に子どもの姿や週案の振り返りの時間を多く持ち、職員間での共通理解に努め、子どもたちにより良い環境を提供する。

【＊保育会議録参照】

日 付	会 議 名	内 容	人数
4月18日	幼児部保育会議	子ども理解と保育の振り返り 安全管理マニュアルの確認 その他連絡事項	11
4月24日	乳児部保育会議	週案の振り返り 保育中の安全管理について その他連絡事項	7
5月14日	幼児部保育会議	週案の振り返り 一期の振り返り クラスの業務目標 ヒヤリハット報告 その他連絡事項	10

5 月 21 日	乳児部保育会議	現状報告 クラス目標報告 週案の振り返り その他連絡事項	7
6 月 19 日	幼児部保育会議	各クラス振り返り プール遊び、水遊びについて 巡回相談結果報告 夕涼み会の内容について	10
6 月 26 日	乳児部保育会議	週案の振り返り 水遊びについて ヒヤリハット報告 その他連絡事項	9
7 月 17 日	幼児部保育会議	リスペクトトレーニング クラス目標を振り返る ヒヤリハット報告 その他連絡事項	11
7 月 24 日	乳児部保育会議	週案の振り返り その他連絡事項	6
9 月 18 日	幼児部保育会議	現状報告 2 期 週案の振り返り 巡回相談結果報告 ヒヤリハット報告 その他連絡事項	11
9 月 25 日	乳児部保育会議	現状報告 2 期の振り返り 週案の振り返り ヒヤリハット報告 その他連絡事項	9
10 月 16 日	幼児部保育会議	子どもの理解を保育の振り返り 鵜沢悠永くんの対応、保護者面談報告 事例保育から話し合う ヒヤリハット報告 その他連絡事項	11
10 月 23 日	乳児部保育会議	週案の振り返り ヒヤリハット報告	7

		その他連絡事項	
11 月 20 日	幼児部保育会議	週案の振り返り 保育中の安全対策について 育児アンケートについて 時差退社計画について ヒヤリハット報告 その他連絡事項	10
11 月 27 日	乳児部保育会議	週案の振り返り 保育の安全対策について 育児アンケートについて その他連絡事項	9
12 月 18 日	幼児部保育会議	週案の振り返り 不適切保育研修報告 発表会について ヒヤリハット報告 その他連絡事項	11
12 月 25 日	乳児部保育会議	週案の振り返り 発表会について 不適切保育研修報告 ヒヤリハット報告 その他連絡事項	9
1 月 15 日	幼児部保育会議	三期の報告 週案の振り返り ヒヤリハット報告 その他連絡事項	11
1 月 22 日	乳児部保育会議	三期の振り返り 週案の振り返り 書類の見直し ヒヤリハット報告 その他連絡事項	8
2 月 19 日	幼児部保育会議	週案の振り返り クラス目標の振り返り ヒヤリハット報告 その他連絡事項	10

2月25日	乳児部保育会議	週案の振り返り クラス目標の振り返り ヒヤリハット報告 その他連絡事項	8
3月19日	幼児部保育会議	進級児申し送り 週案の振り返り ヒヤリハット報告 その他連絡事項	12
3月26日	乳児部保育会議	進級児申し送り 新入園児申し送り 週案の振り返り ヒヤリハット報告 その他連絡事項	10

⑥ 職員研修実施実績

東京都キャリアアップ研修を全職員が5分野受講出来るように早い段階から準備し、受講を進めていった。また、その他、外部研修にも多く参加し、受講して行けた。

【＊研修報告書参照】

各団体研修会

日 付	内 容	開 催	参加者
5月17日	特定給食施設指導連絡会	大田区保健所	1名
5月24日	モンテッソーリ教育 実習講習会	日本モンテッソーリ教育総合研究所	1名
5月21日 6月25日	幼児期運動指導	大田区立幼児教育センター	1名
6月17日	第1回幼稚園教諭・保育士合同研修会	大田区立幼児教育センター	1名
6月27日	保育の現場で伝える命の話	大田区私立保育園連合会	1名
6月30日	地域における保育所防災のあり方	東社協 保育部会	1名
7月2日	大田区立森ヶ崎保育園公開保育	大田区立森ヶ崎保育園	1名

7月22日	保幼小連携合同研修会	大田区立幼児教育センター	1名
10月17日	私立保育園、栄養士懇談会	大田区こども未来部	1名
11月20日 21日	保幼小の連携、保育の質の向上	全国保育協議会	1名
12月9日	子どもの人権を守り不適切な保育を防ぐ為に	大田区こども未来部	1名

キャリアアップ研修

日付	内 容	開 催	参加者
9月3日	保健衛生安全対策	保育栄養安全衛生協会	1名
9月8日	障害児保育	ちゅーりっぷの心	1名
9月9日	マネジメント	コドモンカレッジ	1名
9月10日	乳児保育	CODMON カレッジ	1名
9月19日	保護者支援・子育て支援	ちゅーりっぷの心	1名
9月24日	乳児保育	ちゅーりっぷの心	2名
10月10日	保健衛生安全対策	大田区	2名
10月10日	食育・アレルギー	大田区	2名
11月4日	幼児教育	大田区	2名
11月4日	保護者支援・子育て支援	大田区	2名
11月6日	食育・アレルギー	コドモンカレッジ	1名
12月10日	食育・アレルギー	ちゅーりっぷの心	1名
1月16日	幼児教育	ちゅーりっぷの心	1名
1月20日	マネジメント	ちゅーりっぷの心	1名
1月21日	保護者支援・子育て支援	保育栄養安全衛生協会	1名
1月30日	マネジメント	ちゅーりっぷの心	1名

⑦ 細菌検査実施実績

・通常細菌検査

対象（栄養士、調理員、看護師、乳児担任職員他）

検査項目：赤痢菌・サルモネラ・腸管出血性大腸菌 O-157・腸管出血性大腸菌 O-26・腸管出血性大腸菌 O-111

日付	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	3	合
	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	計
	14	13	9	9	14	10	8	11	8	13	10	16	18	

人 数	14	14	14	14	13	14	13	9	12	8	10	9	1	145
--------	----	----	----	----	----	----	----	---	----	---	----	---	---	-----

・調理従事者細菌検査

11月より3月の冬季期間 検査項目：ノロウイルス

【*細菌検査結果報告書参照】

日 付	10 ／ 30	11 ／ 26	12 ／ 17	12 ／ 19	1 ／ 28	2 ／ 25	3 ／ 25	合 計
人 数	4	4	3	1	4	4	3	23

⑧ 職員健康診断実施実績

検査項目：胸部X線直接撮影・血液検査・心電図検査・生化学検査・オーディオ
メーターによる聴力検査（1名産休取得中の為未実施）

【*職員健康診断結果参照】

東京蒲田医療センター	12月8日	22名
------------	-------	-----

5・児童処遇関係

① 健康管理実施実績

年間保健計画に沿って園児の健康管理、衛生管理、手洗い指導、歯磨き指導、
うがい指導を実施した。またヒヤリハットの集計を行い、事故の未然防止に
努めるよう、職員は周知をした。

② 健康診断実施実績：人数

もも組0．1歳児は毎月1回、さくら組2．3歳児・うめ組4．5歳児は4
月・10月に実施。

【*保健記録表、保健日誌、0歳児健康日誌、施設日誌等参照】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
もも	12	8	9	9	10	12	12	13	11	14	13	13	136
さくら	18						18						36
うめ	15	1	1				18						35
合計	45	9	10	9	10	12	48	13	11	14	13	13	207

③ 歯科検診実施実績：人数

年2回実施。検診時フッ素添付実施。

【*保健記録表、保健日誌、0歳児健康日誌、施設日誌等参照】

月 日	も も	さくら	う め	合 計
6 月 12 日	12 名	17 名	17 名	46 名
11 月 13 日	12 名	19 名	16 名	47 名
合 計	24 名	36 名	33 名	93 名

④ 健康指導実施実績

月 日	ク ラ ス	指導内容	人 数
5 月 15 日	3 歳児	手洗い指導	8 名
5 月 15 日	うめぐみ	手洗い指導	15 名
6 月 16 日	3 歳児	うがい指導	7 名
6 月 16 日	うめぐみ	歯磨き指導	18 名
10 月 15 日	3 歳児	手洗い指導	10
10 月 15 日	うめぐみ	手洗い指導	16 名
11 月 19 日	3 歳児	歯磨き指導	10 名
11 月 19 日	うめぐみ	歯磨き指導	15 名

⑤ ヒヤリハット・ケガ簿

各クラスから報告書を提出してもらい毎月集計をし、会議等で報告・周知。

【*ヒヤリハット集計報告・ケガ簿参照】

⑥ 事故怪我報告書

【*園児事故記録簿参照】

・発生件数 0 件

⑦ 給食実施実績

事業計画を基に毎日、楽しみになるように献立を工夫していった。また、喫食の状況を配膳時に確認しながら、調理方法や材料の量等、微調整をして行った。また、アレルギー児への対応を間違えの無いように慎重に全職員が把握出来るようにした。

今年度は、食育の一環として、ジャム作り、ジュース作り、スムージー作り、ピザ作りを実施した。

【*食育計画・献立表・検食簿・保育日誌等参照】

⑧ 年間行事実施実績

新型コロナウイルス感染症流行前に実施していた内容に戻し開催した。各行事、実施にあたり職員でよく話し合い、アイディアを出し合い、今までにないほ

ど、順調に準備を進めることが出来、ほぼ残業をせずに終わられた事は収穫であった。

【＊年間行事記録参照】

月 日	行 事 名	参 加 者 数	内 容
4 月 1 日	入園式	園 児 38 名 保護者 26 名	・ 園長・事業部長挨拶 ・ 新入園児紹介 (在園児よりプレゼント) ・ 新入園児保護者代表挨拶 ・ 職員紹介 ・ 在園児より歌のプレゼント (5 歳児ステージで披露) 「せんせいとおともだち」 「今日からおともだち」 ・ 写真撮影
4 月 25 日	春の親子遠足 金沢動物園	うめ組 4.5 歳児 18 名 さくら組 2.3 歳児 18 名 保護者 49 名 合計 85 名 (0 歳児、1 歳児は通常保育)	親子遠足の参加学年を 2 歳児、3 歳児、4 歳児、5 歳児とし、保護者参加は制限をせずに実施した。乳児が通常保育となる為、園に残る保育士と遠足引率保育士と少人数での実施となるが、事故等無く無事に終わられた
6 月 7 日	保育参加 ・ 試食会	園 児 44 名 保護者 58 名 その他 21 名	保育参観として実施し、子ども達の保育園での様子を見て頂き、一緒に遊んでもらった。また、試食会では給食の試食をしてもらう。
7 月 7 日	七夕	園 児 42 名	◎乳児部・幼児部に分かれて開催。 ◎パートナー保育登録者の参加は無かった。 ・ 写真撮影 ・ 七夕装飾の作り方 ・ 歌「きらきら星」

			・短冊披露 * 笹は森ヶ崎自治会副改良の荒木氏より紹介を受け、第一中学校近隣の方より頂く。 * 給食は七夕にちなんだ献立を提供。
7 月 19 日	夕涼み会	園 児 49 名 保護者 150 名 兄 弟 17 名 地 域 130 名	地域の方々や卒園児とその家族とともに楽しみに参加していた。後日、実施したアンケートにもお礼や楽しかった言葉が沢山書かれていた。
7 月 30 日、 31 日、8 月 1 日	妙義山 林間保育	園 児 9 名 (うめ組 5 歳児) 小学生 1 名	障害のある園児の参加について、保護者へ相談し見合わせて頂いた。子ども達にとって必要な行事と実施するたびに感じさせられる。保護者もとても期待しているのがよくわかる行事である。 しかし、次年度の開催については、現施設の老朽化等、難しいと部分があり、検討が必要となる。
8 月 30 日	お泊り保育 親子でカレー 作り	園 児 8 名 保護者 14 名 その他 8 名	今年度、林間保育の参加を見合わせて頂いた園児に同じお泊りを経験してもらいたく、保育園内にて実施した。翌日の昼食を家族でカレー作りをし、みんなで食べた。
10 月 6 日	お月見お団子 作り	園 児 48 名	お月見にちなんでお団子旁をし、おやつにて食べた。
10 月 11 日	ファミリース ポーツデー	園 児 51 名 保護者・他 159 名	大田区立中富小学校校庭にて開催した。午前開催と

			し、保護者、職員の負担を軽減する事が出来た。子ども達も保護者も十分に満足していた。昨年同様に最後の演目に親子ダンスを追加し、全員で盆踊りを行い、大変、盛り上がっていた。
10月28日	秋の遠足	園児18名 うめぐみ4・5歳児	神奈川県厚木市の畑でサツマイモの芋掘り体験を洗足池保育園の4歳児、5歳児と合同で行った。昼食をぼうさいの丘公園にていただき、公園にて遊んだ。
10月30日	ポニーふれあい体験	園児47名	ポニーふれあい体験は定例行事となり、子ども達もとても楽しみにしている。
11月5日	焼き芋づくり	園児50名	4歳児、5歳児が秋の遠足で収穫してきたサツマイモを園児皆で調理して午後のおやつとして焼き芋を食べた。何個も何個も食べる子どももいた。また、お迎えの保護者にも試食して頂いた。
11月7日	サーティーワンお店体験	園児36名	一般財団法人miraieより、地域貢献事業として保育園でのお店体験を提案して頂き実施となった。 子ども達もなじみのあるサーティーワンアイスクリームのお店屋さんを体験し、とても楽しんでいた。
11月8日	育児講座 「運動が苦手なパパママも	園児18名 保護者17名 地域2名	家庭で手軽に子どもと出来る運動遊びを実践を交えて紹介。子どもと一緒に参加

	笑顔に、脳と心と体を育む親子の運動遊び」		し、身体を動かしました。 一部、二部に分けて年齢にあわせて実施した。
11月14日	七五三参拝	園児 47名	浦森稻荷神社へ全園児で七五三の参拝に行く。記念撮影をし、千歳あめをもらう。
11月27日	KM観光バス芋掘り	園児 26名	KM観光バスの方が育てたサツマイモの芋掘りを行う。
12月6日	もちつき・活動展	園児 47名 保護者 73名 兄弟 10名 その他 4名	例年通りに開催をする。もち米も23キログラムをお手伝いのお父さん達とつきあげる。おもちつきを知っているお父さんがほばいなく、初めから教えて行く。久しぶりのおもちの試食に皆、喜んでたくさん食べていた。
12月19日	クリスマス会	園児 52名 保護者（サンタ）1名	乳児は二階にて実施する。 幼児は一階にて行い、サンタクロースから一人一人プレゼントをもらい、記念撮影をする。給食はクリスマスにちなんだ献立を提供。
1月17日	観劇会	園児 38名 保護者 44名 地域 2名	ともしび音楽企画「ふーちゃんらんど」のペープサートとうたを鑑賞する。子ども達も喜んで鑑賞していた。
2月7日	お父さん会	保護者 10名	今年度、初めてのお父さんが集まり、育児に対する不安や悩み、楽しい事やお薦めを話し合う懇談会を開催。参加した方々からは、とても良い機会、毎月やって欲しい、との声も上がるほどだった。

2月3日	節分・豆まき	園児 49 名	もも組 1 歳児、0 歳児、2 歳児の順に豆まき開始する。 3 歳児、4 歳児、5 歳児は子どもの鬼役も作り、職員と一緒に鬼役を演じ行う。
3月7日	発表会	園児 53 名 保護者 131 名 その他 11 名	今年度も二部開催として実施した。乳児、幼児と分けることで、会場が広く使えて良かったが、参加人数が多かった。内容も職員が良く検討し、だらだらと長くならず、コンパクトだが内容のあるものとなった。
3月28日	卒園式	園児 19 名 保護者 16 名 家族 1 名	例年同様に卒園児を送る会として、卒園式が行えた。

6・安全管理関係

非常災害時に備え、火災、地震、防犯訓練を実施した。また、非常災害時の連絡網としてセコム緊急連絡網システムを利用し緊急時連絡を毎年行っている。

【＊自衛消防計画・任務と編成・災害訓練記録簿・各種マニュアル参照】

① 災害・防犯訓練実施実績

日付	訓練種別	園児	職員	他	合計
4/10	火災・初期消火・通報・避難誘導	45	19	0	64
5/8	地震・初期消火・通報・避難誘導	45	19	0	64
5/8	津波発生時避難歩行訓練	45	19	0	64
5/28	AEDを使用した心肺蘇生法講習	0	16	0	16
6/12	火災・初期消火・通報・避難誘導	39	16	0	55
7/10	地震・初期消火・通報・避難誘導	42	16	0	58
7/10	津波時避難訓練	42	16	0	58
7/24	防犯訓練・通報・避難誘導	45	12	2	57
8/14	火災・初期消火・通報・避難誘導	33	14	0	47
8/21	洪水・避難	42	13	0	55

9/18	地震・初期消火・通報・引渡し	44	14	0	58
10/14	火災・初期消火・通報・避難誘導	45	19	0	64
11/20	地震・初期消火・通報・避難誘導	49	15	0	64
11/20	歩行訓練・森ヶ崎公園	49	15	0	64
12/11	地震・火災・初期消火・通報	43	19	0	62
1/8	地震・初期消火・通報	52	18	0	70
2/12	火災・初期消火・通報	44	15	0	59
3/12	地震・初期消火・通報	47	15	0	62
合 計	合計 18 回				

② その他の訓練等実施実績

緊急連絡テストメールの実施、引き渡し訓練に接続。

【* 非常災害訓練実施記録】

日 付	内 容	時 間	参加者数
9 月 18 日	・緊急連絡テスト メール配信 ・引渡し訓練	16：00～19：15	保護者 44 名

③ 設備等点検実施実績

通常の設備点検を、随時日程を調整しながら行なう。

【* 各種記録簿参照】

日 付	点 検 事 項	実 施 者
毎 月	昇降機 ブレーキの安全性確保に関する検査	日本オーチス・エレベータ株式会社
4 月 4 日	非常/火災通報装置保守点検	テルウェル東日本(株)
6 月 27 日	消防用設備等（特殊消防用設備等）点検	(株) 奥島産業
7 月 4 日	非常/火災通報装置保守点検	テルウェル東日本(株)
10 月 7 日	非常/火災通報装置保守点検	テルウェル東日本(株)
10 月 12 日	給水設備保守点検	富士水質管理 (株)
11 月 19 日	建築設備定期検査	(株) よつばメンテナンス
12 月 15 日	防火設備	(株) 奥島産業
12 月 15 日	消防用設備等（特殊消防用設備等）点検	(株) 奥島産業

	備等) 点検	
1 月 9 日	非常/火災通報装置保守点検	テルウェル東日本(株)

7・保護者の関係

① 保護者懇談会実施実績

対面式とオンライン式の双方を利用し実施した。また、当日、対面式での参加が出来なくなった保護者にはオンライン式も利用し参加出来るように併用した事により全員参加が実現できた。【*各クラス懇談会・説明会記録参照】

月日・方法	懇談会名	参加人数	内 容
4 月 5 日 対面式	ももぐみ 0 歳児 1 歳児 9 時 30 分から	保護者 12 名 職 員 7 名	・職員紹介 ・保護者紹介 ・クラスの様子紹介 ・園長挨拶 ・安全計画 ・入園のしおり、年間行事予定 ・質疑応答
4 月 8 日 対面式	さくらぐみ 2 歳児 3 歳児 17 時 00 分から	保護者 14 名 職 員 6 名	・クラスの様子 ・職員紹介 ・保護者自己紹介 ・年間行事予定について ・園長挨拶 ・入園のしおり読み合わせ ・質疑応答
4 月 11 日 対面式	うめぐみ 4 歳児 5 歳児 17 時 00 分から	保護者 14 名 職 員 6 名	・クラスの様子紹介 ・職員紹介 ・保護者自己紹介 ・園長挨拶 ・入園のしおり読み合わせ ・年間行事予定について ・安全計画について ・質疑応答
7 月 5 日 対面式	うめぐみ 5 歳児 9 時 30 分から	保護者 8 名 園児 8 名 ボランティア 1 名	・林間保育説明会

		職員 6 名	
9 月 5 日 オンライン 式	さくらぐみ 2 歳児 3 歳児 17 時 30 分から	保護者 16 名 職員 6 名	・ 園長挨拶 ・ 子どもの様子 ・ 保護者懇談 ・ ファミリースポーツデーについて
9 月 6 日 対面式	ももぐみ 0 歳児 1 歳児 9 時 30 分から	保護者 11 名 職員 6 名	・ 子どもの様子 ・ グループ交流 ・ ファミリースポーツデーについて ・ 園長挨拶
9 月 12 日 対面式	うめぐみ 4 歳児 17 時 00 分から	保護者 9 名 職員 4 名	・ クラスの様子 ・ ファミリースポーツデーについて ・ 保護者懇談 ・ 質疑応答 ・ 園長挨拶
9 月 19 日 対面式	うめ組 5 歳児 17 時 00 分から	保護者 8 名 職員 4 名	・ クラスの様子 ・ 就学に向けて ・ ファミリースポーツデーについて ・ 保護者懇談 ・ 質疑応答 ・ 園長挨拶
1 月 23 日 対面式	うめぐみ 5 歳児 卒園懇談会 17 時 00 分から	保護者 8 名 職 員 4 名 大森警察 1 名	・ 交通ルールと防犯について（警察より） ・ 質疑応答 ・ 保育所児童保育要録について・卒園式について ・ その他連絡事項 ・ 園長挨拶
3 月 10 日 対面式	さくらぐみ 2 歳児 3 歳児	保護者 19 名 職 員 5 名	・ クラスの様子 ・ 保護者挨拶 ・ 職員挨拶

	17 時 00 分から		・ 園長挨拶 ・ 進級に向けて ・ 年間行事予定案 ・ 入園のしおり（持ち物について）
3 月 12 日 オンライン 式	ももぐみ 0 歳児 1 歳児 14 時 00 分から	保護者 11 名 職 員 7 名	・ クラスの様子 ・ 保護者挨拶 ・ 職員挨拶 ・ 園長挨拶 ・ 新年度に向けて
3 月 13 日 対面式 一部オンライン	うめぐみ 4、5 歳児 17 時 00 分から	保護者 15 名 職 員 3 名	・ 一年間の成長と振り返り ・ 保護者挨拶 ・ 職員挨拶 ・ 園長挨拶 ・ 各学年連絡事項

8・自主事業関係

業務内容の見直しにより、子育て講座、情報誌の発行等、一部削減をした。

【＊各種子育て支援関係書類参照】

① パートナー保育登録事業実施実績

・登録者数 1 世帯 1 名

② 緊急一時保育実施実績

・利用実績なし

③ 一時保育実施実績

・利用実績なし

④ 体験保育実施実績

・利用実績なし

⑤ 年末保育実施実績

・29 日に 2 名、30 日に 1 名、園児の申込みあり。園児外の申込みはなかった。

日 付	うめ組	さくら組	もも組	園児外	合計
12 月 29 日	0 名	2 名	2 名	2 名	6 名

12月30日	0名	1名	0名	2名	3名
--------	----	----	----	----	----

⑥ 育児講座実施実績

親子で楽しめる講座を考え家庭で簡単にできる親子運動を学べる講座を実施した。

【＊育児講座、録参照】

日 付	内 容	参加人数
11月8日	育児講座 「運動が苦手なパパママも笑顔に。 脳と心と身体を育む親子の運動遊び」	保護者 37 名

⑦ 老人ホーム交流会実施実績

・新型コロナウイルス感染拡大防止対策後、実施実績なし

9・実習生・ボランティア・小中高大学生等受入関係

実習生等の受入れにつき保育所の増加により、年々、実習生が少なくなっている。

【＊各受入簿参照】

① 実習生受入実施実績

大学、短期大学、養成校より実習生の受入れ、指導。

期 間	日 数	人 数
6月9日～6月20日	11日間	1名

② ボランティア受入実施実績

受入実績なし

③ 中学生・高校生職場体験等受入実施実績

期 間	日 数	人 数
10月7日～9日	3日間	4名

10・中長期計画、施設設備整備関係

① 厨房設備が老朽化に伴い順に故障している。

期 間	内 容
-----	-----

6 月 6 日	2 階 LAN ケーブル配線工事
8 月 9 日	業務用冷凍冷蔵庫入替
11 月 29 日	廊下照明 LED 入替
12 月 20 日	食器消毒保管庫、業務用テーブル型冷蔵庫入替
2 月 17 日	給食検食保管用冷凍庫入替

11・苦情解決・対応について

- ① 苦情解決・対応については、入園オリエンテーション時や4月の懇談会時に入園のしおりを用いて説明する。また、玄関先等に投書箱の設置やホームページ内に掲示板を設置し、広く受付を実施している。

・苦情等を解決するための体制

- ・苦情等解決責任者 園長
- ・苦情等受付担当者 主任
- ・第三者委員 2名

- ② 苦情の申し出件は無く、日々の送迎時等に保護者とは良く各担任職員が会話をしている。

苦情の件数	0 件
-------	-----

12・東京都福祉サービス第三者評価

- ① 受診無し

令和 7 年度

事 業 報 告 書

令和 7 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 31 日

社会福祉法人 大洋社

洗 足 池 保 育 園

目 次

1. 運営のあらまし	1
「一年を振り返って」	
2. 事業の概要	2
① 名称及び所在地	3
② 実施事業の内容	3
3. 保育内容・年間指導計画・環境	3
4. 給食関係	3
5. 職員関係	3
① 職員配置数	3
② 採用、退職	3
③ 各部分担の反省・感想	4
④ 職員会議実施実績	6
⑤ 保育会議実施実績	8
⑥ 職員研修実績	9
⑦ 細菌検査実績	10
⑧ 職員健康診断実績	10
6. 児童処遇関係	10
① 利用児童数実績	11
② 延長保育利用児童数実績	11
③ 健康診断実施実績	11
④ 歯科検診実施実績	11
⑤ 年間行事実施実績	12
⑥ 保護者懇談会実施実績	14
7. 安全管理関係	15
① 災害訓練実施実績	15
② その他の訓練等実施実績	16
③ 設備等点検実施実績	16
8. 自主事業関係	16
① パートナー保育登録事業実績	16
② 緊急一時保育実績	16
③ 年末保育実施実績	16
④ 育児講座実施実績	16

9. 実習生・ボランティア・小中学生受入関係	・ 16
① 実習生受入実績	・ 16
10. 中長期計画、施設設備整備関係	・ 16
11. 苦情解決・対応について	・ 16
12. 危機管理、ヒヤリハットについて	・ 16

1. 運営のあらまし「一年を振り返って」

令和7年度は、1歳児9名の新入園児を迎え、定員の45名で始まり、年度途中の変動も無く過ごし、3月には、9名の卒園児を無事に送り出すことができました。

日々の保育では、小規模ならではの家庭的な雰囲気の中で、ご家庭と連携を密にしながら、集団の中でも一人ひとりの子ども達を大切にしてきました。子ども達をありのままの姿で受け入れる中で、自己肯定感を持てるように意識し、保育を行いました。行事などでは、子ども達の成長を保護者の方に見ていただき、子どもも保護者も満足いく姿が見られ、嬉しく思います。引き続き、子ども達の興味・関心を捉え、各クラス担任同士はもちろん、職員間のコミュニケーションを多く取り入れる中で、意見を出し合い、より良い保育が行えるように努めてまいります。そして、子ども達一人ひとりが多くのことを経験し、学びが深くなるように寄り添い、共に日々の生活を楽しみながら過ごしていきたいと思います。子ども達の生活を通して、保護者の方とも更なる信頼関係を深めていき、『第二の家庭』と感じていただけるように、努めてまいります。

職員に関しては、キャリアアップ研修や保育実践研修を行う中で、スキルアップを図り、職員もチャレンジできるような保育環境を尊重してきました。当園の理念・方針に沿いながら、今の時代にあった乳幼児期の保育を常に学び、そして、人間形成の基礎を培う極めて重要な時期にいる子ども達が、保育園での生活が安心かつ安全な環境の下、大人からの愛情を感じながら一人ひとりが自分らしく過ごせることが大切ということをしっかりと職員が理解し、行っていけるようにしていきます。

在園児はもちろん地域全体に目を向け、今後も、社会福祉法人で運営している保育園という専門機関として、地域貢献に引き続き力を注いでいきたいと思っております。

2. 事業の概要

①名称及び所在地

社会福祉法人 大洋社 洗足池保育園
東京都大田区南千束3丁目24番15号
Tel 03-3748-7088

②実施事業の内容

- ・保育所事業、定員45名
- ・延長保育事業、定員15名
- ・年末保育事業
- ・緊急一時保育事業
- ・体験保育事業
- ・育児相談事業
- ・地域活動事業

3. 保育内容・年間指導計画・環境

各クラス、理念・方針、保育目標等を基に年間指導計画・月案・週案・発達記録・おたより等を用いて、園児一人ひとりに丁寧に関わり、振り返り、たいわを重ねて保育を行う。また、研修で得た学びを職員間で共有し、実践する。日々子ども達が楽しめる環境構成に取り組んだ。

※各クラスカリキュラム、記録等参照

4. 給食関係

食育を見据え、年間指導計画を作成。様々な食材や行事食に触れられるように栄養士会議や献立、給食会議を行い、企画・実行した。年一回の保護者参加の試食会を実施し、給食の味付けを知ってもらった。

食物アレルギーを持つ子どもを対して、個別の献立を作成。保護者にも確認を取り発行する。提供の際のマニュアルを複数人で共有し、写真付きトレーや食器や机を分け、提供している。

食や食材に興味を持つ子どもが多く、子ども達が興味を持ったものを企画し、実際に活動などでクッキングを行った。

※食育計画、各企画書等 参照

5.職員関係

①職員配置数

職 種	国定数	都・区加算		基準外配置	合 計
		常勤	非常勤		
計 算 上 の 職 員 数 (必 要 数)					
園 長	1				1
保 育 士	6	1	1		8
調理員・栄養士	2				2
嘱 託 医			1		1
嘱託歯科医			1		1
合 計	9	1	3		1 3
在 籍 職 員 数					
園 長	1				1
主任保育士	1				1
幼児部副主任保育士	1				1
乳児部副主任保育士	1				1
保 育 士	4	1	1	4	1 0
栄養士・調理員	2		1		3
嘱 託 医			1		1
嘱託歯科医			1		1
事務兼保育士				1	1
会 計 士				1	1
社 労 士				1	1
合 計	1 0	1	4	7	2 2

② 採用・退職

退職…園長 片山 瑛二 R8.03.31
 保育士 柳池 美奈子 R7.05.31

③ 各部分担の反省・感想

各部署の担当が一年を振り返り、次年度の担当へ引き継ぎが円滑に行える。

部 署 名	目 標	反省・感想
地域交流部 4 名	☆ 保護者・地域の方々と行事を通して積極的に交流し「共育て」の関係を深めていく。 ☆ 地域の方々に園内行事や様子を知ってもらえるよう、ホームページを利用して発信していく。	☆ 保護者や地域の方が参加できる行事には参加してもらい、関係を深められた。 ☆ 園内行事の写真掲示を作成し、掲示することができたが、掲示までに時間がかかることもあり、反省する。 写真自体をカメラマンに撮っていただくことが増え、データが届くまでに時間がかかるため、掲示用として写真を撮っておけると良い。 ☆ 部で集まることが難しいことも多かったが、声を掛け合って進めることができてよかった。
子育て支援部 2 名	☆ 保護者の悩みや疑問を把握し、相談しやすい環境を作り、子育てについて共有する。 ☆ 育児講座の参加者が増えるよう保護者の方が参加したくなるような魅力的な講座内容にする。	☆ 1 年間を通して活動が少なく、パートナー保育登録者も 0 だった。育児アンケートでは、必ず提出しないといけないのかと保護者からの意見もあり、シンプルな内容にするか、希望者のみ面談にするか検討する。 ☆ 育児講座については参加者が少ない為、講座の案内ポスターを掲示する。参加者の多い嘱託歯科医の講座の回数を増やす、または人気の講座をローテーションする等、内容を含めて検討する。
研修部 2 名	☆ 保育園の理念・方針、また、保育所保育指針から、自身や園の役割を理解する。 ☆ 子ども一人ひとりの現状を把握し、主体的な保	☆ 子どもとの関わり方については、プリントを読み合わせる等して取り入れたが、理念・方針についてはもっと掘り下げて話ができるとよかった。 ☆ 各クラスの子どもの現状の把握

	育ができるようにする。 ☆ 職員一人ひとりがきちんと考え、学びある会議内容にする。 ☆ 保育の質の向上を図る。	は共有できたが、そこからどのように保育をしていくまで話せなかった。プリントの書き方を変えたり、議題を作ったり、小グループに分かれたりするなど、やり方を工夫できるとよかった。 ☆ 保育の質の向上を図るという面では、実践を取り入れてもよかったと反省する。 ☆ 研修については、職員がもう少し研修を受けられる機会が設けられるとよかった。
災害・防犯 対策部 4 名	☆ 地震、火災、水害等様々な想定での実践的な訓練を重ね、災害時に迅速に対応できるようにする。 ☆ 園児の安全確保のために、日頃から各部屋の点検をし、災害防止に努める。 ☆ 様々な状況に応じた、不審者や侵入者への対処方法を身に付け、防犯に努める。	☆ コーナー遊び中や午睡明けなど、様々な場面での訓練をすることができてよかった。 ☆ 実践的な不審者研修を行えず、反省する。 ☆ 職員の救命講習資格の取得機会を設けることができず、反省する。 ☆ 初期消火や AED 使用の研修を行うことができてよかった。 ☆ 災害時食品の買い替えができた。今後、玄米スナックの買い替えをしていく。
環境美化部 2 名	☆ テーマに則した季節感のある装飾を行う。 ☆ 四季折々の花を子どもと一緒に育たり、各クラスで育ててもらえるよう働きかけたりして園舎内外に咲かせる。 ☆ 園内や園周りを清潔・安全に保つ。	☆ 掃除チェック表は、必要に応じて見直し、追加することができた。 ☆ 月 1 回の砂場の消毒を行い、清潔に保つことができた。 ☆ 乳児クラスで時々、階段の踊り場に製作物を置いてもらったことがあり、今後も行えるとよい。

ホームページ 写真部 2名	☆ 園の特色、雰囲気が伝わるようなホームページを随時更新する。 ☆ 園での活動内容を、写真掲示を用いて保護者へ伝え、理解を深める。	☆ ホームページの更新を随時できたが、顔出しNGの園児の顔が出てしまうことがあった為、今後は編集者とは別の人が確認をし、ダブルチェックをした後に、掲載するようにした。 ☆ 閲覧期間内に写真販売を見てもらえるよう、声掛けを各クラスに行えてよかった。 ☆ 撮影販売業者と連携し、撮影から販売までをスムーズにつなげる事ができてよかった。
-------------------------	--	---

④職員会議実施実績

研修部により企画立案。職員が働く上で必要な社会人としての現任訓練や研修報告の計画、職員同士の質を上げる会議を行う事を目的とする。

※職員会議録参照

日 付	会 議 名	内 容	人数
4月5日	職員会議	・ 現任訓練 ・ 令和7年度事業計画 ・ 自衛消防計画、災害時避難経路について ・ 春の遠足について ・ その他連絡事項	10
5月10日	職員会議	・ 業務目標各自発表 ・ リスクマネジメント「震災・火災」 ・ その他連絡事項	10
6月7日	職員会議	・ リスクマネジメント研修「食中毒」 ・ プール遊びについて ・ 夕涼み会について ・ 令和6年度事業報告 ・ 発達支援について ・ その他連絡事項	11
7月5日	職員会議	・ 初期消火・応急手当について ・ 夕涼み会について ・ その他、連絡事項	9

9月6日	職員会議	・ リスクマネジメント研修「不審者・運動会」 ・ ファミリースポーツデーについて ・ その他連絡事項	9
10月4日	職員会議	・ 子育て支援研修 ・ 虐待予防について ・ 各部前期の振り返り ・ ファミリースポーツデーについて ・ その他連絡事項	7
11月8日	職員会議	・ リスクマネジメント研修「散歩について」 ・ 衛生美化研修 ・ もちつき大会・作品展について ・ その他連絡事項	11
12月13日	職員会議	・ 観劇会について ・ その他連絡事項	11
1月17日	職員会議	・ 発表会について ・ 業績評価について ・ その他連絡事項	11
2月7日	職員会議	・ 新年度職員配置発表 ・ 事業計画の反省と新年度計画 ・ 発表会について ・ その他連絡事項	10
3月7日	職員会議	・ 規程の改正点報告 ・ その他連絡事項	11

⑤保育会議実施実績

幼児部、乳児部で行ない、年2回合同で行う。保育について理解を深めること、実践研修や事例研修を通して、より細分化した議題で話し合う

※保育会議記録参照

日 付	会 議 名	内 容	人数
4月15日	合同 保育会議	・ 年間指導計画について ・ クラス現状報告 ・ その他連絡事項	9
5月23日	合同 保育会議	・ クラス現状報告 ・ ヒヤリハット	9

		・ 発達支援について ・ その他連絡事項	
6 月 19 日	合同 保育会議	・ 保健研修「感染症」 ・ クラス現状報告 ・ ヒヤリハット ・ その他連絡事項	8
7 月 10 日	合同 保育会議	・ クラス現状報告 ・ ヒヤリハット ・ 研修報告 ・ その他連絡事項	9
9 月 18 日	合同 保育会議	・ 前期保育の振り返り ・ 自己の保育の振り返り ・ ヒヤリハット ・ クラス現状報告 ・ その他連絡事項	9
10 月 10 日	合同 保育会議	・ クラス現状報告 ・ ヒヤリハット ・ その他連絡事項	9
11 月 15 日	合同 保育会議	・ クラス現状報告 ・ ヒヤリハット ・ 実践研修「手洗い・嘔吐処理」 ・ その他連絡事項	8
12 月 19 日	合同 保育会議	・ クラス現状報告 ・ ヒヤリハット ・ その他連絡事項	8
1 月 15 日	合同 保育会議	・ クラス現状報告 ・ ヒヤリハット ・ 書類見直し ・ 実践研修 ・ その他連絡事項	9
2 月 19 日	合同 保育会議	・ クラス現状報告 ・ ヒヤリハット ・ その他連絡事項	8
3 月 26 日	合同 保育会議	・ 今年度反省と新年度計画 ・ ヒヤリハット ・ 新入園児面接内容報告	8

		・ コーナー遊び担当者決め ・ その他連絡事項	
--	--	--	--

⑥職員研修実績

様々なテーマを自主的に受講するように促し、また、園より推奨し、園の保育、個人の質の向上を目的として受講しできるようにした。

日 付	内 容	主 催	参加者
5 月 21 日	特定給食施設指導連絡会	大田区保健所 調布地域健康課	1 名
6 月 9 日～ 7 月 7 日 7 月 14 日～ 8 月 12 日 9 月 1 日～ 9 月 29 日 10 月 6 日～ 11 月 4 日	給食担当者講習会 ・「食物アレルギー最新情報」 ・「乳幼児の栄養・食生活について」 ・「小児疾患と病態栄養について」 ・「子どもの偏食について」	東京都社会福祉協議会 福祉部 児童・障害担当 保育部会事務局	1 名
6 月 17 日	令和 7 年度 第 1 回 幼稚園教諭・保育士合同研修会	大田区幼児教育センター	1 名
7 月 26 日～ 8 月 20 日 8 月 2 日	東京都保育士等キャリアアップ研修 食育アレルギー対応	東京都保育士等キャリアアップ研修事務局 特定非営利活動法人 ちゅーりっぷの心 栄養セントラル学院	2 名
8 月 12 日～ 10 月 20 日 9 月 8 日	東京都保育士等キャリアアップ研修 障害児保育	東京都保育士等キャリアアップ研修事務局 特定非営利活動法人 ちゅーりっぷの心 栄養セントラル学院	1 名
8 月 12 日～ 10 月 20 日 9 月 19 日	東京都保育士等キャリアアップ研修 保護者支援・子育て支援	東京都保育士等キャリアアップ研修事務局 特定非営利活動法人 ちゅーりっぷの心 栄養セントラル学院	2 名
8 月 12 日～ 10 月 20 日	東京都保育士等キャリアアップ研修 保護者支援・子育て支援	東京都保育士等キャリアアップ研修事務局 特定非営利活動法人	1 名

9月19日		ちゅーりっぷの心 栄養セントラル学院	
10月3日～ 11月20日 10月11日	東京都保育士等キャリアアップ研修 乳児保育	東京都保育士等キャリアアップ研修事務局 特定非営利活動法人 ちゅーりっぷの心 栄養セントラル学院	1名
10月1日～ 11月15日 11月17日	東京都保育士等キャリアアップ研修 マネジメント	一般財団法人 保健福祉振興財団	1名
11月1日～ 1月20日 12月20日	東京都保育士等キャリアアップ研修 保健衛生安全対策	東京都保育士等キャリアアップ研修事務局 特定非営利活動法人 ちゅーりっぷの心 栄養セントラル学院	1名
1月16日～ 2月28日 1月16日	東京都保育士等キャリアアップ研修 幼児教育	東京都保育士等キャリアアップ研修事務局 特定非営利活動法人 ちゅーりっぷの心 栄養セントラル学院	1名

⑦細菌検査実施実績：人数（栄養士、調理員、主任保育士等）

検査項目：赤痢菌、サルモネラ、腸管出血性大腸菌 O-157、腸管出血性 O-26
腸管出血性大腸菌 O-111

実施日	4 24	5 22	6 23	7 28	8 21	9 26	10 23	11 21	12 26	1 29	3 22	3 30	合計
人数	5	5	5	5	5	5	5	7	5	5	5	3	60

⑧職員健康診断実施実績

検査項目：胸部 X 線触接撮影、血液検査、心電図検査、オーディオメーターによる聴力検査、生化学検査

独立行政法人地域医療機能推進機構 東京蒲田医療センター	10月31日	14名
--------------------------------	--------	-----

6.児童処遇関係

①利用児童数実績（定員数：ふたば9名・みつば9名・わかば9名・あおば18名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ふたば	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	108
みつば	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	108
わかば	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	108
あおば	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	216
合計	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45	540

②延長保育利用児童数実績（定員数：15名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施 日数	21 日間	20 日間	21 日間	22 日間	20 日間	20 日間	22 日間	18 日間	20 日間	19 日間	18 日間	21 日間	242 日間
定員内	29	27	21	11	14	22	25	22	31	20	13	21	256
臨時	13	5	14	20	13	10	10	13	10	13	16	19	156
合計	42	32	35	31	27	32	35	35	41	33	29	40	412
一日 平均	2 名	1.6 名	1.6 名	1.4 名	2 名	1.6 名	1.5 名	1.9 名	2 名	1.7 名	1.6 名	1.9 名	1.7 名

③健康診断実施実績：人数（嘱託医）

月 日	ふたば	みつば	わかば	あおば	合計
4月17日	9	8	9	18	44
5月16日	0	1	0	0	1
11月6日	9	9	8	17	43
11月27日	0	0	0	1	1
12月1日	0	0	1	0	1
合計	18	18	18	36	90

④歯科検診実施実績：人数（嘱託歯科医）

月 日	ふたば	みつば	わかば	あおば	合計
6月11日	9	9	6	18	42
11月19日	8	8	9	17	42
合計	17	17	15	35	84

⑤年間行事実施実績

各行事、地域交流部を中心に園全体、利用者と作り上げる行事を行えることを目指した。行事終了後には保護者にアンケートをとり、集計結果を掲示、また、次年度の企画に反映している。※行事記録参照

月 日	行 事 名	参加者数	内 容
4 月 1 日	入園式	園 児 42 名 保護者 17 名	・ 職員紹介 ・ 新入園児紹介 ・ プレゼント贈呈 ・ パネルシアター ・ 在園児より歌
4 月 25 日	春の遠足 (3～5 歳児親子)	園 児 27 名 保護者 36 名	・ 金沢動物園
6 月 8 日	保育参観・ 試食会	園児 45 名 保護者 66 名 その他 4 名	・ 普段の保育の様子を参観頂く ・ 保育園の給食の試食
7 月 7 日	七夕まつり	園 児 44 名	・ 歌 ・ ブラックパネルシアター ・ 短冊願い事発表 (5 歳児)
7 月 19 日	夕涼み会	園児 45 名 保護者 74 名 その他 83 名	・ 夏祭りの雰囲気を感じる ・ 卒園児や地域の方参加
7 月 30 日 ～ 8 月 1 日	妙義山 林間保育	園 児 1 名 卒園児 小学生 1 名 高校生 1 名	・ 年長児お泊り保育 (群馬県妙義山) ・ ポニーとの触れ合い ・ 畑での野菜収穫 ・ キャンプファイヤー ・ 妙義神社参拝
	老人デーサービス 施設交流会	中止	
10 月 18 日	ファミリースポー ツデー	園児 42 名 保護者 72 名 その他 60 名	・ 運動会
10 月 28 日	秋の遠足 (あおば組)	園児 12 名	・ 芋ほり遠足

10月31日	ハロウィン	園児 40名	・ ハロウィン仮装 ・ 歌 ・ パネルシアター ・ 3～5歳児近隣を回り菓子を貰う
11月5日	焼き芋作り	園児 44名	・ 芋洗いからの焼き芋準備 ・ おやつで食べる
11月14日	七五三参拝	園児 43名	・ 千束八幡神社にて参拝
11月20日	ポニー触れ合い体験	園児 44名	・ ポニーと触れ合う
12月13日	もちつき大会・作品展	園児 41名 保護者 66名 その他 34名	・ 作品鑑賞 ・ もちつき
12月24日	クリスマス会	園児 45名	・ パネルシアター ・ キャンドルサービス ・ 歌 ・ 年長児ハンドベル演奏 ・ ブラックパネルシアター ・ サンタクロース登場 ・ プレゼント
1月17日	観劇会	園児 38名 保護者 14名	・ 劇団による観劇
2月3日	節分・豆まき	園児 36名	・ 歌、手遊び ・ 職員劇 ・ 鬼登場・豆まき
3月7日	発表会	園児 43名 保護者 71名	・ おゆうぎ等
3月13日	お別れピクニック	園児 17名	・ 4. 5歳児遠足
3月28日	卒園式	園児 16名 保護者 18名	・ 卒園式 ・ 在園児代表 4歳児出席

⑥ 保護者懇談会実施実績

子ども達の成長や発達について読み合わせ、行事等の説明を行った。

月 日	懇談会名	参加人数	内 容
4 月 17 日	みつば組	保護者 9 名 職員 4 名	・ 自己紹介（職員・保護者） ・ 入園のしおり
4 月 18 日	わかば組	保護者 7 名 職員 3 名	・ 年間行事予定について ・ 春の遠足について
4 月 21 日	あおば組	保護者 16 名 職員 4 名	（わかば組・あおば組のみ） ・ 園規則
4 月 23 日	ふたば組	保護者 9 名 職員 4 名	・ 連絡事項・質疑応答
7 月 5 日	年長児 林間保育	保護者 9 名 園 児 8 名 職 員 3 名 小学生 1 名 保護者 1 名	・ 林間保育について説明 ・ 「林間保育のしおり」読み合わせ ・ 緊急連絡簿について ・ 緊急避難場所について ・ 持参する薬について ・ 質疑応答
9 月 17 日	わかば組	保護者 6 名 職 員 3 名	・ 子どもの姿 ・ 3～4 歳児の自己主張について ・ ファミリースポーツデーについて ・ 質疑応答
9 月 18 日	あおば組 4 歳児	保護者 7 名 職 員 4 名	・ 子どもの姿 ・ 自己主張とわがままについて ・ ファミリースポーツデーについて ・ 質疑応答
9 月 24 日	みつば組	保護者 10 名 職 員 4 名	・ 子どもの姿 ・ 甘えとわがままについて ・ ファミリースポーツデーについて ・ 質疑応答
9 月 30 日	あおば組 5 歳児	保護者 8 名 職 員 4 名	・ 子どもの姿 ・ 就学について ・ ファミリースポーツデーについて ・ 質疑応答
10 月 3 日	ふたば組	保護者 11 名 職 員 4 名	・ 子どもの姿 ・ 自己主張について ・ ファミリースポーツデーについて ・ 質疑応答

1月9日	年長児 卒園	保護者 8名 職員 4名	・交通安全・防犯について ・就学前に親子で準備しておいた方が 良い事 ・保育所児童保育要録について ・質疑応答
2月25日	みつば組	保護者 9名 職員 4名	・子どもの姿 ・1年を振り返って（職員・保護者） ・進級について ・発表会について ・質疑応答
3月4日	ふたば組	保護者 12名 職員 5名	・子どもの姿 ・1年を振り返って（職員・保護者） ・進級について ・発表会について ・質疑応答
3月11日	あおば組	保護者 14名 職員 4名	・1年を振り返って（職員・保護者） ・お別れピクニックについて ・卒園式について ・進級について ・質疑応答
3月13日	わかば組	保護者 7名 職員 3名	・1年を振り返って（職員・保護者） ・進級について ・質疑応答

7.安全管理関係

月一回の災害・消火訓練を行った。その他にも引渡し訓練や紙芝居、毎回子どもたちに「おかしもち」の確認を行い、防災意識を高め、習慣化する。

①災害訓練実施実績

	4 ／ 17	5 ／ 27	6 ／ 24	7 ／ 15	8 ／ 14	9 ／ 25	10 ／ 9	11 ／ 13	12 ／ 11	1 ／ 8	2 ／ 19	3 ／ 12	合 計
訓練 種別	地震 ・ 初期	火災 ・ 初期	火災 ・ 初期	火災 ・ 初期	地震 ・ 初期	地震 ・ 初期	火災 ・ 初期	地震 ・ 初期	火災 ・ 地震 ・ 初期	地震 ・ 初期	地震 ・ 初期	地震 ・ 初期	

	消 火	消 火	消 火	消 火	消 火	消 火	消 火	消 火	初 期 消 火	消 火	消 火	消 火	
園児	31	37	40	42	26	43	41	42	41	40	31	29	443
職員	12	12	12	13	10	14	15	12	8	13	7	10	138
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	43	49	52	55	36	57	56	54	49	53	38	39	581

②その他の訓練等実施実績

緊急連絡テストメールを行う。園庭へ避難し、保護者への引渡し訓練を行った。

※災害記録簿、自衛消防計画、任務と編成参照

日 付	内 容	時 間	参加者数
9月25日	保護者引渡し訓練	10:15～11:00	園児43名

③設備等点検実施実績

日 付	点 検 事 項	実 施 者
7月25日	消防設備点検	大渡防災設備
1月24日	消防設備点検	大渡防災設備

8.自主事業関係

① パートナー保育登録事業実績

登録者数 0世帯

② 緊急一時保育実施実績（出産等での利用）

利用者なし

③ 年末保育実施実績

日 付	ふたば	みつば	わかば	あおば	園児外	合計
12月29日	0名	0名	0名	0名	0名	0名
12月30日	0名	0名	0名	0名	0名	0名

④ 育児講座実施実績

新規登録者も増えたが、リピーターの方が多く参加頂けた。参加者同士で親交を深める姿があり、地域に貢献できている。

日 付	内 容	参加人数
11 月 8 日	講演 「“つい、叱ってしまう”は減らそう ーイヤイヤ期から学童期ー」 NPO 法人子ども家庭リソースセンター 永田 陽子氏	保護者 14 名

9.実習生・ボランティア・小中学生受入関係

①実習生受入実績

期 間	日 数	人 数
7 月 4 日	1 日	1 名
9 月 4 日～9 月 18 日	11 日	1 名
2 月 4 日～2 月 18 日	11 日	1 名

10.中長期計画、施設設備整備関係

①パソコン7台 入替

11.苦情解決・対応について

- ① 苦情解決・対応について 4 月の懇談会時に資料（入園のしおり）配布し説明する。また、玄関先に投書箱の設置やホームページ内に掲示板を設置し、広く受付を実施している。

・ 苦情等を解決するための体制

苦情等解決責任者 園 長

苦情等受付担当者 主任保育士

副主任保育士

第三者委員 2 名

- ② 苦情の申し出は無く、日々の送迎時に保護者とは良く各担任が会話を多く持っている。

苦情の件数	0 件
-------	-----

12.危機管理、ヒヤリハットについて

各クラスで月 1 回集計。職員会議や各部会議でのまとめ、振り返る。

※ヒヤリハット集計表参照